

ALTUS

Opus Kura

Tokyo FM

KING INTERNATIONAL

SPECTRUM SOUND

BERLINER
PHILHARMONIKER
RECORDINGS

Others

Promotion by KING INTERNATIONAL INC.

vol.

2

LPの手帖

2018 CATALOG LP Records

The World of Delius

【特集】 イギリス音楽の伝道者 評論家 三浦淳史と ディーリアスの世界

単行本未収録 楽曲解説集

Talk Session

第2回:カートリッジのダンパーと、重量盤の話

LPの手帖

来生たかお
Takao Kisugi

来生たかおのセルフカバーベストが限定生産 LP で登場！
オーケストラ伴奏が心にしみる名曲の数々、豊穣と哀愁のノスタルジーサウンド。

夢のあとさき (オーケストラバージョン) LP2枚組

収録曲：全13曲 (約73分)

- LP1 SideA**
1. 夢の途中 渡辺俊幸 編曲 *
 2. シルエット・ロマンス 渡辺俊幸 編曲 *
 3. 流れる… 渡辺俊幸 編曲 *
- SideB**
1. いとしいあした 渡辺俊幸 編曲 *
 2. 思い出の時差 (バンドアレンジ) 紺野紗衣 編曲 **
 3. 余白の街 渡辺俊幸 編曲 *
- LP2 SideA**
1. セカンド・ラブ 渡辺俊幸 編曲 *
 2. 針の雨 渡辺俊幸 編曲 *
 3. マイ・ラグジュアリー・ナイト 渡辺俊幸 編曲 *
- SideB**
1. 涼しい影 (バンドアレンジ) 紺野紗衣 編曲 **
 2. Goodbye Day 渡辺俊幸 編曲 *
 3. 風と共に去りぬ 渡辺俊幸 編曲 *
 4. 浅い夢 (アコースティックアレンジ) 紺野紗衣 編曲 (萩田光雄元 編曲) ***



演奏者：

- * 渡辺俊幸(指揮) 東京フィルハーモニー交響楽団、紺野紗衣(Pf)、則竹裕之(Dr)
 ** 渡嘉敷祐一(Dr)、斉藤光隆(W.Bass)、伊丹雅博(Gt)、倉田信雄(Pf)、RUSH by TAKASHI KATO(Strings)、加藤高志(Vn)
 *** 紺野紗衣(Pf)、TAIRIKU(Vn)、KENTA(Vn)

完全限定生産 ANOG 0497 (2LP) / 定価 ¥8,200 + 税 33 1/3rpm 歌詞カード付

オリコン来生たかおアルバム売上ランキング10位にも登場した、歌手活動40周年アルバム「セルフカバーベスト 夢のあとさき」にオーケストラバージョンLPが登場。東京フィルハーモニー交響楽団のフルオーケストラ演奏と来生たかおの不朽のメロディが織りなす豊穣と哀愁のノスタルジーサウンドを盤に刻みました。オリジナルアルバム(ANOC-6173)のDisc1収録曲を丸ごとおさめた本作。LPならではの新鮮なリスニング体験をお楽しみください。

【来生たかお プロフィール】

本名/来生孝夫
 1950年11月16日生まれ 星座/蠍座 血液型/O型
 1976年、シングル「浅い夢」でデビュー。
 1981年、「夢の途中」および、そのタイトル違いである葉師丸ひる子(歌)の「セーラー服と機関銃」が映画音楽(テーマソング)として大ヒット。
 1983年には、中森明菜が歌った「セカンド・ラブ」の作曲により、日本作曲大賞で大賞を受賞。
 美空ひばり、五木ひろし、松田聖子など、超大大物、実力派、アイドルまで幅広く楽曲を提供し続ける一方、自身のコンサート・ツアーなども精力的にこなす、実力派シンガー・ソング・ライターである。

2018 CATALOG LP Records

ALTUS	04
Opus Kura	26
Tokyo FM	27
KING INTERNATIONAL	32
SPECTRUM SOUND	34
BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS	41
Others その他輸入盤	46

The World of Delius

【特集】

イギリス音楽の伝道者
評論家 三浦淳史と
ディーリアスの世界

単行本未収録 楽曲解説集	67
--------------	----

Talk Session 第2回:カートリッジのダンパーと、重量盤の話	101
-------------------------------------	-----

ALTUS

アルトゥス・ミュージック

貴重な歴史的録音の発掘を中心とする、ヒストリカル・ファンに人気のレーベルです。ELECT RECORD、MELOCLASSIC、PROFIL、TAHRA、TOBU RECORDINGS、WEITBLICKといった他レーベルのライセンスによるLP化も進めています。
(品番:ELECTLP、MELOLP、PHLP、TBRLP、TALTLP、WEITLP)

Altus



ALTLP001/10 (10LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ウィーン芸術週間 1960
ベートーヴェン:交響曲全曲演奏会
[LP1] 交響曲第1番 ハ長調Op.21(6月7日)、「エグモント」序曲Op.84(5月31日)
[LP2] 交響曲第2番 ニ長調Op.36(5月29日)、「プロメテウスの創造物」序曲Op.43(6月2日)
[LP3&4 A面] 交響曲第3番 変ホ長調Op.55「英雄」(5月29日)
[LP5] 交響曲第4番 変ロ長調Op.60(5月31日)、「コリオラン」序曲Op.62(6月4日)
[LP6] 交響曲第5番 ハ短調Op.67「運命」(5月31日)
[LP7] 交響曲第6番 ヘ長調Op.68「田園」(6月2日)
[LP8] 交響曲第7番 イ長調Op.92(6月2日)
[LP4 B面] 交響曲第8番 ヘ長調Op.93(6月4日)
[LP9&10] 交響曲第9番 ニ短調Op.125「合唱」(6月7日)

オットー・クレンペラー(指揮)
フィルハーモニア管弦楽団

1960年 ムジークフェラインザール、ライヴ
●圧倒的大成功をおさめた1960年ウィーン芸術週間ライヴ! クレンペラーならではの緊張感が凄い。



ALTLP011/8 (8LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ブルックナー:交響曲第8番 ハ短調
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
ライヴ録音:1990年10月20日、サントリーホール
ブルックナー:交響曲第5番 変ロ長調
[LP3 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP4 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
ライヴ録音:1986年10月22日、サントリーホール
シューマン:交響曲第4番 [LP5 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」[LP6 A/B面]
ドヴォルザーク:スラヴ舞曲第8番 [LP7 A面]
ライヴ録音:1986年10月14日、人見記念講堂(東京)
ロッシニ:「どろぼうかさざぎ」序曲 [LP7 A面]
ブラームス:ハンガリー舞曲第1番 [LP7 A面]
ヨハン&ヨーゼフ・シュトラウス:ピツィカートポルカ [LP7 A面]
R.シュトラウス:交響詩「死と変容」[LP7 B面]
ブラームス:交響曲第4番 [LP8 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ライヴ録音:1986年10月15日、東京文化会館

セルジュ・チェリビダッケ(指揮)
ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

●初LP化! チェリビダッケ&ミュンヘン・フィル東京ライヴ集成。繊細かつ強烈な美演が堪能できます。



ALTLP019/20 (2LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1] ベルリオーズ:幻想交響曲
[LP2 A面] ストラヴィンスキー:レクイエム・カンティクルス*
[LP2 B面] ドビュッシー:「海」

シャルル・ミュンシュ(指揮)
パリ管弦楽団
エリザベート・ブラッスール合唱団
ドゥニーズ・シャリーイ(コントラルト)
ピエール・トー(バス)*

ライヴ録音:1967年11月14日 シャンゼリゼ劇場
●ミュンシュのバリ管デビュー公演が待望の初LP化。壮絶なる「幻想」「海」。オーディオ的にも迫力十分!



ALTLP021/6 (6LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1] ベートーヴェン:交響曲第4番(録音:1973年)
[LP2] ブラームス:交響曲第4番(録音:1973年)
[LP3] チャイコフスキー:交響曲第5番(録音:1982年)
[LP4&5 A面] ブルックナー:交響曲第9番(録音:1980年)
[LP5 B面] プロコフィエフ:「ロメオとジュリエット」組曲第2番より(録音:1982年)
[LP6] ショスタコーヴィチ:交響曲第5番(録音:1973年)

エフゲニー・ムラヴィンスキー(指揮)
レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団

●ブラームスを除き全て初LP化! 緊迫の「革命」他、73年から82年にかけてのレニングラード・ライヴ選集。



ALTLP027/34 (8LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1&2] ブルックナー:交響曲第7番
[LP3] モーツァルト:交響曲第33番 変ロ長調 K.319
[LP4] ベートーヴェン:「エグモント」序曲Op.84
〜リハーサル「エグモント」序曲
〜リハーサル交響曲第6番「田園」Op.68
〜ヨッフム86年9月最後のインタビュー
[LP5] ベートーヴェン:交響曲第6番「田園」Op.68
[LP6] ベートーヴェン:交響曲第7番 イ長調 Op.92
[LP7&8] ブルックナー:交響曲第8番ハ短調

オイゲン・ヨッフム(指揮)
[LP1-3] ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団
[LP4-8] パンベルク交響楽団

ライヴ録音:[LP1-3] 1986年9月17日 昭和女子大学人見記念講堂、[LP4-6] 1982年9月16日 東京文化会館、[LP7&8] 1982年9月15日 NHKホール
●ヨッフム最晩年、至高の日本公演の記録が待望の初LP化。解説書のインタビューも充実。



ALTLP035/41 (7LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社(日本)

フルトヴェングラー戦後ライヴ集成
 [LP1&2]①ベートーヴェン:交響曲第9番ニ短調「合唱」Op.125
 イルムガルト・ゼーフリート(ソプラノ)ロゼット・アンダイ(アルト)アントン・デルモータ
 (テノール)バウル・シェフラー(バリトン)ウィーン楽友協会合唱団
 [LP3&4]②ベートーヴェン:交響曲第3番変ホ長調「英雄」Op.55
 [LP5]③ブラームス:交響曲第1番ハ短調Op.68
 [LP6]④ブラームス:ヴァイオリン、チェロとオーケストラのための二重協奏曲イ短調
 Op.102 ウィリー・ボスコフスキー(ヴァイオリン)エマヌエル・プラベツ(チェロ)
 [LP7]⑤ブラームス:ハイドンの主題による変奏曲Op.56a
 ⑥マーラー:さすらう若人の歌 アルフレード・ペル(バリトン)

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①1953年5月30日、②1952年11月30日、③④⑤1952年1月27日、⑤
 1952年11月30日 楽友協会大ホール、ウィーン(連合国オーストリア進駐軍放送＝
 ロートヴァイスロート(赤白赤)放送集団によるライヴ録音)
 ●ボスコフスキーの美音も輝く! ウィーン・フィル・アーカイブの正規音源蔵出しオリジ
 ナルテープよりLP化!



ALTLP042/8 (7LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社(日本)

ブルックナー:
 ①交響曲第3番ニ短調(1889年)
 [LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
 ②交響曲第8番ハ短調
 [LP3 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP4 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
 ③R.シュトラウス:アルプス交響曲 Op.64
 [LP5 A面:「夜一日の出」から「幻」前半まで B面:「幻」後半から最後まで]
 ④シュベルト:交響曲第8(9)番 ハ長調「グレイト」D.944
 [LP6 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
 ⑤R.シュトラウス:交響詩「死と変容」[LP7 A面]
 ⑥シューマン:交響曲第4番 ニ短調Op.120[LP7 B面]

ハンス・クナッパーツブッシュ(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①1960年2月14日、②1961年10月29日、③1952年4月20日、④1957
 年10月27日、⑤⑥1962年12月16日 楽友協会大ホール(モノラル)
 ●ウィーン・フィルのアーカイブのオリジナルマスターにてLP化! 名演の誉れ高い「グ
 レイト」他。

ベートーヴェン:
 [LP1]
 ①交響曲第1番 ハ長調 Op.21(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
 ②「コリオラン」序曲(B面)
 [LP2&3]
 ③交響曲第3番 変ホ長調「英雄」Op.55
 (LP2 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP3 A面:第3楽章 B面:第4楽章)
 [LP4&5]
 ④交響曲第9番 ニ短調「合唱付き」Op.125
 (LP4 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP5 A面:第3楽章 B面:第4楽章)

カール・シュリーヒト(指揮) フランス国立放送管弦楽団
 ④アグネス・ギーベル(ソプラノ) マルガ・ヘフゲン(アルト)
 ラグナー・ウルフング(テノール) エドゥアルト・ヴォリッツ(バス)
 フランス国立放送合唱団

ライヴ録音:①④1965年6月15日、②1959年3月24日 シャンゼリゼ劇場(パリ)③
 1963年5月14日 サル・ブレイエル(パリ)
 ●ラジオ・フランスによる完全ステレオ録音、ベートーヴェン交響曲ライヴ集成! LP初
 登場。



ALTLP054/6 (3LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



ALTLP057/62 (6LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



ALTLP063/4 (2LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



ALTLP065/6 (2LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)

①メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調Op.64
 [LP1 A面:第1,2楽章 B面:第3楽章]
 ②シューマン:「マンフレッド」序曲 Op.115[LP1 B面]
 ③ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第3番 ハ短調Op.37
 [LP2 A面:第1楽章 B面:第2,3楽章]
 ④ブラームス:交響曲第4番 ホ短調Op.98[LP3 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]

カール・シュリーヒト(指揮) フランス国立放送管弦楽団
 ①アルテュール・グリミオー(ヴァイオリン)
 ③クラウディオ・アラウ(ピアノ)

ライヴ録音:①②1963年5月14日 サル・ブレイエル(パリ)、③④1959年3月24日 シヤ
 ンゼリゼ劇場(パリ)
 ●グリミオーとシュリーヒトによる絶品のメンデルスゾーン収録! 貴重な全ステレオ・
 ライヴ集。

ブルックナー:
 ①交響曲第5番 変口長調
 [LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
 ②交響曲第8番 ハ短調
 [LP3 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP4 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
 ③交響曲第9番 ニ短調 [LP5 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP6 A面:第3楽章]
 ④シュベルト:交響曲第5番 変口長調 D.485 [LP6 B面]

カール・シュリーヒト(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①1963年2月24日、②1963年12月7日、④1965年4月24日 楽友協会大
 ホール(ウィーン)、③1955年3月17日 ウィーン・コンツェルトハウス大ホール(ウィーン)
 ●これぞ高踏派の至芸。幽玄にして千変万化! VPOとのブルックナー・ライヴ集成。
 オリジナルマスターより初LP化。

スメタナ:連作交響詩「わが祖国」
 [LP1]
 A面:交響詩《ヴィシェフラド》B面:交響詩《モルダウ》、《シャルカ》
 [LP2]
 A面:交響詩《ボヘミアの森と草原から》B面:交響詩《ターボル》《プラニーク》

ラファエル・クーベリック(指揮)
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:1991年11月2日サントリーホール(NHK収録)
 ●1991年サントリーホール、クーベリック最後の来日演奏会! チェコ・フィルとの空
 前絶後の「わが祖国」。

ベートーヴェン:
 [LP1]
 ①交響曲第6番 ヘ長調「田園」Op.68(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
 [LP2]
 ②交響曲第5番 ハ短調「運命」Op.67(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
 ③レオノーレ序曲第3番 Op.72b(B面)

カール・ベーム(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

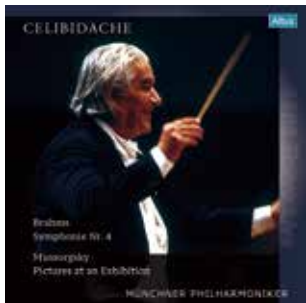
ライヴ録音:1977年3月2日 NHKホール(東京)
 ●(田園)「感謝の歌」がまた泣けてくる。あまりの美しさと立派さに、心底しびれる。
 凄い演奏だ。一字野功芳―

**ALTLP067/8 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP069/70 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP071/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP073/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:

[LP1]

①交響曲第2番 ニ長調 Op.36 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

[LP2]

②交響曲第7番 イ長調 Op.92 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

カール・ベーム(指揮)**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:1980年10月6日 昭和女子大学人見記念講堂(東京)

●巨匠カール・ベーム&ウィーン・フィル、1980年最後の来日演奏会。立派。実に立派。掛け値なしの名演。

ブルックナー:交響曲第5番 変ロ長調

[LP1]A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2]A面:第3楽章 B面:第4楽章

セルジュ・チェリビダッケ(指揮)**ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:1986年10月22日 サントリーホール

●チェリならではの磨き抜かれた美音。音質も優秀、圧倒的スケールで迫るベストセラー演奏がLP化!

[LP1]

①ムソルグスキー(ラヴェル編):組曲「展覧会の絵」

[LP2]

②ブラームス:交響曲第4番 ホ短調Op.98 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

セルジュ・チェリビダッケ(指揮)**ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:①1986年10月14日 人見記念講堂(東京)、②1986年10月15日 東京文化会館

●十八番の「展覧会の絵」に、チェリの掛け声がこだまする壮絶コードが圧巻のブラームス4番。これは壮絶。

ブルックナー:交響曲第8番 ハ短調

[LP1]A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2]A面:第3楽章 B面:第4楽章

セルジュ・チェリビダッケ(指揮)**ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:1990年10月20日 サントリーホール

●天空をゆく名演! 怪物ティンパニスト、ペーター・ザードロの実力を日本中に知らしめた有名演奏のLP化。

**ALTLP075/84 (10LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:交響曲全集

[LP1] 交響曲第1番 ハ長調Op.21

[LP2] 交響曲第2番 ニ長調Op.36

[LP3&4] 交響曲第3番 変ホ長調「英雄」Op.55、交響曲第8番 ヘ長調Op.93

[LP5] 交響曲第4番 変ロ長調 Op.60

[LP6] 交響曲第5番 ハ短調「運命」Op.67

[LP7] 交響曲第6番 ヘ長調「田園」Op.68

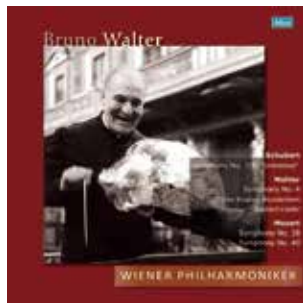
[LP8] 交響曲第7番 イ長調Op.92

[LP9&10] 交響曲第9番 ニ短調「合唱付き」Op.125(ドイツ語)

ロヴロ・フォン・マタチッチ(指揮)**ミラノ・イタリア放送交響楽団****エディット・ケルテス=ガブリ(ソプラノ)****アリス・エルケ(コントラルト)****アンドール・カボシー(テノール)****イヴァン・サルディ(バス)****ミラノRAI合唱団****ジュリオ・ベルトーラ(合唱指揮)**

ライヴ録音:[第3番]1962年11月19日、[第1&2番]1962年11月23日、[第6番]1962年11月29日、[第5番]1962年11月30日、[第4番]1962年12月3日、[第7&8番]1962年12月4日、[第9番]1962年12月12日 ミラノ音楽院、大ホール(イタリア放送協会録音)

●マタチッチ唯一のベト全、初LP化! 完全限定生産200セット、アナログマスターテープを制作した上でのカットイング。

**ALTLP085/8 (4LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1 A面]

①シューベルト:交響曲第7(8)番 ロ短調「未完成」D.759

[LP1 B面]

②マーラー:子供の魔法の角笛〜第9番「トランペットが美しく鳴り響くところ」、リュッケルト歌曲集より〜第4番「私は仄かな香りを吸い込んだ」

[LP2&3]

③マーラー:交響曲第4番ト長調

[LP4 A面]

④モーツァルト:交響曲第38番 ニ長調「プラハ」

[LP4 B面]

⑤モーツァルト:交響曲第40番ト短調

ブルーノ・ワルター(指揮)**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

③エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)

録音:①-③ワルター 告別演奏会1960年5月29日 ムジークフェラインザール ④1955年11月6日 ロートヴァイスロート放送集団 ⑤1956年6月24日 オーストリア放送協会、ムジークフェライン黄金のホール
●オリジナルマスターテープから待望の初LP化。ワルターの告別演奏会にモーツァルト・プログラムも追加。戦後ワルター&VPOの集大成。**ALTLP089/90 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ブラームス:

[LP1] 交響曲第1番 ハ短調 Op.68

[LP2] 交響曲第4番 ホ短調 Op.98

[LP1] カール・ベーム(指揮)**[LP2] カール・シューリヒト(指揮)****ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:[LP1]1954年11月6日 楽友協会大ホール(ウィーン) [LP2]1965年4月24日 楽友協会大ホール(ウィーン)

●VPOを代表するブラームスのライヴ2種がついに初LP化! シューリヒトの4番終楽章では5秒のパウゼに仰天!

**ALTLP091/3 (3LP)**

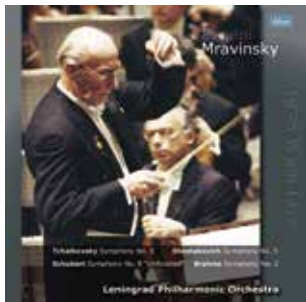
プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP094/5 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP096/7 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP098/101 (4LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1]

ベートーヴェン:交響曲第4番変ロ長調

[LP2&3 A面]

ショスタコーヴィチ:交響曲第5番「革命」

[LP3 B面]

リャードフ:「バーバ・ヤーガ」

グラスノフ:バレエ音楽「ライモンダ」より第3幕への間奏曲

エフゲニー・ムラヴィンスキー(指揮)**レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団**

ライヴ録音:1973年5月26日 東京文化会館大ホール

●最高音質のステレオ、最高の演奏。ムラヴィンスキー伝説の初来日東京ライヴ、オリジナルテープより初LP化!

ブルックナー:交響曲第7番ホ長調(ハース版)

[LP1]A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2]A面:第3楽章 B面:第4楽章

朝比奈隆(指揮)**大阪フィルハーモニー交響楽団**

ライヴ録音:1975年10月12日 ザンクト・フローリアン修道院マルモアザール(オーストリア)

●ブルックナーの眠る聖地ザンクト・フローリアン修道院での伝説的ライヴ。話題の完全収録盤、待望のLP化!

ブルックナー:交響曲第8番 ハ短調(ハース版)

[LP1]A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2]A面:第3楽章 B面:第4楽章

ギュンター・ヴァント(指揮)**ハンブルク北ドイツ放送交響楽団**

ライヴ録音:1990年11月3日 サントリーホール(東京)

●「その音楽の緻密さスイス時計のごとし」と云われる名人芸を聴かせさらに大迫力の音響で会場を圧したヴァントの名盤中の名盤をLP化!

チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 Op.64 [LP1]

ショスタコーヴィチ:交響曲第5番 二短調 Op.47 [LP2&LP3 A面]

シュベルト:交響曲第7(8)番 ロ短調 D.759 [LP3 B面]

ブラームス:交響曲第2番 二長調 Op.73 [LP4]

エフゲニー・ムラヴィンスキー(指揮)**レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団**

収録:1978年6月12&13日 ウィーン芸術週間におけるライヴ録音

●ムラヴィンスキーの末亡人所蔵音源を用いたウィーン芸術週間ライヴが衝撃のLP化。神憑りの名演!!

**ALTLP102/4 (3LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP108/9 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP110/2 (3LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ALTLP113/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1 A面]

ベートーヴェン:「エグmont」序曲 Op.84

[LP1 B面&LP2]

ベートーヴェン:交響曲第6番 へ長調 Op.93「田園」

[LP3]

ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 Op.67「運命」、

ケーゲルによるアンコール曲目紹介、

J.S.バッハ:アリア〜管弦楽組曲第3番 二長調 BWV1068より

ヘルベルト・ケーゲル(指揮)**ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団**

収録:1989年10月18日 サントリーホールにおけるライヴ録音

●「この夜ほど美しく歌ったことはない」許光俊氏も絶賛! 東ドイツに殉じた指揮者ケーゲル最期の来日演奏会。

ハイドン:交響曲第48番ハ長調「マリア・テレジア」Hob.I:48 [LP1 A面]

ベートーヴェン:交響曲第3番変ホ長調「英雄」Op.55

[LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]

リッカルド・ムーティ(指揮)**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1992年6月21日 ムジークフェラインザール(オーストリア放送協会によるライヴ録音)

●ウィーン・フィル創立150周年のウィーン音楽祭の千秋楽ライヴ。ヘッツェル時代の最後を飾る輝かしい美音!

ベートーヴェン:

交響曲第4番変ロ長調 Op.60 [LP1 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]

交響曲第3番変ホ長調「英雄」Op.55

[LP2 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP3 A面:第3楽章 B面:第4楽章]

カルロ・マリア・ジュリーニ(指揮)**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1994年5月17日 ムジークフェラインザール(オーストリア放送協会によるライヴ録音)

●ジュリーニ晩年の境地、クレンペラーもかくやのテンポで繰り広げられる大河の如き重量級ベートーヴェン。

シューマン:

[LP1]

ピアノ協奏曲イ短調 Op.54 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

[LP2]

交響曲第2番ハ長調 Op.61 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

[LP1]マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)**セルジュ・チェリビダッケ(指揮)****フランス国立放送管弦楽団**

録音:[LP1]1974年5月29日、[LP2]1974年2月27日 シャンゼリゼ劇場(ライヴ)

●当時33歳のアルゲリッチがチェリビダッケと繰り広げた伝説のシューマン! 魔術全開、燃えたぎる空前演奏。



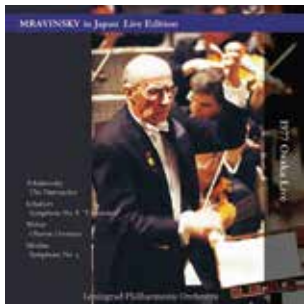
ALTLP115/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP117/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP119/21 (3LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP122/3 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)

[LP1]
ドヴォルザーク:チェロ協奏曲短調 Op.104 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2]
シューベルト:『ロザムンデ』序曲 D.797 (A面)
交響曲第8番短調『未完成』 D.759 (B面)

**[LP1] ビエール・フルニエ (チェロ)
セルジュ・チェリビダッケ (指揮)
フランス国立放送管弦楽団**

録音:[LP1] [LP2 A面] 1974年10月2日、[LP2 B面] 1974年9月17日 シャンゼリゼ劇場 (ライブ)
●オーケストラから壮大な響きを引き出すチェリビダッケに、松脂飛び散る迫真の美音で攻めるフルニエのチェロ!

[LP1]
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番変ホ長調『皇帝』 Op.73
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2]
ブラームス:悲劇的序曲 Op.81、交響曲第3番ハ長調 Op.90 第1楽章 (A面)
交響曲第3番ハ長調 Op.90 第2,3,4楽章 (B面)

**[LP1] アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ (ピアノ)
セルジュ・チェリビダッケ (指揮)
フランス国立放送管弦楽団**

録音:[ピアノ協奏曲、悲劇的序曲] 1974年10月16日、[交響曲] 1974年2月15日 シャンゼリゼ劇場 (ライブ)
●ミケランジェリ×チェリビダッケの『皇帝』! 美しさ、迫力、緊張感が高次元で融合。真実掛け値なしの素晴らしさ。

ムラヴィンスキー／レニングラード・フィル 1977年来日ライブ・エディション
[LP1] チャイコフスキー:交響曲第5番ホ短調 Op.64 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2] シベリウス:交響曲第7番ハ長調 Op.105 (A面)
ワーグナー:歌劇『タンホイザー』序曲、楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕前奏曲 (B面)
[LP3] ブラームス:交響曲第2番ニ長調 Op.73 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

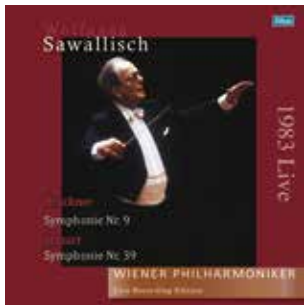
**エフゲニー・ムラヴィンスキー (指揮)
レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:[LP1] [LP2 A面] 1977年10月19日 NHKホール (ライブ、ステレオ録音)、[LP2 B面] [LP3] 1977年9月27年 東京文化会館 (ライブ、ステレオ録音)
●恐ろしいまでの合奏能力、唸る金管、切れ味抜群の弦。ムラヴィンスキー3度目の来日、77年東京ライブ集成!

ムラヴィンスキー／レニングラード・フィル 1977年来日ライブ・エディション2
[LP1] チャイコフスキー:バレエ音楽『くるみ割り人形』 Op.71より
A面:第6~9曲 (招待客の帰宅、夜／くるみ割り人形とねずみの王様の戦い／冬の松の森で／雪片のワルツ)、B面:第14,15曲 (金平糖の精と王子のバド・ドウ／終幕のワルツ)、ウェーバー:歌劇『オベロン』序曲
[LP2 A面] シューベルト:交響曲第7(8) 番短調『未完成』 D.759
[LP2 B面] [ボーナス] シベリウス:交響曲第3番ハ長調 Op.52

**エフゲニー・ムラヴィンスキー (指揮)
レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団**

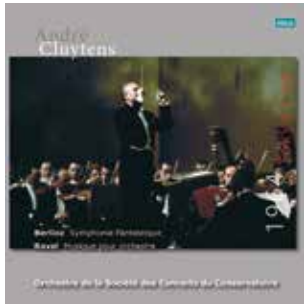
録音:[LP1] [LP2 A面] 1977年10月8日 大阪フェスティバル・ホール (ライブ、ステレオ)、[LP2 B面] 1963年10月27日 レニングラード・フィルハーモニー・ホール (ライブ、モノラル)
●ムラヴィンスキーの77年大阪公演が遂にLP化! 伝説として語り継がれる超絶演奏。幻のシベ3をボーナス収録!



ALTLP124/5 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP126/7 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP128/30 (3LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)



ALTLP131/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社 (日本)

サヴァリッシュ／ウィーン・フィル 1983年ザルツブルク・ライヴ
モーツァルト:交響曲第39番変ホ長調 K.543 [LP1 A面]
ブルックナー:交響曲第9番ニ短調
[LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2楽章 B面:第3楽章]

**ヴォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1983年8月10日 ザルツブルク祝祭大劇場 (オーストリア放送協会によるライブ、ステレオ)
●絶頂期サヴァリッシュとウィーン・フィルのザルツブルク音楽祭ライブが火の玉の如き熱演を展開。

ヨッフム／ウィーン・フィル 1981年カール・ベーム追悼演奏会
[LP1]
モーツァルト:フリーメイソンのための葬送音楽 K.477 (A面)、
交響曲第41番ハ長調『ジュピター』 K.551 (A面:第1楽章 B面:第2-4楽章)
[LP2]
ブラームス:交響曲第2番ニ長調 Op.73 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

**オイゲン・ヨッフム (指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1981年9月20日 ウィーン、楽友教会大ホール (オーストリア放送協会によるライブ、ステレオ)
●巨匠ヨッフムとウィーン・フィルによる伝説的な「ベーム追悼コンサート」の全てを収録! 白熱のプラ2が凄!

クリュイタンス／バリ音楽院、ただ一度の来日ライブ集成
[LP1] ビゼー:「アルルの女」第2組曲より『ファランドール』 (A面)
ベルリオーズ:幻想交響曲 Op.14 (A面:第1,2楽章 B面:第3-5楽章)
[LP2] ラヴェル:スペイン狂詩曲、ラ・ヴァルス (A面)
マ・メール・ロワ、亡き王女のためのパヴァーヌ (B面)
[LP3] ラヴェル:クーブランの墓 (A面)
『ダフニスとクロエ』第2組曲、ベルリオーズ:ラコッツィ行進曲 (B面)

**アンドレ・クリュイタンス (指揮)
バリ音楽院管弦楽団**

録音:[LP1] 1964年5月10日 東京文化会館 (ステレオ)、[LP2,3] 1964年5月7日 東京文化会館 (モノラル)
●官能と気品が混ざり合う濃厚な香り! 今や失われたバリ音楽院「純正フランス」の味わい。宇野功芳氏の解説も必読。

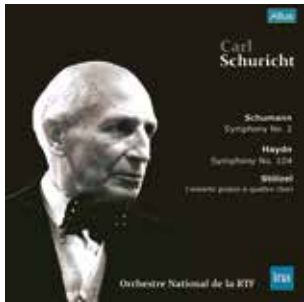
ミュンシュ&パリ管 デビュー・コンサート
ドビュッシー:交響詩『海』 [LP1 A面]
ベルリオーズ:幻想交響曲 Op.14
[LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2,3楽章 B面:第4,5楽章]

**シャルル・ミュンシュ (指揮)
パリ管弦楽団**

録音:1967年11月14日 バリ、シャンゼリゼ劇場 (ライブ、ステレオ) 音源提供:国立フランス視聴覚研究所
●「大爆発、驚天動地、未曾有、空前絶後—こうした言葉をいくつ並べてもこの演奏の凄さを言い表すのに十分ではない—」平林直哉



ALTLP133/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



ALTLP135/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



ALTLP137/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

テンシュテット&ウィーン・フィル、一期一会の大演奏会
ベートーヴェン:交響曲第3番 変ホ長調『英雄』Op.55
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3,4楽章]
マーラー:交響曲 第10番より アダージョ[L2P2 B面]

クラウス・テンシュテット(指揮) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

録音:1982年8月29日 ザルツブルク、祝祭劇場(オーストリア放送協会によるライブ録音、ステレオ)
●テンシュテットが生涯ただ一度ウィーン・フィルを振った空前絶後の大演奏会を初LP化。最新リマスタリングにより音質も十全。

シューマン:交響曲第2番 ハ長調 Op.61
[LP1 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ハイドン:交響曲第104番 二長調『ロンドン』
[LP2 A面:第1-3楽章 B面:第4楽章]
シュテルツェル:4つの合奏体のための合奏協奏曲 二長調 [LP2 B面]

カール・シューリヒト(指揮) フランス国立管弦楽団

録音:1955年秋(シューマン、ハイドン)、1959年9月17日(シュテルツェル) モントルー音楽祭でのライブ録音(モノラル)
●シューマンとハイドンはかつてのエラート盤を超える音質。ヘンデル的祝祭感と暗い音調が混じり合う秘曲シュテルツェルは初LP化!

バックハウス／伝説のブザンソン・リサイタル1959
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ集
[LP1 A面]ピアノ・ソナタ第7番二長調 Op.10-3
[LP1 B面]ピアノ・ソナタ第6番ハ長調 Op.10-2、
ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調『月光』Op.27-2
[LP2]ピアノ・ソナタ第29番変ロ長調『ハンマークラヴィア』Op.106
(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヴィルヘルム・バックハウス(ピアノ)

録音:1959年9月16日 ブザンソン音楽祭でのライブ(モノラル)
●INA正規オリジナル・テープよりLP化! ベートーヴェン弾き・バックハウスの面目躍如といった最高のプログラム!



ALTLP139/40 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

諏訪根自子 コロムビア録音全集
[LP1 A面]
ドヴォルザーク:ユーモレスク*(Rec: 1933/8/22 SP No.27575)
ドルドラ:思い出(Rec: 1933/8/22 SP No. 27641)
クライスラー:「ブニャーニの形式による前奏曲とアレグロ」より アレグロ*(Rec: 1933/8/22 SP No.27575)
ゴダーレ:ジョスランの子守歌*(Rec: 1933/8/22 SP No.27609)
リース:無窮動*(Rec: 1933/10/3 SP No.27609)
フィオリロ:カプリス(Rec: 1933/10/3 SP No.27641)
[LP2 B面]
チャイコフスキー:アンダンテ・カンタービレ(Rec: 1934/12/5 SP No.28141)
マリネ:金婚式(Rec: 1934/12/5 SP No.28141)
フォーレ:夢のあとに(Rec: 1934/12/12 SP No. 28185)
ドリゴ:セレナード(Rec: 1934/12/12 SP No.28185)
サラサーテ:アンダルシアのロマンス(Rec: 1934/12/20 SP No.28225)
キューイ:オリエンタル(Rec: 1934/12/20 SP No.28225)
マスネ:タイスの瞑想曲(Rec: 1935/1/27 SP No. 28298)
[LP2 A面]
サン＝サーンス:白鳥(Rec: 1935/1/27 SP No. 28298)
シュベルト:セレナード(Rec: 1935/3/6 SP No.28383)
J.S.バッハ:ガヴォット(Rec: 1935/3/6 SP No. 28383)
J.S.バッハ:グノー:アヴェ・マリア(Rec: 1935/3/20 SP No.29319)
グライツェル/クライスラー編:スペイン風セレナード(Rec: 1935/3/20 SP No.28645)
グノー:セレナード(Rec: 1935/4/10 SP No.29453)
瀧廉太郎/山田耕筰 編:荒城の月(Rec: 1935/4/10 SP No. 29453)
[LP2 B面]
田中穂積/山田耕筰 編:美しき天然(Rec: 1935/4/23 SP No.28768)
ドヴォルザーク/クライスラー編:インディアン悲歌(Rec: 1935/4/23 SP No.28768)
ドリゴ:火花のワルツ(Rec: 1935/5/8 SP No.28645)
パデレフスキ/クライスラー編:メヌエット(Rec: 1935/5/8 SP No.29319)
ファリャ:スペイン舞曲(Rec: 1935/5/29 SP No.29734)
シューマン:トロイメライ(Rec: 1935/5/29 SP No.29734)

諏訪根自子(ヴァイオリン) 上田仁(ピアノ)* ナタリヤ・ロイヒテンベルク(ピアノ)

録音:1933年～1935年
●天才美少女ヴァイオリニストのコロムビア録音全集! SP復刻の素晴らしき成果! 驚愕の美音、艶めかしい旋律。諏訪根自子、真の姿。

**ELECTLP001/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ELECTLP003/5 (3LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**ELECTLP006/7 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**MELOLP001/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ローラ・ボベスコ／ルーマニア・エレクトレコード録音全集I(ステレオ編)
 [LP1] サン＝サーンス:ヴァイオリン協奏曲第3番短調 Op.61 (A面:第1,2楽章 B面:第3楽章)、序奏とロンド・カプリチオーソ Op.28 (B面)
 [LP2] J.S.バッハ:ヴァイオリン・ソナタ第4番ハ短調 BWV1017 (A面)
 ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第8番ト長調 Op.30-3 (B面)

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)

[LP1] イラリオン・イオネスコ＝ガラティ(指揮) フカレスト放送管弦楽団
 [LP2] アルバート・ガットマン(ピアノ)

録音:[LP1] 1979年12月、[LP2] 1968年5月

●<「これこそ音楽だ」ーハンス・シュミット・イッセルシュテット>貴婦人のごとき品格と美音、ボベスコの至芸!

ローラ・ボベスコ／ルーマニア・エレクトレコード録音全集II(モノラル編)
 [LP1] モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調『トルコ風』 K.219 (A面:第1,2楽章 B面:第3楽章)
 [LP2] J.S.バッハ:ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調 BWV1041 (A面)
 J.S.バッハ:ヴァイオリン・ソナタ第3番ホ長調 BWV1016 (B面)
 [LP3] ストラヴィンスキー:ヴァイオリンとピアノのためのイタリア組曲 (A面)
 ホアキン・ニン:四つの回想 (B面)

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)

[LP1&2] コンスタンティン・ボベスコ(指揮) フカレスト放送管弦楽団
 [LP3] マリアーナ・カプデボ(ピアノ)

録音:[LP1&2] 1963年12月、[LP3] 1966年10月

●オンマイクで迫る実存感のあるサウンド。オリジナル盤を凌駕する完成度! うーんジャケットも美しすぎる!

カラヤン／ウィーン・フィル ブカレスト・コンサート1964
 モーツァルト:交響曲第40番短調 K.550 [LP1 A面]
 ブラームス:交響曲第1番ハ短調 Op.68
 [LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)**ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1964年9月15日 サラ・バラトゥルイ(ブカレスト、ルーマニア)におけるライブ(モノラル)

●ウィーン国立歌劇場音楽監督辞任の年のカラヤンの遺産。ほぼルーマニア国内でしか出回らなかった超レア音源!

モーツァルト:未発表ヴァイオリン・ソナタ集

[LP1]
 ヴァイオリン・ソナタ第28番 小短調 K.304 (A面)
 ヴァイオリン・ソナタ第24番 ハ長調 K.296 (B面)
 [LP2]
 ヴァイオリン・ソナタ第40番 変ロ長調 K.454 (A面)
 ヴァイオリン・ソナタ第42番 イ長調 K.526 (B面)

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)**ジャック・ジャンティ(ピアノ)**

録音:1958年7月4日 ドイツ、ルートヴィヒスブルク、シュロス・オルデンスザール(ライブ)

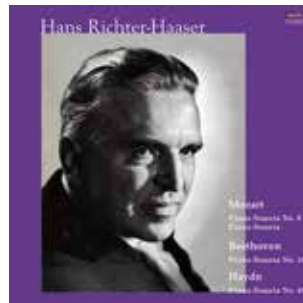
●ヒストリカル・ファンを唸らせた驚異のレーベル「メロ・クラシック」をライセンスLP化! 鬼気迫るボベスコの熟演!

**MELOLP003/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**MELOLP005/6 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**MELOLP007/8 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**PHLP001/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:未発表ヴァイオリン・ソナタ集

[LP1]
 ヴァイオリン・ソナタ第3番 変ホ長調 Op.12-3 (A面)
 ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 Op.30-2 (B面)
 [LP2]
 ヴァイオリン・ソナタ第9番 イ長調『クロイツェル』Op.47 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)**ジャック・ジャンティ(ピアノ)**

録音:1958年7月6日 ドイツ、ルートヴィヒスブルク、シュロス・オルデンスザール(ライブ)

●これぞ最強の「クロイツェル」! ボベスコとジャンティ、おしどりコンビ完全燃焼! 伝説の未発表ライブをLP化。

エンリコ・マイナルディ／ヘッセン放送未発表スタジオ録音集

[LP1]
 ブラームス:チェロ・ソナタ第1番 小短調 Op.38 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
 [LP2]
 ベートーヴェン:チェロ・ソナタ第4番 ハ長調 Op.102-1 (A面)
 J.S.バッハ(グリッツマツヒャー編):チェロ・ソナタ第2番 ニ長調 BWV1028 (B面)

エンリコ・マイナルディ(チェロ)**カルロ・ゼッキ(ピアノ)**

録音:1956年4月3日 フランクフルト・ヘッセン放送協会 ルーム1/B(ブラームス、バッハ)、1956年3月17日 フランクフルト・ヘッセン放送協会 ゼンデザール(ベートーヴェン)
 ●ブラームスの暗さと佻しさにやられてください。深い闇のような呼吸と共に音楽へ没入。これはアナログで聴くべき!

[LP1 A面] モーツァルト:ピアノ・ソナタ第6番ニ長調 K.284
 [LP1 B面] モーツァルト:ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.533
 [LP2 A面] ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第16番ト長調 Op.31-1
 [LP2 B面] ハイドン:ピアノ・ソナタ第49番 変ホ長調 Hob.XVI:49

ハンス・リヒター＝ハーザー(ピアノ)

録音:[LP1] 1950年12月30日 フランクフルト・ヘッセン放送協会旧放送会館、[LP2] 1959年10月7日 フランクフルト・ヘッセン放送協会ルーム3/C
 ●潤いに富み、重厚で底光りのする音色。豪壮かつ繊細、堅固な構成力。いかにもドイツ的、滋味あふれる端正な演奏!

シュターツカペレ・ドレスデン LPエディション Vol.1
 ブルックナー:交響曲第8番ハ短調 WAB.108(1884-90年、ハース版)
 [LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]

ベルナルド・ハイティンク(指揮)**シュターツカペレ・ドレスデン**

録音:2002年12月3日 ドレスデン、ゼンパーオーバー(ライブ)

●シノーボリの後任としてのハイティンクに期待が高まるなか巨匠が大輪の花を咲かせた、ファン語り草のブルックナー第8番!



PHLP003/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



PHLP005/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP001/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP003/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

シュターツカペレ・ドレスデン LPエディション Vol.2
ブルックナー:交響曲第6番イ長調 WAB.106(原典版)
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3,4楽章]
モーツァルト:交響曲第38番ニ長調 K504『ブラハ』[LP2 B面]

ベルナルド・ハイティンク(指揮) シュターツカペレ・ドレスデン

録音:2003年11月2日 ドレスデン、ゼンパーオーバー、2002年9月2日 ドレスデン、クルト
ウーアバラスト(いずれもライブ)
●こけおどし無し、それでいて大迫力! ブルックナー第6番に2002年エルベ川大洪水
救済ガラ、モーツァルトの『ブラハ』。

シュターツカペレ・ドレスデン LPエディション Vol.3
[LP1]
ドビュシー:牧神の午後への前奏曲 (A面)
シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2]
R.シュトラウス:交響詩『英雄の生涯』Op.40 (A面:第1-3曲 B面:第4-6曲)

ペーター・ミリング(ヴァイオリン) マルコム・フレイジャー(ピアノ) ルドルフ・ケンペ(指揮) シュターツカペレ・ドレスデン

録音:1974年3月15日 ドレスデン、クルトウーアバラスト(ライブ)
●ケンペの貴重なヴァイオリン両翼配置によるライブ。指揮者の人格と器量が顕れた
素晴らしい演奏を、ステレオ録音で堪能!

ブラームス:
[LP1]ヴァイオリン協奏曲ニ長調 Op.77
[LP2]ヴァイオリン・ソナタ第3番ニ短調 Op.108

ジネット・ヌヴェー(ヴァイオリン) [LP1]ハンス・シュミット=イッセルシュテット(指揮) 北西ドイツ放送交響楽団 [LP2]ジャン=ポール・ヌヴェー(ピアノ)

ライブ録音:[LP1]1948年5月3日、[LP2]1949年9月21日
●音質の良さで定評ある仏ターラ・レーベルがアルトゥスより復活! イッセルシュテット
とのブラームス天下の名演!

[LP1]ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲ニ長調 Op.61
[LP2]ブラームス:ヴァイオリン協奏曲ニ長調 Op.77

ジネット・ヌヴェー(ヴァイオリン) [LP1]ハンス・ロスバウト(指揮) 南西ドイツ放送交響楽団 [LP2]ロジェ・デゾルミエール(指揮) フランス国立放送管弦楽団

ライブ録音:[LP1]1949年9月25日、[LP2]1948年4月25日
●高音質で定評あるターラ・レーベルのヌヴェーが理想的のカッティングでLP化。デゾル
ミエールとのブラームスも貴重!



TALTLP005/6 (2LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP007/16 (10LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP017/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP019/20 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ブルックナー:交響曲第5番(ハース版)
[LP1]A面:第1楽章 B面:第2楽章
[LP2]A面:第3楽章 B面:第4楽章

オイゲン・ヨッフム(指揮) アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団

ライブ録音:1986年12月4日 アムステルダム
●ターラレーベルを代表する名盤である8年ヨッフム最晩年のステレオによる壮絶な
5番が待望のLP化。

ブルックナー:交響曲集成(第4、5、6、7、8番)
①交響曲第4番 変ホ長調 [LP1:第1,2楽章、LP2:第3,4楽章]
②交響曲第5番 変ロ長調 [LP3:第1,2楽章、LP4:第3,4楽章]
③交響曲第6番 イ長調 [LP5:第1,2楽章、LP6:第3,4楽章]
④交響曲第7番 ホ長調 [LP7:第1,2楽章、LP8:第3,4楽章]
⑤交響曲第8番 ハ短調 [LP9:第1,2楽章、LP10:第3,4楽章]

オイゲン・ヨッフム(指揮) アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団

録音:①1975年1月16日、②1986年12月4日、③1980年11月2日、④1970年3月15
日、⑤1984年9月26日 コンセルトヘボウ、アムステルダム
●「黄金に輝く金管、ベルベットのとき弦」と評されたコンセルトヘボウ管とヨッフム、
円熟の壮絶ステレオ・ライブ!

ティボーの芸術1 ライヴ放送録音編
[LP1]ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲ニ長調 Op.61
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2]モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第4番ニ長調 K.218
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

ジャック・ティボー(ヴァイオリン) [LP1]ヴィクトル・テザルツェンス(指揮) ローザンヌ室内管弦楽団 [LP2]エドゥアルト・ファン・ペイヌム(指揮) アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団

録音:[LP1]1951年 ヌーシャテル、[LP2]1949年 アムステルダム
●ティボーの官能的にたゆたう極美のソロが必聴。とろけて無くなってしまいそうな驚
きのモーツァルト・ライブ!

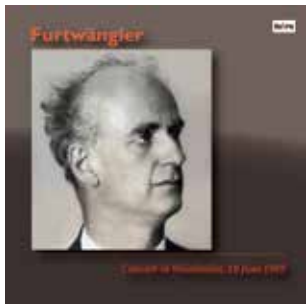
ティボーの芸術2 スタジオ放送録音編
[LP1]ラロ:スペイン交響曲 (A面:第1,2楽章 B面:第4,5楽章)
※第3楽章は当時の慣習によりカットされています。
[LP2]フランク:ヴァイオリン・ソナタ (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ジャック・ティボー(ヴァイオリン) [LP1]ヴィンフリート・ツィリッヒ(指揮) ヘッセン放送交響楽団 [LP2]ジャン・ラフォルジュ(ピアノ)

録音:[LP1]1951年 フランクフルト、[LP2]1952年 ザールブリュッケン
●スタジオ録音で音質良好。「スペイン交響曲」の煌めく技巧に、フランクでのねっ
りと妖艶な歌い返し。ティボー一節全開!

**TALTLP021/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP023/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP025/6 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP027/8 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

フルトヴェングラー・イン・バリ

[LP1 A面] ウェーバー:歌劇「オリアンテ」序曲、

ブラームス:ハイドンの主題による変奏曲 Op.56a

[LP1 B面] シューベルト:交響曲第8番短調「未完成」D.759

[LP2] ベートーヴェン:交響曲第5番短調「運命」Op.67

(A面:第1,2楽章、B面:第3,4楽章)

**ウィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1954年5月4日 バリ・オペラ座

●フルトヴェングラーのライヴ録音の最高峰、54年バリ公演の一夜を完全収録。音質の素晴らしさに驚愕!

フルトヴェングラー・イン・ヴィースバーデン

[LP1 A面] ブリッテン:歌劇「ノルマ」第1幕～第3幕より前奏曲(全3曲)

[LP1 B面] モーツァルト:交響曲第40番短調 K.550

[LP2] ブラームス:交響曲第4番短調 Op.98 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

**ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1949年6月10日 ヴィースバーデン(ヘッセン放送収録)

●ブラームス4番の、長く引き伸ばされる出だしのH音からして泣きたくなるほどのフルヴェン節が炸裂。

[LP1] ハイドン:交響曲第88番長調「V字」Hob.I:88

(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

[LP2] ベートーヴェン:交響曲第5番短調「運命」Op.67

(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

**ハンス・クナッパーツブッシュ(指揮)
ヘッセン放送交響楽団**

録音:1962年3月20日 フランクフルト(ヘッセン放送収録)

●怪物クナッパーツブッシュの恐ろしさ、凄さを世に知らしめたターラ・レーベルの名盤が最高の音質でLP化!

ブラームス:

ハイドンの主題による変奏曲 Op.56a [LP1 A面]

交響曲第1番短調 Op.68

[LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]

**ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
北ドイツ放送交響楽団**

録音:1951年10月27日 ハンブルク

●フルヴェン&北ドイツ放送響、唯一の共演録音。「世紀のディアパゾン・ドール」が贈られた至高の音源をLP化!

**TALTLP029/30 (2LP)**

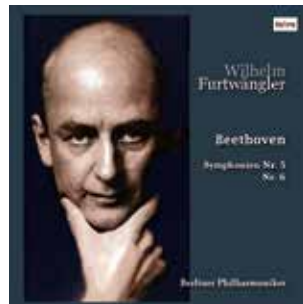
プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP031/2 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP033/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**TALTLP035/6 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

ブルックナー:交響曲第4番変ホ長調『ロマンティック』WAB 104(ハース版)

[LP1] A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2] A面:第3楽章 B面:第4楽章

**ハンス・シュミット＝イッセルシュテット(指揮)
北ドイツ放送交響楽団**

録音:1966年12月14、16日 ハンブルク(ライヴ)

●北ドイツ放送響の創設者にして初代首席指揮者、イッセルシュテットの名演を初LP化!輝かしくも幽玄なブル4。

ブルックナー:交響曲第7番ホ長調 WAB 107(ハース版)

[LP1] A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2] A面:第3楽章 B面:第4楽章

**ハンス・シュミット＝イッセルシュテット(指揮)
北ドイツ放送交響楽団**

録音:1968年10月28日 ハンブルク(ライヴ)

●ヴァント時代以前の北ドイツ放送響がブルックナーを完全に手中にしていたことが分かる名演。音質も上々。

ベートーヴェン:交響曲第3番 変ホ長調『英雄』Op.55

[LP1] A面:第1楽章 B面:第2楽章

[LP2] A面:第3楽章 B面:第4楽章

**ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1952年12月8日 ベルリン、ティタニア・パラスト(ライヴ) ベルリンRIAS放送によるモノラル録音

●RIAS放送のオリジナル音源を用いた先駆けの名盤であるターラ盤をLP化。「ウラニアのエロイカ」と双璧を成す演奏!

ベートーヴェン:

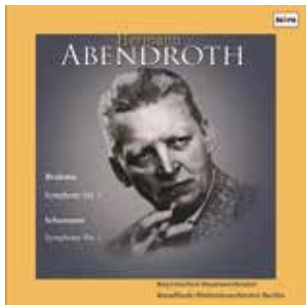
[LP1] 交響曲第6番 へ長調『田園』Op.68 (A面:第1,2楽章 B面:第3-5楽章)

[LP2] 交響曲第5番 短調『運命』Op.67 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

**ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**

録音:1954年5月23日 ベルリン、ティタニア・パラスト(ライヴ) ベルリンRIAS放送によるモノラル録音

●繊細な気品と渦巻くエネルギーの強烈な対比! RIAS放送のオリジナル音源による最強の『田園』&『運命』。



TALTLP037/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP039/40 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP041/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP043/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1]
ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 Op.68(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2]
シューマン:交響曲第1番 変ロ長調 Op.38(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヘルマン・アーベントロート(指揮)
[LP1] バイエル国立管弦楽団
[LP2] ベルリン放送交響楽団

録音:[LP1] 1956年1月16日、[LP2] 1955年9月18日(ライブ、モノラル録音)
●このプラ1は知る人ぞ知る奇演中の奇演。まるで慣性の法則完全無視、吹き飛ばされそうなテンポ設定!

ベートーヴェン:
『エグモント』序曲 Op.84[LP1 A面]
交響曲第3番 変ホ長調『英雄』Op.55
[LP1 B面:第1楽章、LP2 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]

ヘルマン・アーベントロート(指揮)
ベルリン放送交響楽団

録音:1954年2月13日 ベルリン国立歌劇場(ライブ、モノラル録音)
●個性爆発のエロイカ! 随所で急激な圧力をかけオケと聴衆を翻弄。トリオのホルンの爆鳴きも凄まじい!

フルトヴェングラー、第九を語る[LP1 A面]
ベートーヴェン:交響曲第9番二短調 Op.125
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]

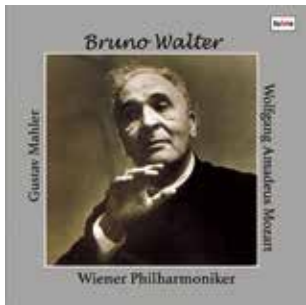
エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
エルザ・カヴェルティ(アルト)
エルンスト・ヘフリガー(テノール)
オットー・エーデルマン(バス)
ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
フィルハーモニア管弦楽団 ルツェルン音楽祭合唱団

録音:1954年8月22日 ルツェルン音楽祭におけるライブ(モノラル)
●守旧派大絶賛! TAHRA盤の良い所を余すことなくアナログ化! これぞフルヴェンの原点的音質。暗く重厚な音色がほとばしる「ルツェルンの第九」、フルトヴェングラーの肉声付き!

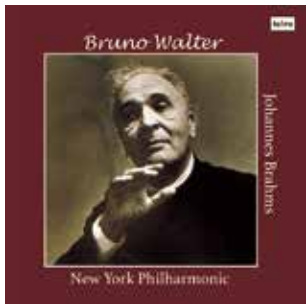
モーツァルト:
[LP1] セレナーデ 第7番二長調『ハフナー』K.250(A面:第1-4楽章 B面:第5-8楽章)
[LP2] ピアノ協奏曲第19番ヘ長調 K.459(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

[LP2] カール・ゼーマン(ピアノ)
カール・シュリヒト(指揮)
シュトゥットガルト放送交響楽団

録音:[LP1] 1962年12月19日、[LP2] 1961年5月19日 ライヴ、モノラル
●ターラ秘蔵音源、シュリヒト珠玉のモーツァルト。情緒を拒絶した哲学的なピアノが実に玄人好きなゼーマンも必聴!



TALTLP045/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TALTLP047/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TBRPLP0001/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



WEITLP001/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

マーラー:大地の歌[LP1 A面:第1,2楽章 B面:第3-5楽章、LP2 A面:第6楽章]
モーツァルト:交響曲第40番短調 K.550[LP2 B面]

キャスリーン・フェリアー(アルト)
ユリウス・パツァーク(テノール)
ブルーノ・ワルター(指揮)
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

録音:1952年5月17日(モノラル)
●「大地の歌」はあのデッカ録音の翌日のライブ。「涙が出るほど嬉しかった」「他の指揮者が束になっても適わない」と宇野功芳絶賛!

ブラームス:
[LP1] ヴァイオリン協奏曲二長調 Op.77 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2] 交響曲第2番二長調 Op.73 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

エリカ・モリーニ(ヴァイオリン)
ブルーノ・ワルター(指揮)
ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団

録音:[LP1] 1953年12月20日、[LP2] 1951年2月4日(モノラル)
●宇野功芳絶賛の大名盤。モリーニの魅力が圧倒的、ものすごい気迫で攻めてゆく! 交響曲も熱く歌いまくる感動必至の名演。

ゴールドベルク ラスト・リサイタル'92
[LP1 A面] モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ第35番ト長調 K.379
[LP1 B面] ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番ト長調 Op.78
[LP2 A面] モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ第36番 変ホ長調 K.380
[LP2 B面] ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 Op.100

シモン・ゴールドベルク(ヴァイオリン)
山根美代子(ピアノ)

録音:1992年7月2日 新潟市文化会館(ライブ録音)
●訪れた奇跡の時間。長い道のりの果てに行き着いた達観の境地。かけがえのない演奏を、この上ない幸福感と共に。

ヨハンナ・マルツィ未発表スタジオ録音集
[LP1 A面] シューベルト:華麗なるロンド ロ短調D.895 Op.70
[LP1 B面] ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第8番ト長調Op.30-3
[LP2] ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第5番 ヘ長調『春』Op.24
(A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヨハンナ・マルツィ(ヴァイオリン)
ジャン・アントニエッティ(ピアノ)

録音:1957年5月18日 ケルン放送協会第2ホール(スタジオ・セッション録音)
●名門レーベルWEITBLICKの注目CDをライセンスLP化。完全初出の「スプリング・ソナタ」が想像以上の素晴らしさ!

**WEITLP003/4 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**WEITLP005/6 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**WEITLP007/8 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**WEITLP009/10 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1]

ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

[LP2]

メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 小短調 Op.64 (A面:第1,2楽章 B面:第3楽章)

エディット・バイネマン(ヴァイオリン)**ケルン放送交響楽団**

[LP1] ジョージ・セル(指揮)

[LP2] ヨーゼフ・カイルベルト(指揮)

録音:[LP1]1964年6月11日、[LP2]1960年5月6日 ケルン放送会館クラウス・フォン・ビスマルクホール

●ジャケットも美しい、バイネマン公認の秘蔵音源協奏曲集。彼女を称賛したセルとのベートーヴェンを収録!

[LP1]

シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

[LP2]

プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲第1番 二長調 Op.19

(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

エディット・バイネマン(ヴァイオリン)**ケルン放送交響楽団**

[LP1] ヨーゼフ・カイルベルト(指揮)

[LP2] ギュンター・ヴァント(指揮)

録音:[LP1]1967年10月27日、[LP2]1975年10月10日 ケルン放送会館クラウス・フォン・ビスマルクホール

●幻の美人ヴァイオリニスト、バイネマン初出音源!高潔なソロが美しい。カイルベルト、ヴァントと指揮者も豪華!

ベートーヴェン:

[LP1]

『レオノーレ』序曲 第3番ハ長調 Op.72b(A面)

交響曲第4番変ロ長調 Op.60 (A面:第1楽章 B面:第2-4楽章)

[LP2]

交響曲第5番ハ短調『運命』Op.67 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

オットー・クレンペラー(指揮)**ケルン放送交響楽団**

録音:1966年3月17日 ケルン放送協会クラウス・フォン・ビスマルク・ホールにおけるライヴ(ステレオ)

●完全初出! 巨大な造形がそそり立つ驚異の立体感。その偉大さに震え上がるべし! クレンペラーの超詳細な年譜を収録した解説も必読。

アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ／ベルン・リサイタルI

[LP1]

ドメニコ・スカルラッティ:ソナタ イ長調 K.322、ハ短調 K.11 (A面)

シューマン:謝肉祭 Op.9 (A面:第1-8曲 B面:第9-21曲)

[LP2]

シューマン:ウィーンの謝肉祭の道化芝居「幻想的情景」Op.26

(A面:第1-3曲 B面:第4,5曲)

グリーグ:抒情小曲集 第9集Op.68より「ゆりかごの歌」(B面)

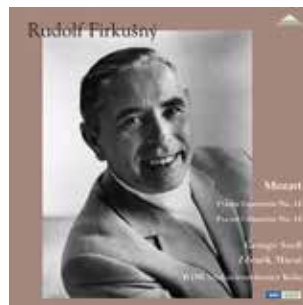
アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ(ピアノ)

録音:1972年11月2日 ベルン放送スタジオ6 ライヴ録音(ステレオ)

●ミケランジェリの魔術が炸裂、幻のベルン・リサイタル! 万華鏡の如き音色と質感の綾。アンコールの『ゆりかごの歌』は絶品。

**WEITLP015/6 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**WEITLP017/8 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

**WEITLP019/20 (2LP)**

プレス:東洋化成株式会社(日本)

アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ／ベルン・リサイタルII

[LP1 A面] ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第12番 変イ長調 Op.26

[LP1 B面] ドビュッシー:映像より

第2集 第1曲「葉ずえを渡る鐘の音」

第1集 第2曲「ラモーをたたえて」

第1集 第1曲「水に映る影」

[LP2]

シュベルト:ピアノ・ソナタ第4番 イ短調 D.537 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ(ピアノ)

録音:1975年3月18日 ベルン放送スタジオ6 ライヴ録音(ステレオ)

●幻のベルン・リサイタル初LP化第2弾! スタジオ録音よりスタジオ録音のような完璧サウンド。恐ろしいほどの彫琢に驚愕!

モーツァルト:

[LP1]ピアノ協奏曲第18番変ロ長調 K.456 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

[LP2]ピアノ協奏曲第15番変ロ長調 K.450 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

ルドルフ・フィルクスニー(ピアノ)**ケルン放送交響楽団**

[LP1] ジョージ・セル(指揮)

[LP2] ズデニェク・マーカル(指揮)

録音:[LP1]1966年6月24日、[LP2]1973年1月19日 ケルン放送協会クラウス・フォン・ビスマルク・ホール(ステレオ)

●透明感ある流麗なピアノ、実に格調高いフィルクスニーのモーツァルト!セルとマーカル、ふたりの巨匠との共演。

イダ・ヘンデル／ストックホルム・リサイタル1984

[LP1 A面] ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 Op.30-2

[LP1 B面] J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004より
シャコンヌ

[LP2 A面] オルソン:ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 Op.22

[LP2 B面] サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ Op.28、ブラームス:ハンガリー
舞曲 第5番、ラヴェル:ハバネラ形式の小品、リムスキー＝コルサコフ:熊蜂の飛行**イダ・ヘンデル(ヴァイオリン)****クレイグ・シェパード(ピアノ)**

録音:1984年12月9日 スウェーデン、ベルナルドホール(ライヴ)

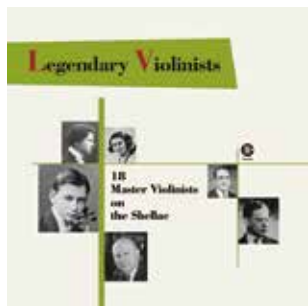
音源提供:スウェーデン放送協会

●名女流ヴァイオリニスト、イダ・ヘンデルの完全初出ステレオ音源!真摯な魂の叫びが圧巻、胸が熱くなる「シャコンヌ」!

Opus Kura

オーバス蔵

2001年創業、綿密な復刻作業で定評ある
SP・LPのCD復刻レーベル。
名手によるヴァイオリン小品を集めた
LP復刻も好企画です。



OPK8001/2 (2LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

伝説のヴァイオリニスト達〜SP復刻による18人の名曲集

[LP1 A面] 1.ドビュッシー:小舟にて/フランツ・フォン・ヴェチエイ(ヴァイオリン) G.ア
ゴ스티(ピアノ) (1935) 2.シューベルト:セレナード/ミッシャ・エルマン(ヴァイオリン)
R.バウマン(ピアノ) (1928) 3.ヴィエニャフスキ:モスクワの思い出/ルネ・ベネデッティ
(ヴァイオリン) M.フォーレ(ピアノ) (1928) 4.ドヴォルザーク:スラヴ舞曲第2番/ヴァ
ーシャ・ブシホダ(ヴァイオリン) O.A.グレーフ(ピアノ) (1934) 5.バッハ:G線上のアリ
ア/エフレム・ジンバリスト(ヴァイオリン) E.ペイ(ピアノ) (1931)
[LP1 B面] 1.パガニーニ:ラ・カンパネラ/ナタン・ミルシティン(ヴァイオリン) L.ミットマ
ン(ピアノ) (1936) 2.パツィーニ:妖精の踊り/ヤッシャ・ハイフェッツ(ヴァイオリン)
E.ペイ(ピアノ) (1937) 3.スコット:蓮の国/フリッツ・クライスラー(ヴァイオリン) F.ル
ッパ(ピアノ) (1938) 4.ブニャーニ:ラルゴ(ソナタ第3番)/ジョルジュ・エネスコ(ヴァ
イオリン) S.シュルツェル(ピアノ) (1929) 5.サラサーテ:アンダルシアのロマンス/ブ
ラニスワフ・フォーベルマン(ヴァイオリン) S.シュルツェ(ピアノ) (1930)
[LP2 A面] 1.マズネ:タイスの瞑想曲/ワルター・バリリ(ヴァイオリン) O.A.グレーフ
(ピアノ) (1936) 2.スカルテスク:パガテル/ジネット・ヌヴェー(ヴァイオリン) J.ヌヴェ
(ピアノ) (1946) 3.アルベニス:タンゴ/ジャック・ティボー(ヴァイオリン) T.ヤノブーロ
(ピアノ) (1933) 4.リムスキー=コルサコフ:花嫁の歌/ユーディ・メニューイン(ヴァ
イオリン) H.ギーセン(ピアノ) (1930) 5.チャイコフスキー:瞑想曲/ダヴィッド・オイストラ
フ(ヴァイオリン) V.ヤムボフスキー(ピアノ) (1948)
[LP2 B面] 1.シマノフスキー:アレトウザの泉/ヨゼフ・シゲティ(ヴァイオリン) & N. マ
ガロフ(ピアノ) (1933) 2.アルベニス:セヴィーリャ/アルフレード・カンポーリ(ヴァイオ
リン) & E.グリットン(ピアノ) (1949) 3.サン=サーンス:序奏とロンド・カプリチオー
ソ:イダ・ヘンデル(ヴァイオリン) & キャメロン(指揮)、ナショナル交響楽団 (1945) 4.
リムスキー=コルサコフ:熊蜂は飛ぶ/ヨゼフ・シゲティ(ヴァイオリン) & マガロフ(ピ
アノ) (1933) 5.クライスラー:美しきロスマリン/フリッツ・クライスラー(ヴァイオリン) & ル
ッパ(ピアノ) (1938) 6.ドリゴ:セレナード/ミッシャ・エルマン(ヴァイオリン) & ホリスター
(ピアノ) (1931) ()内は録音年

●綿密な復刻作業に定評のあるSP、LPのCD復刻レーベル、OPUS蔵からLPをリリ
ース。内容は、ヤッシャ・ハイフェッツ、ダヴィッド・オイストラフ、ナタン・ミルシティンとい
った名ヴァイオリニストからルネ・ベネデッティ、ヴァーシャ・ブシホダと言った録音がほ
とんど知られていない演奏家による貴重なSP録音からLP化いたしました!

[A面]

①ドヴォルザーク(クライスラー編曲):ユモレスク ②チャイコフスキー:メロディ〜懐か
しい土地の思い出より ③サラサーテ:ブライエラ(スペイン舞曲集第5番) ④サラサ
ーテ:サパテアード(スペイン舞曲集第6番)

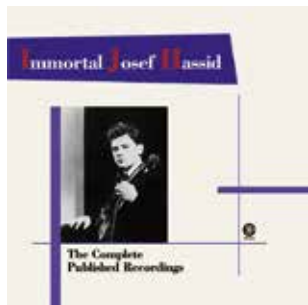
[B面]

⑤マズネ:タイスの瞑想曲 ⑥アクロン:ヘブライの旋律 ⑦クライスラー:ウィーン奇想曲
⑧エルガー:気まぐれ女

ヨーゼフ・ハシッド(ヴァイオリン)
ジェラルド・ムーア(ピアノ)

録音:1940年6月、11月 アビーロード第3スタジオ(ロンドン) SP復刻:広川陽一

●悲劇的恋愛事件のすえ26歳で夭折、悲しみの天才ハシッド。その希少なHMV・
SP録音を完全網羅!



OPK8003 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

TOKYO FM

エフエム東京

1970年に「エフエム東京」として開局したTOKYO FM。
70年代は大物演奏家の来日が相次いだ時期で、
貴重なライブ音源を多く保管しています。
往年のクラシック・ファンに嬉しい名演奏を商品化し続けるレーベルです。



TFMCLP1001/10 (10LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ヘルベルト・フォン・カラヤン&ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
ベートーヴェンの交響曲全曲演奏会 1977年11月普門館ライブ
[LP1] 交響曲第1番 ハ長調 Op.21
[LP2] 交響曲第2番 ニ長調 Op.36
[LP3&4 A面] 交響曲第3番「英雄」変ホ長調 Op.55
[LP5] 交響曲第4番変ロ長調 Op.60
[LP6] 交響曲第5番「運命」ハ短調 Op.67
[LP7] 交響曲第6「田園」ヘ長調 Op.68
[LP8] 交響曲第7番 イ長調 Op.92
[LP4 B面] 交響曲第8番 ヘ長調 Op.93
[LP9&10] 交響曲第9番ニ短調 Op.125

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
バーバラ・ヘンドリックス(ソプラノ)
ヘルムート・アルゲルヴォ(アルト)
ヘルマン・ヴィンクラー(テノール)
ハンス・ゾーティン(バス)
プロ合唱団連盟
東京藝術大学合唱団[田中 信昭(合唱総指揮)]

ライブ収録:1977年11月13日[第1番、第3番]、11月14日[第2番]、11月15日[第4
番、第7番]、11月16日[第5番、第6番]、11月17日[第8番]、11月18日[第9番]、東
京 普門館
●1977年 普門館ライブが初LP化! カラヤン/BPOのベートーヴェン交響曲全曲!
完全限定生産品。



TFMCLP1014/6 (3LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

J.S.バッハ
[LP1] 無伴奏ヴァイオリンのためのバルティータ第2番 ニ短調 BWV1004
[LP2 A面] ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第3番 ホ長調 BWV1016
[LP2 B面] 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ短調 BWV1001
[LP3 A面] ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第6番 ト長調 BWV1019
[LP3 B面] ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第1番 口短調 BWV1014よりア
ンダンテ (アンコール)シェリング(肉声と常松伸一氏による吹き替え)「バッハのソナ
タとバルティータについて」「バッハの解釈について」
※当日の演奏会ではヴァイオリン・ソナタ第3番BWV1016が1曲目、2曲目がバルテ
イータ第2番BWVの曲順です。

ヘンリク・シェリング(ヴァイオリン)
マイケル・イサドーア(ピアノ)

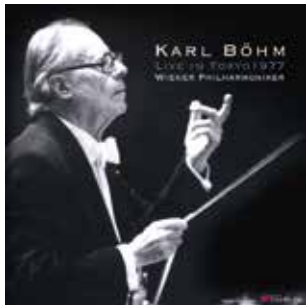
録音:1976年4月12日、東京文化会館、ライブ録音
●シェリングの真摯な音がリアルに再現されています。伝説のバッハ・リサイタル、
ついにLP化!



TFMCLP1017/21 (5LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1022/4 (3LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1025/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1027/8 (2LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1&2] ①ブルックナー:交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」
[LP3 A面] ②シューベルト:交響曲第8番 短調 D.759「未完成」
[LP3 B面] ③モーツァルト:交響曲第35番 ニ長調 K.385「ハフナー」
[LP4&5] ④マーラー:交響曲第5番 嬰ハ短調

クラウス・テンシュテット(指揮) ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①②1984年4月11日 東京簡易保険ホール、③④1984年4月13日 フェスティバルホール
●テンシュテットならではの爆発と陰鬱。そして情念。アナログディスクで味わうマーラー、ブルックナー!

[LP1 A面] ヴェラチーニ:ヴァイオリン・ソナタ ホ短調
[LP1 B面] ショーンソン:詩曲 Op.25
[LP2] ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番 長調「雨の歌」Op.78
[LP3 A面] ドビュッシー:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
[LP3 B面] (アンコール) クライスラー:テンポ・ディ・メヌエット、ストラヴィンスキー:タランテラ〜(イタリア組曲)より、ジョプリン:ジ・エンターティナー、エスベホ:プレスト(古風なスタイルによる2つの小品)より ※実演ではヴェラチーニ、ブラームス、ショーンソン、ドビュッシーの曲順で演奏されました。

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン) 岩崎淑(ピアノ)

ライヴ録音:1983年3月2日 日本都市センターホール(東京)
●ファン狂喜、品格の色香。ボベスコの日本ライヴ初LP化! アナログディスクならではのしたたる美音。

[LP1]
①モーツァルト:交響曲第29番 イ長調 K.201(186a)
②R.シュトラウス:「ドン・ファン」Op.20
[LP2]
③ブラームス:交響曲第2番 ニ長調 Op.73
④ワーグナー:「ニュルンベルクのマイスターシンガー」第1幕前奏曲(ゲネプロ)

カール・ベーム(指揮) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:1977年3月11日 東京文化会館
●遂に初LP化! 最高の呼び声高い77年ベーム&VPO来日公演。アナログディスクならではの美音!

[LP1]
①シューマン:ウィーンの謝肉祭の道化「幻想的風景」Op.26
②ショパン:ピアノ・ソナタ第2番 変ロ長調 Op.35
[LP2]
③ラヴェル:高雅で感傷的なワルツ
④ラヴェル:夜のガスパール

アルトゥーロ・ベネデッティ=ミケランジェリ(ピアノ)

ライヴ録音:1973年10月29日 東京文化会館大ホール
●オリジナルテープに限りなく近いリアルで野太い音質。ミケランジェリの日本リサイタルがアLP初登場!



TFMCLP1029/30 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1031/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1033/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1035/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:
[LP1]
①交響曲第1番 ハ長調 Op.21 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2]
②交響曲第3番「英雄」変ホ長調 Op.55 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮) ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:1977年11月13日 東京 普門館
●カラヤン&BPOベト全1977ライヴ、完全限定分売! 圧巻のエロイカ、カラヤンの英雄的演奏が輝かしい。

ベートーヴェン:
[LP1]
①交響曲第2番 ニ長調 Op.36 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2]
②交響曲第8番 ヘ長調 Op.93 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮) ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①1977年11月14日、②17日 東京 普門館
●カラヤン&BPOベト全1977ライヴ、完全限定分売! 2番が凄い! 同チクルスの中でも1,2の出来。

ベートーヴェン:
[LP1]
①交響曲第6番「田園」ヘ長調 Op.68 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2]
②交響曲第5番「運命」ハ短調 Op.67 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮) ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:1977年11月16日 東京 普門館
●カラヤン&BPOベト全1977ライヴ、完全限定分売! 黄金のカップリング。圧倒的迫力に打たれます。

ベートーヴェン:
[LP1]
①交響曲第4番 変ロ長調 Op.60 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)
[LP2]
②交響曲第7番 イ長調 Op.92 (A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章)

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮) ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:1977年11月15日 東京 普門館
●カラヤン&BPOベト全1977ライヴ、完全限定分売! カラヤン美学エレガント4番、大演奏爆発の7番。



TFMCLP1037/8 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1039/40 (2LP) **生産終了品**
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1041/2 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1043/4 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:
交響曲第9番ニ短調 Op.125「合唱付き」
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]

ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
バーバラ・ヘンドリックス(ソプラノ) ヘルイエ・アルゲルヴォ(アルト)
ヘルマン・ヴィンクラー(テノール) ハンス・ゾーティン(バス)
プロ合唱団連合 東京藝術大学合唱団 [田中信昭(合唱総指揮)]

ライヴ録音:1977年11月18日 東京 普門館
●カラヤン&BPO全1977ライヴ、完全限定分売! カラヤン自身「最高の出来」と語った伝説の第九!

ベートーヴェン:
[LP1]
①ピアノ協奏曲第3番ハ長調 Op.37(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2]
②ピアノ協奏曲第5番変ホ長調「皇帝」Op.73(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

アレクシス・ワイセンベルク(ピアノ)
ヘルベルト・フォン・カラヤン(指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ライヴ録音:①1977年11月14日、②1977年11月17日 東京 普門館
●ワイセンベルクとカラヤンの名コンビ曲を越えた美音に陶然! 1977年普門館の名演、完全限定生産。

ベートーヴェン:
[LP1]
交響曲第6番 へ長調 Op.68「田園」
[LP2]
交響曲第7番 イ長調 Op.92、「エグモント」序曲 Op.84

オイゲン・ヨッフム(指揮)
バンベルク交響楽団

ライヴ録音:1982年9月16日 東京文化会館
●一筋縄ではいかぬ翁の自在なテンポ感にくぎ付け! アナログ・ディスク化により柔らかな風合いに。

モーツァルト:
[LP1 A面] 交響曲第39番 変ホ長調 K.543
[LP1 B面] 交響曲第40番ト短調 K.550
[LP2] 交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」、
歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

オトマール・スイトナー(指揮)
ベルリン・シュターツカペレ

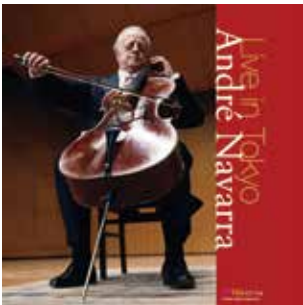
ライヴ録音:1978年10月25日 厚生年金ホール
●一気呵成の熱烈さでありながら陰影の濃い大演奏。馥郁たる美音! LPで聴く魅力の3大交響曲。



TFMCLP1045/6 (2LP) **生産終了品**
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1047/8 (2LP) **生産終了品**
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1049/50 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



TFMCLP1051/3 (3LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1 A面] ワーグナー:楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
[LP1 B面] ベートーヴェン:交響曲第8番 へ長調 Op.93
[LP2] ブ람ズ:交響曲第1番 ハ短調 Op.68

クルト・ザンデルリング(指揮)
シュターツカペレ・ドレスデン

ライヴ録音:1973年10月18日 厚生年金会館(東京)
●SKD初来日73年東京ライヴがついにLP化、大スケールの「マイスタージンガー」は必聴!

[LP1 A面] ウェーバー:オペロン序曲
[LP1 B面] モーツァルト:交響曲第35番 ニ長調「ハフナー」K.385
[LP2] チャイコフスキー:交響曲第4番 へ短調 Op.36

クルト・ザンデルリング(指揮)
シュターツカペレ・ドレスデン

ライヴ録音:1973年10月31日 東京文化会館
●SKD初来日73年東京ライヴがついにLP化! 濃厚な哀愁に満ちたチャイ4を聴け!

アンドレ・ナヴァラ・ライヴ・イン・東京
[LP1 A面] ボッケリーニ:チェロ・ソナタト長調 G.5
[LP1 B面] シューベルト:アルペジョーネ・ソナタ イ短調 D.821
[LP2 A面] ブ람ズ:チェロ・ソナタ第2番 へ長調 Op.99
[LP2 B面] (アンコール)ドヴォルザーク:チェロとピアノのためのロンド Op.94、
ポッパ:マズルカ Op.11-3、ラヴェル:ガブリエル・フォーレの名による子守歌

アンドレ・ナヴァラ(チェロ)
岩崎 淑(ピアノ)

録音:1980年3月21日 日本都市センターホール
●フランス・チェロ界最後の巨人、ナヴァラの東京ライヴ! この豪快さと洗み。岩崎淑女史の格調高きピアノも素晴らしい!

J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲全6曲
[LP1 A面] 組曲第1番ト長調 BWV1007
[LP1 B面] 組曲第5番ハ短調 BWV1011
[LP2 A面] 組曲第3番ハ長調 BWV1009
[LP2 B面] 組曲第4番変ホ長調 BWV1010
[LP3 A面] 組曲第2番ニ短調 BWV1008
[LP3 B面] 組曲第6番ニ長調 BWV1012

ビエール・フルニエ(チェロ)

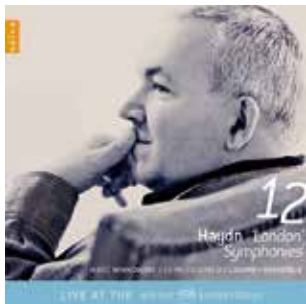
録音:1972年3月2日[BWV1007,1011,1009]、3月4日[BWV1010,1008,1012]
東京、虎ノ門ホールでのライヴ(ステレオ)
●ご好評につき品薄状態が続いていたフルニエの東京ライヴLP、ジャケットを替えて再発売! 気迫と品格にうたれる伝説ライヴ。

KING INTERNATIONAL

キングインターナショナル

自社企画による録音やNHK交響楽団のライヴ音源の
CD化などにも力を注いでおり、
ライセンスを受けて製作した日本独自企画のLPもございます。

KING INTERNATIONAL INC.



KKC1037/42 (6LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ハイドン:交響曲集(ロンドン・セット)
第93番 二長調 Hob.I-93、第94番 ト長調「驚愕」Hob.I-94
第95番 ハ短調 Hob.I-95、第96番 二長調「奇跡」Hob.I-96
第97番 ハ長調 Hob.I-97、第98番 変口長調 Hob.I-98
第99番 変ホ長調 Hob.I-99、第100番 ト長調「軍隊」Hob.I-100
第101番 二長調「時計」Hob.I-101、第102番 変口長調 Hob.I-102
第103番 変ホ長調「太鼓連打」Hob.I-103
第104番 二長調「ロンドン」Hob.I-104

マルク・ミンコフスキ(指揮)
レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル・ゲルノーブル

録音:2009年6月 ウィーン コンツェルトハウス(ライヴ)
●2011年度レコード・アカデミー大賞受賞、「湧きあがる音楽の愉悦! ハイドンの創造性を鮮明に表出」と絶賛された名盤をLP化。



KKC1056/7 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

チョン・キョンファ
衝撃の東京ライヴ第1夜(1998年4月26日)
[LP1 A面]シューベルト:ヴァイオリン・ソナタ イ長調「二重奏曲」D.574 Op.162
[LP1 B面]シューベルト:幻想曲 ハ長調 D.934 Op.159
[LP2 A&B面]シューマン:ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 Op.121
[LP2 B面]J.S.バッハ:G線上のアリア BWV1068-2
クライスラー:愛の悲しみ、ホルディーニ(クライスラー編):踊る人形
ドヴォルザーク:ユモレスク、ドビュシー(ハイフェッツ編):美しい夕暮れ

チョン・キョンファ(ヴァイオリン)
イタマール・ゴラン(ピアノ)

ライヴ録音:1998年4月26日 サントリーホール 東京
●ついに正規盤で登場!「音楽が持つ根源的な力にじかに触れるような衝撃性」
—許光俊—

チョン・キョンファ
衝撃の東京ライヴ第2夜(1998年4月28日)
[LP1 A面]J.S.バッハ:G線上のアリア BWV1068-2、
ストラヴィンスキー:協奏的二重奏曲
[LP1 B面]J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004
[LP2 A面]バルトーク:ヴァイオリン・ソナタ第2番
[LP2 B面]ラヴェル:ツィガース、ラフマニノフ:ヴォカリーズ
クライスラー:美しきロスマリン、中国の太鼓、ドビュシー(ハイフェッツ編):美しい夕暮れ

チョン・キョンファ(ヴァイオリン)
イタマール・ゴラン(ピアノ)

ライヴ録音:1998年4月28日 サントリーホール 東京
●聴衆を釘付けにした「シャコンヌ」他、衝撃の「第2夜」LP化! アナログテープを新たに作りカッティング。



HMLP0001/6 (6LP) 生産終了品
プレス:オプティマル社(ドイツ)



HMLP0018/20 (3LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ全集
[LP1] 第1番 二長調 Op.12-1 (A面)、第2番 イ長調 Op.12-2 (B面)
[LP2] 第3番 変ホ長調 Op.12-3 (A面)、第4番 イ短調 Op.23 (B面)
[LP3] 第5番 ヘ長調「春」Op.24 (A面)、第6番 イ長調 Op.30-1 (B面)
[LP4] 第7番 ハ短調 Op.30-2 (A面)、第8番 ト長調 Op.30-3 (B面)
[LP5] 第9番 イ長調「クロイツェル」Op.47 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP6] 第10番 ト長調 Op.96 (A面:第1楽章 B面:第2-4楽章)

イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)
アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ)

録音:2006年5月、2008年6月、7月、9月 テルデックス・スタジオ(ベルリン)
●繊細な微弱音から激烈な最強奏まで、名器ストラディヴァリウスを鳴らし切るファウストの底知れぬ表現力! アナログ・レコードから立ち現れるこの上ない実体感。

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ BWV1001-1006
[LP1 A面] 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト短調 BWV1001
[LP1 B面] 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番 口短調 BWV1002
[LP2 A面] 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV1003
[LP2 B面] 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004
[LP3 A面] 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ長調 BWV1005
[LP3 B面] 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 ホ長調 BWV1006

イザベル・ファウスト
(ヴァイオリン)
使用楽器:1704年製ストラディヴァリ "スリーピング・ビューティー")

録音:2009年9月、2011年8月、9月 テルデックス・スタジオ(ベルリン)
●泣く子も黙るファウストのバッハ「無伴奏」全曲!美しく凛とした音色、名器のゆたかな共鳴音、拡がる空気鼓動。アナログ・ディスクの真骨頂がここに!

SPECTRUM SOUND

スペクトラム・サウンド

韓国が誇るスペクトラム・サウンド・レーベル。
親子二代にわたり世界的なレコード・コレクターであり
その豊富な知識から驚きの復刻を続けています。
特にフランス国立視聴覚研究所 (INA) 提供による音源を使用した
“ベルアーム” シリーズは注目です。

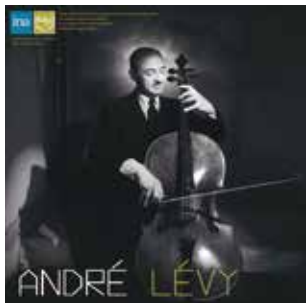


LPSMBA003 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[A面] プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ第2番 二長調 Op.94a
[B面] ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番 二短調 Op.108

ミシェル・オークレール (ヴァイオリン)
ジュヌヴィエーヴ・ジョワ (ピアノ)

録音:1967年11月24日 パリ(モノラル)
●今もなお人気の女流ヴァイオリニスト、オークレールのプロコフィエフ&ブラームスのヴァイオリン・ソナタ。圧巻の演奏に感服!



LPSMBA004 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[A面] ブラームス:チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 Op.38
[B面] フォーレ:エレジー、フォーレ:蝶々、ドビュッシー:チェロ・ソナタ 二短調

アンドレ・レヴィ (チェロ)
[A面] ボール・ロヨネ (ピアノ)
[B面] ジュヌヴィエーヴ・ジョワ (ピアノ)

録音:[A面] 1961年5月23日、[B面] 1958年6月27日(ライブ) パリ
●フランスで活躍した知る人ぞ知る名チェリスト、アンドレ・レヴィの録音からブラームス、フォーレ、ドビュッシーの作品を収録。雄弁に歌い上げる個性的な歌い回しは一度聴いたら虜になってしまいます。



LPSMBA010 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)

ベートーヴェン:
ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 [A面:第1楽章 B面:第2,3楽章]
J.S.バッハ:
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004より「サラバンド」 [B面]

レオニード・コーガン (ヴァイオリン)
エマニュエル・クリヴィヌ (指揮)
フランス放送フィルハーモニック管弦楽団

ライブ録音:1977年2月18日 パリ
●レオニード・コーガンが1977年2月にパリで演奏したベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲。温かみのあるふくよかなコーガンの独奏と、元ヴァイオリニストであった指揮者クリヴィヌらしいソリストに十分配慮した好サポートを得た演奏。また、アンコールで弾かれたバッハも涙をさそう名演です。



LPSMBA001/2 (2LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA016 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA005/6 (2LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA024 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[LP1]
シュペルット:ヴァイオリン・ソナチネ第3番 短調 D.408 (A面)、幻想曲 D.934 (B面)
[LP2 A面] ブラームス:スケルツォ
J.S.バッハ:シャコンヌ [無伴奏パルティータ 第2番 二短調 BWV1004より]
[LP2 B面] バガニーニ:カンタービレ
ファリャ [コハンスキー編]:スペイン民謡組曲
プロコフィエフ:仮面〜『ロメオとジュリエット』より

レオニード・コーガン (ヴァイオリン)
ニーナ・コーガン (ピアノ)

ライブ録音:1982年10月20日 シャンゼリゼ劇場、パリ(ステレオ)
●レオニード・コーガン死後2ヵ月前1982年10月20日のパリ・ライブ。最晩年の澄み切った世界を思わせるような、心にしみいる演奏で、とりわけ祈りに満ちたシャコンヌは感銘を受けます。品格の溢れる演奏には心打たれます。

[A面] フォーレ:ピアノ三重奏曲 二短調 Op.120
[B面] ラヴェル:ピアノ三重奏曲 イ短調

トリオ・デ・フランス
[ジャンヌ・ゴートイエ (ヴァイオリン)
アンドレ・レヴィ (チェロ)
ジュヌヴィエーヴ・ジョワ (ピアノ)]

[A面] セッション録音:1960年1月9日 フランス(モノラル)、[B面] ライヴ録音:1965年3月13日 パリ(ステレオ)
●ヴァイオリンのジャンヌ・ゴートイエ、チェロのアンドレ・レヴィ、そしてピアノのジュヌヴィエーヴ・ジョワで結成されたトリオ・デ・フランスによる演奏でフォーレとラヴェルのピアノ三重奏曲集。

[LP1] シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2] チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)

チョン・キョンファ (ヴァイオリン)
[LP1] スズニェク・マーツァル (指揮)
[LP2] シャルル・デュトワ (指揮)
フランス国立放送管弦楽団

ライブ録音:[LP1] 1973年5月16日、[LP2] 1978年10月18日 シャンゼリゼ劇場 (パリ)
●チョン・キョンファ絶頂期1970年代のシベリウスとチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲。いずれも“聴いて金縛り”と言えるほど驚異的な集中力を感じる白熱ライブです!

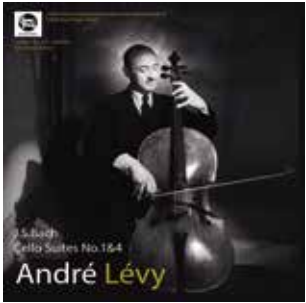
ベルナール・ミシュラン:未発表録音集 Vol.1
[A面] ①サン＝サーンス:チェロ・ソナタ第1番 八短調 Op.32
[B面] ②パラディ:シチアーノ ③リャードフ:ロシア舞曲
④グラナドス:スペイン舞曲第2番 ⑤カサド:愛の言葉 ⑥フォーレ:悲歌 Op.24

ベルナール・ミシュラン (チェロ)
①タッソ・ヤノプーロ (ピアノ)
②-⑤ アンドレ・コラール (ピアノ)
⑥ジェルメーヌ・ドヴェーズ (ピアノ)

録音:①1962年10月17日、②-⑤1959年1月2日、⑥1961年7月5日 フランス・テレビ・スタジオ (パリ)
●ベルナール・ミシュランの未発表録音集からサン＝サーンスのチェロ・ソナタ第1番と小品集を収録。とりわけ、チェロの復刻を得意とするスペクトラム・サウンドらしいふくよかなサウンドが魅力です!



LPSMBA011 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMAC001 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA017 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA029 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[A面] バルトーク:ラプソディ第1番 Sz.87、ルーマニア民族舞曲
[B面] サン＝サーンス:ヴァイオリン協奏曲第3番 短調 Op.61

ミシェル・オークレール(ヴァイオリン)
[A面] ジャン＝クロード・アンブロジーニ(ピアノ)
[B面] ロジェ・アルバン(指揮)
ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団

[A面] セッション録音:1968年7月5日 シャンゼリゼ劇場(モノラル)、[B面] ライヴ録音:1970年6月27日 ストラスブール(ステレオ)
●オークレールが1968年に収録したバルトークのラプソディとルーマニア民族舞曲、そして、オークレールの最後の演奏会となった1970年のサン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番です。

J.S.バッハ:
無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV1007 [A面]
無伴奏チェロ組曲第4番変ホ長調 BWV1010
[A面:「前奏曲」、B面:「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ブーレI/II」「ジーク」]

アンドレ・レヴィ(チェロ)

録音:1960年 パリ(モノラル)
●雄弁に歌い上げるレヴィの個性的な歌い回しによるバッハ。濃厚な味わいと香り高い音色に酔いしれることができます。

[A面] プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ第2番 ニ長調 Op.94a
[B面] プラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 Op.108

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
ジャック・ジャンティ(ピアノ)

セッション録音:[A面] 1960年1月23日、[B面] 1957年6月20日 パリ(モノラル)
●ローラ・ボベスコの全盛期の演奏からプロコフィエフのヴァイオリン・ソナタ第2番(1960年録音)、プラームスのヴァイオリン・ソナタ第3番(1957年録音)を収録。

[A面]
R.シュトラウス:ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 Op.18
[B面]
ショスタコーヴィチ「ツィガノフ編」:24の前奏曲 Op.34より 第10・15・16・24番
プロコフィエフ:ロメオとジュリエットより「モンタギュー家とキャピュレット家」
「アンティル諸島から来た娘たちの踊り」「仮面」
ラヴェル:ツィガヌ

レオニード・コーガン(ヴァイオリン)
アンドレイ・ミトニク(ピアノ)

録音:1959年11月26日 フランス放送協会(パリ)
●高貴さとほのかな色香を漂わせた美しい音に魅了されてしまうコーガンの美音。
R.シュトラウスのつややかな音色にも注目!



LPSMBA007 (LP) 生産終了品
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMAC002 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA018 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA019 (LP)
プレス:東洋化成株式会社(日本)

[A面]
①メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64
[B面]
②ラヴェル:ヴァイオリン・ソナタト長調
③バルトーク:ラプソディ第1番 BB.94

ミシェル・オークレール(ヴァイオリン)
①マニュエル・ローザンタール(指揮) フランス国立管弦楽団
②ジャクリヌ・ボノー(ピアノ)
③ジュヌヴィエーヴ・ジョワ(ピアノ)

①ライブ録音:1959年4月2日 パリ(ステレオ)、②録音:1958年11月25日 フランス(モノラル)、③ライブ録音:1967年11月24日 フランス(モノラル)
●流麗感にも満ちあふれ、香るような甘美さも絶大な魅力のオークレールのメンデルスゾーン。

J.S.バッハ:
[A面] 無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調 BWV1009
[B面] 無伴奏チェロ組曲第5番 ハ短調 BWV1011

アンドレ・レヴィ(チェロ)

録音:1960年 パリ(モノラル)
●雄弁に歌い上げるレヴィの個性的な歌い回しによるバッハの無伴奏組曲第3&5番。濃厚な味わいと香り高い音色に酔いしれることができます。

[A面] ラロ:スペイン交響曲 二短調(第3楽章カット版)
[B面] ヘンデル(ハルヴェオルセン編曲):パッサカリア
モーツァルト:ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 KV.424

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
[A面] セルジュ・ボド(指揮) フランス国立管弦楽団
[B面] フレディ・ルグラン(ヴィオラ)

[A面] ライヴ録音:1960年2月28日 パリ、[B面] セッション録音:1961年3月31日 パリ
●ボベスコの優美なスペイン交響曲、驚異的な集中力で情熱的に歌い上げるパッサカリアなど、ボベスコの音色を思う存分お楽しみいただけます。「演奏は無類の逸品だ。ティボーなどと同じく、独特の歌い回し、微妙なテンポの揺れを駆使して、何とも豊かな雰囲気築きあげる。個性的な音程の取り方もまた、えも言われぬ情趣を加えている。」平林直哉～ライナーノーツより

[A面] ①バルトーク:ヴァイオリン・ソナタ第2番 Sz.76
[B面] ②サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ ③ホアキン・ニン:スペイン組曲
④バガニーニ:ラ・カンパネラ ⑤バガニーニ:無窮動

アンリ・レフコヴィチ(ヴァイオリン)
①エレーヌ・ボスキ(ピアノ) ②指揮者不詳、フランス国立管弦楽団
③-⑤アンドレ・コラル(ピアノ)

①セッション録音:1961年12月6日 パリ、②ライブ録音:1959年2月23日 パリ、③-⑤セッション録音:1956年12月22日 パリ
●レフコヴィチは第二次大戦前の頃にスペインに移り、特にバルセロナでは幅広く活躍したとされているが生涯は謎めいていて、録音も非常に貴重です。「香るような音の出し方にプーシュリの弟子らしさがあるが、より求心的でストレートな雰囲気がレフコヴィチの持ち味ではないだろうか。たとえば、バルトークの切れの良さと自在な身のこなし、そしてびくともしない安定感は並みではない。」平林直哉～ライナーノーツより



LPSMBA020 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA035 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA021 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMAC003 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)

[A面]テレマン:組曲ト長調、ストラヴィンスキー:協奏的二重奏曲
 [B面]シュベルト:幻想曲 ハ長調 D.934

**ミシェル・オークレール(ヴァイオリン)
 ジュヌヴィエーヴ・ジョワ(ピアノ)**

ライヴ録音:1967年4月10日 ボルドー
 ●1967年ボルドーにおけるオークレールの全盛期の演奏からテレマンの組曲 ト長調、ストラヴィンスキーの協奏的二重奏曲、そしてシュベルトの幻想曲を収録。「テレマンの冒頭は、まさにこの言葉がぴったりで、モノラルではあるが、実に手に取るように伝わってくる。ストラヴィンスキーも実に柔軟な解釈であり、全く見事だが、圧巻は幻想曲であろう。」平林直哉〜ライナーノートより

[A面]①ラヴェル:ヴァイオリンとチェロのためのソナタ
 ②オネゲル:チェロ・ソナタ〜第1楽章
 [B面]②オネゲル:チェロ・ソナタ〜第2,3楽章
 ③マルティヌー:チェロ・ソナタ第3番 H.340

**アンドレ・レヴィ(チェロ)
 ①ジャンヌ・ゴートイエ(ヴァイオリン)
 ②アンリエット・ビュイク＝ロジェ(ピアノ)
 ③ジュヌヴィエーヴ・ジョワ(ピアノ)**

①セッション録音:1959年4月7日 ORTFスタジオ、②セッション録音:1966年5月5日 ORTFスタジオ、③セッション録音:1968年4月1日 ORTFスタジオ
 ●アンドレ・レヴィのR.T.F録音集からラヴェルのヴァイオリンとチェロのためのソナタ、オネゲルのチェロ・ソナタ、そしてレヴィ最後の録音となったマルティヌーのチェロ・ソナタ第3番を収録。

①モーツァルト:ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364より第1,2楽章[A面]、第3楽章[B面]
 ②J.S.バッハ:ヴァイオリン協奏曲第2番 ホ長調 BWV1042[B面]

**ミシェル・オークレール(ヴァイオリン)
 ①フェルナン・ウーブラドゥ(指揮)
 ロジェ・ルバウ(ヴィオラ) バリ室内管弦楽団
 ②ピエール・カブドヴィーユ(指揮) RTF室内管弦楽団**

①ライヴ録音:1961年3月5日 パリ、②ライヴ録音:1959年1月8日 パリ
 ●ミシェル・オークレールによるバッハの協奏曲第2番、モーツァルトの協奏交響曲を収録。「モーツァルトの協奏交響曲。このオークレールらの演奏は現代的で新鮮であり、なおかつ気品と優雅さにも溢れている。(中略)バッハも、本当に心に沁みる演奏である。気持ち、ゆるやかなテンポを設定し、丁寧に、慈しむように弾いているが、オークレール独特の味わいも、しっかりと聴き取ることが出来る。」平林直哉〜ライナーノートより

J.S.バッハ:
 [A面]無伴奏チェロ組曲第2番 二短調 BWV1008
 [B面]無伴奏チェロ組曲第6番 二長調 BWV1012

アンドレ・レヴィ(チェロ)

録音:1960年 パリ(モノラル)
 ●雄弁に歌い上げるレヴィの個性的な歌い回しによるバッハの無伴奏組曲第2&6番。濃厚な味わいと香り高き音色に酔いしれることができます。



LPSMBA041 (1LP+1ボーナスCD)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMBA042 (1LP+1ボーナスCD)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMAC004 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)



LPSMAC005 (LP)
 プレス:東洋化成株式会社(日本)

アンリース・シュミット・ドゥ・ヌヴェー未発表録音集 Vol.1
 [A面]①メンデルスゾーン:チェロ・ソナタ第2番 二長調 Op58
 [B面]②ミヨー:エレジー〜チェロとピアノのための
 ③レーガー:2つの演奏用小品 Op.79e
 ④マルティヌー:バストラレーより第2, 5, 6番

**アンリース・シュミット・ドゥ・ヌヴェー(チェロ)
 ①②④ロルフ・クニーバー(ピアノ)
 ③アルフォンス・カーデ(ピアノ)**

録音:①1959年4月15日 カールスルーエ、②1961年3月15日 ハンブルク、③1959年10月15日 ハンブルク、④1963年6月6日 ハンブルク
 ●ドイツの女流チェリストによる未発表音源第1集、オープンリールテープから初LP化! 全世界500セット完全限定、LPと同内容のボーナスCD付!

アンリース・シュミット・ドゥ・ヌヴェー未発表録音集 Vol.2
 [A面]①ケーデルグロワ:組曲 二長調
 ②テイラー:チェロ・ソナタ 二長調
 ③ルーセル:アリア〜チェロとピアノのための
 [B面]④アルブレヒツベルガー:スケルツァンド
 ⑤ヴェルフル:二重奏曲 二短調〜チェロとピアノのための

**アンリース・シュミット・ドゥ・ヌヴェー(チェロ)
 ①②⑤アルフォンス・カーデ(ピアノ)
 ③④ロルフ・クニーバー(ピアノ)**

録音:①②1964年5月13日 ベルリン、③1961年3月15日 ハンブルク、④1952年4月6日 ハンブルク、⑤1959年10月20日 ハンブルク
 ●ドイツの女流チェリストによる未発表音源第2集、オープンリールテープから初LP化! 全世界500セット完全限定、LPと同内容のボーナスCD付!

ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.77
 [A面]第1楽章
 [B面]第2,3楽章

**ヨハンナ・マルツィ(ヴァイオリン)
 バウル・クレツキ(指揮)
 フィルハーモニア管弦楽団**

録音:1954年2月15-17日 キングスウェイ・ホール(ロンドン)
 ●「ヴァイオリンの魅惑の女王」がEMIに録音したブラームス。心を震わせる力強さと濁りのない音色で聴き手を魅了する超名演!

[A面]①ヘンデル:ラルゴ ②J.S.バッハ:グノー:アヴェ・マリア ③J.S.バッハ:アリア
 ④ルイド・ケ＝デルグロワ:訴え ⑤ヴィヴァルディ:ラルゴ ⑥ガイヤール:サラバンド
 ⑦ハイドン:アンダンテ
 [B面]⑧モーツァルト:アヴェ・ヴェルム・コルプス ⑨ベートーヴェン:アダージョ
 ⑩シュベルト:アヴェ・マリア ⑪シュマン:トロイメライ ⑫シュマン:タベの歌
 ⑬フランク:天使の糧

**ユリウス・ベッキ(チェロ)
 ハンス・フォーレンヴァイダー(オルガン)**

セッション録音:1964年4月 グロスミュンスター教会、チューリヒ(スイス)
 ●濃厚な音色が魅力のベッキがオルガン伴奏で名曲を録音した大変貴重なレア盤。教会に響き渡る重厚感に満ちた音楽!



LPSMBA036 (LP) 生産終了品
 プレス:東洋化成株式会社 (日本)



LPSMBA037 (1LP+1CD)
 プレス:東洋化成株式会社 (日本)

ブラームス:ピアノ協奏曲第2番変ロ長調Op.83

[A面] 第1楽章

[B面] 第2,3楽章

スヴァトスラフ・リヒテル(ピアノ)

ヴィトルド・ロヴィツキ(指揮)

フランス国立放送管弦楽団

ライヴ録音:1961年10月6日 パリ、シャイヨー宮

●リヒテルのバリ・デビュー音源がLPで目の目を見る! 神懸かり的な名演、あまりの集中力のためあっという間に終るほどの充実感。

プロコフィエフ:交響曲第5番変ロ長調Op.100

[A面] 第1,2楽章

[B面] 第3,4楽章

クラウス・テンシュテット(指揮)

フランス国立管弦楽団

ライヴ録音:1977年10月12日 パリ、サル・ブレイエール

●どす黒く渦巻く感情と暴力的な迫力で、プロコフィエフが背後に隠した恐ろしさを白日のもとに晒した大名演。初回特典で同音源のCD付。

BERLINER PHILHARMONIKER RECORDINGS

ベルリン・フィル・レコーディングス

世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルによる自主レーベル。

若き名エンジニア、クリストフ・フランケの録音、そして歴史あるエミール・ベルリナー・スタジオのスタッフによって製作されるLPは非常に高品位。



KKC1045/8 (4LP) 生産終了品
 プレス:オプティマル社(ドイツ)

シューマン:交響曲全集

交響曲第1番変ロ長調 Op.38 [LP1]

交響曲第4番ニ短調 (1941年版) [LP2]

交響曲第2番ハ長調 Op.61 [LP3]

交響曲第3番変ホ長調「ライン」Op.79 [LP4]

サー・サイモン・ラトル(指揮)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

録音:2013年2月、10月、11月 フィルハーモニー、ベルリン(ライヴ)

【封入特典】ダウンロード・コード:最大192kHz/24bit 2.0 Stereoないし5.0 Surroundのハイレゾリソース音源がダウンロード可能なコードが封入されています。デジタル・コンサートホール:ベルリン・フィルのネット映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」が7日間無料でご利用になれるチケットが封入されています。

●2014年夏にスタートした新レーベル「ベルリン・フィル・レコーディングス」からこだわり抜いたLPが登場。名トーンマイスターとして知られているライナー・マイヤール氏の録音スタジオ、エミール・ベルリナー・スタジオで、LPのマスタリングのスペシャリスト、マールテン・デ・ブル氏がマスタリングを担当、ドイツ有数の製造会社「オプティマル」でプレスされています。

●音楽愛好家のための特別仕様。布張り的高级LPボックスで、ハードカバーの美麗ブックレット(36ページ)には、カバーデザインに使用されたKPM創作花瓶「シューマン」があらわれています。花瓶は、19世紀前半のオリジナル花模様と、当時の典型的な形状を復刻していると同時に、シューマンの作曲当時の「心の闇」を象徴する歪みを持っています。このアルバムのために、KPMとベルリン・フィルのコラボレーションにより特別に制作されました。当ブックレットでは、そのすべての側面が、LPサイズで十全にご覧いただけます。

●さらには最大192kHz/24bit 2.0 Stereoないし5.0 Surroundのハイレゾ音源ダウンロードや「デジタル・コンサートホール」無料試聴チケットが封入され、多角的にベルリン・フィルを堪能できる商品です。世界限定1000セット(通し番号付)。



KKC1054 (8LP)

プレス: オプティマル社(ドイツ)

シューベルト: 交響曲全集

交響曲第1番 二長調 D82 [LP1 A面]

交響曲第3番 二長調 D200 [LP1 B面]

交響曲第2番 変ロ長調 D125 [LP2 A面: 第1, 2楽章 B面: 第3, 4楽章]

交響曲第4番 ハ短調 D417『悲劇的』[LP3 A面: 第1, 2楽章 B面: 第3, 4楽章]

交響曲第5番 変ロ長調 D485 [LP4 A面: 第1, 2楽章 B面: 第3, 4楽章]

交響曲第6番 ハ長調 D589 [LP5 A面: 第1, 2楽章 B面: 第3, 4楽章]

交響曲第7番 口短調 D759『未完成』[LP6 A面: 第1楽章 B面: 第2楽章]

交響曲第8番 ハ長調 D944『グレート』[LP7 A面: 第1楽章 B面: 第2楽章, LP8 A面: 第3楽章 B面: 第4楽章]

ニコラウス・アーノンクール(指揮)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

録音: 2003年10月23-25日[交響曲第3&4番]、2004年4月22-24日[交響曲第1番]、2004年12月2-5日[交響曲第6&7番]、2005年4月14-16日[交響曲第2番]、2006年3月22-24日[交響曲第5&8番] フィルハーモニー、ベルリン(ライヴ)

【封入特典】ダウンロード・コード: 上記のLP8枚分のハイレゾ音源をダウンロードできる無料チケットコード(24bit/48kHz)

デジタル・コンサートホール: 7日間無料視聴バウチャー

●2015年度「第53回」レコード・アカデミー賞 大賞を受賞したアーノンクルの「シューベルト・エディション」(KKC-5445)から、交響曲全曲がLP化されました。本セットにも恒例のハイレゾ音源のダウンロード・コードとデジタル・コンサートホール7日間無料視聴バウチャーが付属しています。

●「シューマン交響曲全集」のLP(KKC1045)でも、そのこだわり抜いた音質は話題となりましたが、今回も同様に、名トーンマイスターとして知られているライナー・マイヤー氏の録音スタジオ、エミール・ベルリナー・スタジオで、マスタリングが行われ、ドイツ有数の製造会社「オプティマル」でプレスされています。

●「モーツァルトやベートーヴェンと比較することには意味はなく、シューベルト独自の音楽世界を表現するべきだ」と言うアーノンクール。特に初期の交響曲に関しては、作品を歴史上の一過程と捉えるものではなく、完成された個々の作品として細部まで磨き上げられた音楽を聴かせています。アーノンクールにとってシューベルトの交響曲全曲録音はコンサートデビュー以来2度目。その他にも、ウィーン交響楽団やベルリン・フィルとも単曲で収録しているアーノンクールは、シューベルトの作品に対して「シューベルトは常に心の友であり、音楽の化身でした」と語っており、自身にとっても特別な演奏であることがうかがえます。

●アーノンクールは2015年12月5日に体力的な理由から引退を表明しています。このLPセットは、一時代を築いた古楽界、音楽界の名匠の貴重な音源となるでしょう。



KKC1062 (6LP)

生産終了品

プレス: オプティマル社(ドイツ)

ブラームス: 交響曲全集

交響曲第1番 ハ短調 Op.68 [LP1 A面: 第1楽章 B面: 第2楽章, LP2 A面: 第3, 4楽章]

交響曲第2番 二長調 Op.73 [LP2 B面: 第1楽章, LP3 A面: 第2楽章 B面: 第3, 4楽章]

交響曲第3番 ハ長調 Op.90 [LP4 A面: 第1楽章 B面: 第2楽章, LP5 A面: 第3, 4楽章]

交響曲第4番 ホ短調 Op.98 [LP5 B面: 第1楽章, LP6 A面: 第2楽章 B面: 第3, 4楽章]

サー・サイモン・ラトル(指揮)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

録音: 2014年9月18日[第1番 第1楽章]、9月23日[第1番 第2, 3, 4楽章]、9月19日[第2番 第1, 3, 4楽章]、9月24日[第2番 第2楽章]、9月25日[第3番]、9月26日[第4番] フィルハーモニー、ベルリン(ライヴ)

●ベルリン・フィル・レコーディングスから、サー・サイモン・ラトル指揮による「ブラームス交響曲全集」が発売されます。当盤は、2014年9月にベルリンのフィルハーモニーで行われたライヴ・コンサートを、ダイレクトカット方式により収録したLPレコードです。LPのみの発売で、CD化の予定はありません。通常レコード制作では、マスター作成にあたり、複数のテイクをつなぎ合わせる編集とマスタリングを行います。今回のダイレクトカット録音では、そうした工程は一切行わず、ひと組のステレオ・マイク(ゼンバイザーMKH800Twin)で拾った音(波動)を、直接カッティング・マシンにつなぎ、ラッカー盤に刻み込んでいます。シンプルな方法ながら、真正正銘の「生音」を録った究極のアナログ録音です。

●今日では、ダイレクトカットで録音が行われることはほとんどありません。ベルリン・フィルも、最後にこの方式で収録を行ったのは、70年前。その際最大の難関となるのは、編集ができないため、演奏上のミスがそのまま盤に刻まれてしまうことです。特に大編成のオーケストラ作品ではリスクが高く、今回の録音が実現したのは、まさに世界最高峰のベルリン・フィルだからこそと言えるでしょう。機材にも注目が集まります。収録で使用されたのは、LPレコード制作の金字塔と呼ばれるノイマンのカッティンググレースVMS-80。制作を担当したのは、ドイツを代表するトーンマイスター、ライナー・マイヤー氏(ドイツ・グラモフォンの黄金時代の録音技師として有名)が主宰するエミール・ベルリナー・スタジオです。重さ400キロのカッティング・マシンを500メートル先のフィルハーモニーに運び込み、音声スタジオ「第4スタジオ」で収録が行われました。当LPは、ベルリン・フィルのメンバーのただならぬ緊張感、そして録音チームの強い意気込みが刻み込まれた一大企画です。

●そしてベルリン・フィルの思いが詰まったこのLPは完全限定プレス。全世界で1833セット(ブラームスの生年と同じ数)、そのうち日本盤が500セット。日本盤には豪華3大特典が付きます。

【日本盤のみの3大特典】1. 日本のためにベルリン・フィル・レコーディングスにより特別に作成された日独版布張りハードカバー・ブック(注: 日本盤にはインターナショナル版のハードカバー・ブック(独英)と日本語版とが両方封入されています。) 2. トーンマイスター(録音技師)、ライナー・マイヤー氏のサイン入り品質保証書 3. 生写真2枚・ラトルとベルリン・フィル(フィルハーモニーの第4スタジオから収録中に撮影したもの)・収録に使用されたノイマンのカッティング・マシンVMS-80



KKC1070/9 (10LP)

プレス:オプティマル社(ドイツ)

ベートーヴェン:交響曲全集(ペーレンライター版/ジョナサン・デル・マー校訂版)

交響曲第1番ハ長調 Op.21 [LP1 A面]

交響曲第2番ニ長調 Op.36 [LP1 B面、LP2 A面]

交響曲第3番変ホ長調 Op.55『英雄』 [LP2 B面、LP3]

交響曲第4番変ロ長調 Op.60 [LP4]

交響曲第5番ハ短調 Op.67『運命』 [LP5]

交響曲第6番ヘ長調 Op.68『田園』 [LP6]

交響曲第7番イ長調 Op.92 [LP7]

交響曲第8番ヘ長調 Op.93 [LP8]

交響曲第9番ニ短調 Op.125『合唱』 [LP9&10]

サー・サイモン・ラトル(指揮)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

アンネッテ・ダッシュ(ソプラノ)

エーファ・フォーゲル(アルト)

クリスティアン・エルスナー(テノール)

ディミトリー・イヴァシュシェンコ(バス)

ベルリン放送合唱団、サイモン・ハルジー(合唱指揮)

録音:2015年10月6&12日[第1,3番]、10月7&13日[第2,5番]、10月3,9&15日[第4,7番]、10月8&14日[第8,6番]、10月10&16日[第9番] フィルハーモニー、ベルリン(ライヴ) レコーディング・プロデューサー:クリストフ・フランケ、サウンド・エンジニア:ルネ・メラー、LPマスタリング:ライナー・マイヤー、フレデリック・スタンデル、エミール・ベルリナー・スタジオ MS方式ワンポイントマイクによる録音(24bitのマスターを使用してのカッティング)

【封入特典】ダウンロード・コード:このLP-BOXには、上記全曲のハイレゾ音源(24bit/192kHz)をダウンロードするためのURLとそのパスワードが封入されています。デジタル・コンサートホール:ベルリン・フィルの映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」を7日間無料視聴できるチケット・コードが封入されています。カバー・イメージ:イサ・ゲンツケン《Fenster》1990

●2015年10月に本拠地ベルリンのフィルハーモニーで行われたベートーヴェン・ツイクルスが10枚組LPボックスで発売となります。2016年5月の来日の際に発売されたベートーヴェン交響曲全集CD+ブルーレイ(KKC9151)は、オケの充実した響き、ラトルの深い解釈、そして素晴らしい音質で話題となりました。この度発売されるLPは、演奏日付は前述のセットと同じですが、録音方法が異なり、2本のマイクをMS方式でセッティングし録音されています。MS方式というのは単一指向性のMidマイクと左右に指向性のある双指向性のSideマイクを上下に配置するというマイクセッティング。またブラームス交響曲全集6LP(完全限定盤/完売)で行われた一組のステレオマイクを用いるワンポイント録音と同様で、マイク同士の位相差がなく、音像が明確になり濁りのない音が收音され、コンサートホールの特等席で聴いているような臨場感を味わうことができます。LPは、こうして録音された24bitのマスター音源をもちいてカッティングされています。

●ラトルはウィーン・フィルとベートーヴェン全曲録音(2002年)を行っており、20世紀後半に発表されたペーレンライター社によるジョナサン・デル・マー校訂版を用い、そこにラトルらしい解釈を加えた新しいベートーヴェン像として当時話題になりました。本演奏でも同様の版を使っていますが、ラトルの鋭く攻め入るスタイルそして一音一音を大切に作る緻密な指揮ぶり、それにベルリン・フィルの重量級の表現が反映され、ベルリン・フィルの持つ音楽的パワーを実感する推進力に満ちた演奏を繰り広げています。解説書には、校訂者ジョナサン・デル・マーがペーレンライターについて語った文章も挿入されており、ラトルとの興味深い会話なども書かれており、ベートーヴェンの音楽、ラトルの演奏をより理解することができます。首席指揮者・芸術監督就任以来ラトルがベルリン・フィルと培ってきた「音楽」を存分に堪能できる内容となっています。



KKC1112 (3LP)

バラス社(ドイツ)

クラウド・ディオ・アバド/ザ・ラスト・コンサート

①メンデルスゾーン:劇付随音楽《夏の夜の夢》(抜粋)

[LP1 A面] 序曲、第1番スケルツォ

[LP1 B面] 第3番合唱付きの歌「舌先さけたまだら蛇」、第5番間奏曲、第7番夜想曲

[LP2 A面] 第9番結婚行進曲、第13番終曲「わずかな光」

②ベルリオーズ:幻想交響曲Op.14

[LP2 B面] 第1楽章:夢と情熱

[LP3 A面] 第2楽章:舞踏会、第3楽章:野の風景

[LP3 B面] 第4楽章:断頭台への行進、第5楽章:ワルブルギスの夜の夢

クラウド・ディオ・アバド(指揮)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

①デボラ・ヨーク(ソプラノ)

①ステラ・ドゥフェクシス(メゾソプラノ)

①コンスタニア・グルツィ(合唱指揮)

①バイエルン放送合唱団女声団員

収録:2013年5月18、19、21日、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ) 録音:24bit/48kHz

【封入特典】ダウンロード・コード:上記全曲のハイレゾ音源(24bit/48kHz)をダウンロードするためのURLとそのパスワードが封入されています。デジタル・コンサートホール:ベルリン・フィルの映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」を7日間無料視聴できるチケット・コードが封入されています。

●2014年1月20日に亡くなった指揮者クラウド・アバド。カラヤン亡き後、1990年から2002年までの12年間、ベルリン・フィルの首席指揮者・音楽監督を務めました。退任後も楽団との良好な関係を築き、定期的に指揮台にあがっていました。この録音は、「クラウド・アバド〜ザ・ラスト・コンサート」と題し、2013年5月にアバドがベルリン・フィルに最後に客演した際の演奏を収めたもの。メンデルスゾーン《真夏の夜の夢》(序曲および6曲)およびベルリオーズ「幻想交響曲」が収録されています。当ディスクのコンセプトは、ベルリン・フィル団員のアバドへの思い出が詰まった「アルバム」。このLP盤の装丁も、格調高い赤の布張りハードカバーで、ブックレットにはプライベートを含む様々な写真が散りばめられています。その多くが、これまでに非公開だったもの。当時の楽団員や、共演のボリーニ、バレンボイム、ブレンデルらとのリハーサル風景。またサッカーや卓球を楽しむ姿などファンならずとも嬉しい写真が満載です。

●「アバドは妖精の世界を見ることができる」と評された演奏はもちろんのこと、総じてベルリン・フィルのアバドの思い出が、凝縮されており、「アルバム」の名に相応しい内容となっています。アバド・ファン、アバド時代のベルリン・フィルに関心を持つリスナーには、絶対に見逃せないタイトルと言えるでしょう。



©OrdnungsGroth

2L



ノルウェーの高音質レーベル。ブルーレイ・オーディオやMQAといった最新フォーマットでのリリースも活発。最高品位352.8kHz/24bitDXDで録音されたマスターを使ったLPは、誰もが納得するオーディオファイルとして聴かれています。



2L100LP (2LP)
プレス:バラス社(ドイツ)



2L090ALP (LP)
プレス:バラス社(ドイツ)



2L090CLP (LP)
プレス:バラス社(ドイツ)

フリント・フベンティエ・ノ・ベッペ:管弦楽作品集
遙かな銀河 Op.81 [ヴィオラ・ダ・ガンバと管弦楽のための]*、
遠い言葉 Op.43b [クラリネットと弦楽オーケストラのための]**、
天国の下で網渡り Op.32-8 [管弦楽のための]、
フルート協奏曲第2番 Op.80 ***、9月に失くして Op.17 [管弦楽のための]

フィルハーモニア管弦楽団
ヴラディーミル・アシュケナージ(指揮)
ラルフ・フルソー(ヴィオラ・ダ・ガンバ)*
マーク・ヴァン・デ・ヴィール(クラリネット)** エミリー・バイノン(フルート)***

録音:2012年5月 フトフォード・コロシウム(フトフォード、イギリス) 制作&バランスエンジニアリング:モッテン・リンドベルグ、録音:ピアトリス・ヨハンネセン
●オルガン付き大編成の管弦楽を伴うフルート協奏曲第2番、ヴィオラ・ダ・ガンバにグラスハーモニカも登場する「遙かな銀河」など、音響的にも興味津々。指揮はアシュケナージ!

トロンハイム・ソロイスツ — 思い出 Part I
チャイコフスキー:弦楽のためのセレナード ハ長調 Op.48
ニールセン:小組曲 FS6 Op.1~弦楽オーケストラのための

トロンハイム・ソロイスツ
ゲイル・インゲ・トルベルグ(リーダー)
オイヴィン・ギムセ(芸術監督)

録音:2011年5月 セルビュ教会(セルビュ、ノルウェー) 制作・録音:モッテン・リンドベルグ [DXD (24bit/352.8kHz) 録音]
●演奏者が聴いている音を聴き手にそのまま聴いてほしい...ライブと録音の音の違いではなく、演奏者自身と聴き手にとっての音の違いを極力までなくしていこう! そんなこだわりから2週間もかけてレコーディングが行われた究極の高音質のLPです!

ロンハイム・ソロイスツ — 思い出 Part II
チャイコフスキー:フィレンツェの思い出 Op.70
ニールセン:《若き芸術家の棺のかたわらで》FS58 [アンダンテ・ラメントーゾ]

トロンハイム・ソロイスツ
ゲイル・インゲ・トルベルグ(リーダー)
オイヴィン・ギムセ(芸術監督)

録音:2011年10月 セルビュ教会(セルビュ、ノルウェー) 制作・録音:モッテン・リンドベルグ [DXD (24bit/352.8kHz) 録音]
●演奏者が聴いている音を聴き手にそのまま聴いてほしい...ライブと録音の音の違いではなく、演奏者自身と聴き手にとっての音の違いを極力までなくしていこう! そんなこだわりから2週間もかけてレコーディングが行われた究極の高音質のLPです!



2L092LP (LP)
プレス:バラス社(ドイツ)



2L087LP (LP)
プレス:バラス社(ドイツ)

ヤン・グルナル・ホフ / LIVING
1.Living [生きていること] 2.Mirror I [鏡 I] 3.Mountain High [山の高みへ]
4.Karlygash [つばめ] 5.Coming My Way [なにかがやってくる] 6.Mirror II [鏡 II]
7.Florence [フィレンツェ] 8.Brytning [争い] 9.Fly North [北に向かって]
10.Valse de Decembre [十二月のワルツ] 11.Sommernat [夏の夜] 12.Feberdigte [熱狂の詩]
13.Å eg veit meg eit land [ヌールランの県歌「おお、私は故郷を知っている」]
14.Sacrifice [犠牲]

ヤン・グルナル・ホフ(ピアノ)

録音:2012年8月 ソフィエンベルグ教会(オスロ、ノルウェー) 制作・録音:モッテン・リンドベルグ
●ノルウェーのソフィエンベルグ教会で行われた録音は、2Lらしいクリアなクリスタルのように美しい音で収録されており、ホフの繊細かつ情熱的な美しいピアノが的確に捉えられています!

Quiet Winter Night
1.Dronning Fjellrose [マウンテンローズの女王] 2.Stille, stille kommer vi [そっと、静かに僕らはやってくる] 3.Dele alle ord og tanker [言葉と思考を共にして]
4.Redd Mamma [不安がる母さん] 5.Sulla, sulla krekling [歌え、歌え、つるこけもも] 6.Ville fjellgutt [山の若者] 7.Blågutten [青い少年] 8.Hva skal hende nå? [さあ、何が起きる?] 9.Vesle, rare bygdeunge [小さく奇妙な村の子供]
10.En blånissekveld [青ニッセの夕べ] 11.Kveldslokk for små unger [夕べに子供たちを呼ぶ声] 12.Lys i desember [十二月の光]

ホフ・アンサンブル

DXD 24bit/352.8kHz DMM 180g
●アナログ・ファン狂喜の超絶サウンド。ノルウェーの旋律、音色、色彩感をベースに、しつとり、祈りも滲む音楽は、ケルトをベースにしたエンヤの音楽の世界に大きく通じるものといえ、清らかで深遠なるものを感じずにはられません。

ACCENTUS MUSIC

アクセントゥス・ミュージック

ドイツ、ライブツィヒを拠点とするレーベル。
映像を主に手がけていますが、アーティストとの密接な関係からCDやLPの制作も行っています。ヨーロッパで活躍する中国人ピアニスト、シュ・ジャオメイのバッハなど丁寧な商品作りに定評あり。



ACC40308LP (2LP)
プレス:バラス社(ドイツ)

J.S.バッハ:フーガの技法 BWV1080

シュ・ジャオメイ(ピアノ)

録音:2014年2月 ゲヴァントハウス・メンデルスゾーン・ザール(ライブツィヒ)
●シュ・ジャオメイは中国の文化大革命を乗り越えたピアニスト。その卓越したテクニックと表現力、そして鮮烈で知性あふれるバッハの演奏で高く評価されています。



ACC40350LP (2LP)
プレス:ハラス社(ドイツ)



KKC1055 (LP)
プレス:ハラス社(ドイツ)



KKC1068 (2LP)
プレス:ハラス社(ドイツ)



KKC1108/9 (2LP)
プレス:ハラス社(ドイツ)

J.S. バッハ:インヴェンションとシンフォニア BWV772-801

シュ・シャオメイ (ピアノ)

録音:2015年7月 ゲヴァントハウス・メンデルスゾーン・ザール(ライブツィヒ)
●バッハならではの芸術的創意に溢れた作品、インヴェンションとシンフォニアを名手シュ・シャオメイが奏でます。

ブルックナー:交響曲第1番ハ短調 WAB101(ウィーン稿1891)

クラウディオ・アバド(指揮) ルツェルン祝祭管弦楽団

ライブ録音:2012年8月 ルツェルン音楽祭
●2012年ルツェルン音楽祭での、アバドによるブルックナー交響曲第1番。晩年のアバドらしい、良い意味で肩の力の抜け、感性がより研ぎ澄まされた演奏を聴かせてくれます。

J.S. バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988

シュ・シャオメイ (ピアノ)

録音:2016年 ボワティエ・オーディトリウム劇場(フランス)
●ヨーロッパを拠点とする中国人ピアニスト、シュ・シャオメイ。彼女の代名詞とも言える作品「ゴルトベルク変奏曲」を25年ぶりに再録音。驚異の名演奏です。

J.S. バッハ:フランス組曲(全曲)

[LP1 A面] 組曲第2番ハ短調 BWV813、組曲第4番変ホ長調 BWV815
[LP1 B面] 組曲第6番ホ長調 BWV817
[LP2 A面] 組曲第1番ニ短調 BWV812、組曲第3番口短調 BWV814
[LP2 B面] 組曲第5番ト長調 BWV816

シュ・シャオメイ (ピアノ)

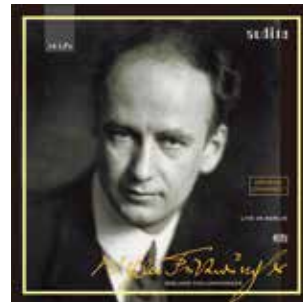
録音:2016年5月メンデルスゾーン・ザール、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス
●「私はこの『フランス組曲』に取り組むときに、シンプルで純粋な子どもの心を常に持つように心がけました。演奏するたびに私に訴えかけてくる言葉があります。それは音楽を解釈する上で最も難しく、また本質的なこと。"シンプルであること。これは自由を得ることを意味する。"これは20世紀スペインの画家ジョアン・ミロの言葉です。」シュ・シャオメイ

AUDITE

オーディエテ

放送局のオリジナルのマスターテープを確かな技術で定評のある独auditeの社主にしてトーン・マイスターのルトガー・ベッケンホーフ氏が丁寧に採録、驚くべき音質で聴くことができます。とりわけフルトヴェングラーの復刻では高い評価を得ています。

audite
MUSIKPRODUKTION



KKC1083 (14LP BOX)
プレス:ハラス社(ドイツ)

ベートーヴェン:交響曲第6番 へ長調 Op.68「田園」(録音:1947年5月25日)
[LP1 A面:第1,2楽章 B面:第3-5楽章]
ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 Op.67「運命」(録音:1947年5月25日)
[LP2 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ベートーヴェン:交響曲第6番 へ長調 Op.68「田園」(録音:1954年5月23日)
[LP3 A面:第1,2楽章 B面:第3-5楽章]
ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 Op.67「運命」(録音:1954年5月23日)
[LP4 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ベートーヴェン:交響曲第3番 へ長調 Op.55「英雄」(録音:1950年6月20日)
[LP5 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP6 A面:第3,4楽章]
ベートーヴェン:交響曲第3番 へ長調 Op.55「英雄」(録音:1952年12月8日)
[LP6 B面:第1楽章、LP7 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]
ブルックナー:交響曲第8番 ハ短調(録音:1949年3月15日)
[LP8 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP9 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
シューベルト:交響曲第8番 口短調「未完成」(録音:1953年9月15日)
[LP10 A面]
シューベルト:交響曲第9番 へ長調「グレイト」(録音:1953年9月15日)
[LP10 B面:第1楽章、LP11 A面:第2楽章 B面:第3,4楽章]
ブラームス:交響曲第4番 ホ短調 Op.98(録音:1948年10月24日)
[LP12 A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]
ブラームス:交響曲第3番 へ長調 Op.90(録音:1949年12月18日)
[LP13 A面:第1-3楽章 B面:第4楽章]
ブラームス:ハイ든の主題による変奏曲 Op.56a(録音:1950年6月20日)
[LP13 B面]
ブラームス:交響曲第3番 へ長調 Op.90(録音:1954年4月27日)
[LP14 A面:第1-3楽章 B面:第4楽章]
ワーグナー:「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と愛の死(録音:1954年4月27日)
[LP14 B面]

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮) ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

●2009年、AuditeがRIASに眠っていたオリジナルテープ(76cm/sec)から細心のマスタリングでCD化したフルトヴェングラー・コンプリート RIASレコーディングズのCD BOX(AU-21403)は驚異的なセールスを記録。オリジナルテープの音をアナログで聴きたいという世界中からの要望にこたえ、ドイツ・オーストリアの交響曲を中心に180gの重量盤14枚組で発売されました。



KKC1052 (2LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



AU80465 (2LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



AU82501 (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



AU82502 (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

ベートーヴェン:交響曲第9番 二短調 Op.125 「合唱付き」
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4楽章]
エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ) エリザ・カヴェルティ(アルト)
エルンスト・ヘフリガー(テノール) オットー・エーデルマン(バス)
ヴィルヘルム・フルトヴェングラー(指揮)
フィルハーモニア管弦楽団 ルツェルン祝祭合唱団

ライヴ録音:1954年8月22日 ルツェルン・フェスティヴァル(モノラル)
●フルトヴェングラー歿後60周年として2014年にアウディーテ・レーベルよりリリースされたフルトヴェングラーの1954年8月22日のルツェルン・ライヴのLP盤。放送局のオリジナルのマスターテープを確かな技術で定評のあるアウディーテの社主でトーン・マイスターのルトガー・ベッケンホーフ氏が丁寧に採録したことにより驚くべき音質で聴くことができます。

マーラー:交響曲第5番
[LP1 A面:第1楽章 B面:第2楽章、LP2 A面:第3楽章 B面:第4,5楽章]
ラファエル・クーベリック(指揮)
バイエルン放送交響楽団

録音:1981年6月12日ライヴ
●なんと名楽章片面づつ、第4・5楽章は2枚目B面にまとまった贅沢な作り。ジャケも美しい装丁でLPならではの存在感です! 音質もCDで聴くよりもアナログならではの味わいがありながらも、81年の録音なので高レンジです。

グリーグ:「ベール・ギェント」
[A面]第1組曲Op.46、交響的舞曲集Op.64～第1番
[B面]交響的舞曲集Op.64～第2番、第3番&第4番

アイヴィン・オードラン(指揮)
ケルンWDR交響楽団

録音:2010年10月4-8日 ケルン・フィルハーモニー(デジタル・セッション) [WDR制作]
●独アウディーテ・レーベルからグリーグのグリーグ、ベール・ギェント第1集。グリーグと同じノルウェー出身の画家エドヴァルト・ムンクの「魅惑の森」(1903年頃)をアレンジしたジャケットも、LPのおおきなサイズだからこそよく映えます。DMM(ダイレクト・メタル・マスターカット)。180グラム重量盤仕様。三方見開きジャケット入り。

グリーグ:「ベール・ギェント」
[A面]第2組曲Op.55、リカルド・ノルドロークの思い出のための葬送行進曲 EG107
[B面]組曲「ホルベアの時代より」Op.40、鐘の音 Op.54-6[サイド編曲]

アイヴィン・オードラン(指揮)
ケルンWDR交響楽団

録音:2009年8&9月 ケルン・クラウス・フォン・ビスマルク・ザール(Op.40)、2010年10月(Op.55 & EG107)& 2012年10月(Op.54) ケルン・フィルハーモニー(デジタル・セッション) [WDR制作]
●独アウディーテ・レーベルからグリーグのグリーグ、ベール・ギェント第2集。グリーグと同じノルウェー出身の画家エドヴァルト・ムンクの「魅惑の森」(1903年頃)をアレンジしたジャケットも、LPのおおきなサイズだからこそよく映えます。DMM(ダイレクト・メタル・マスターカット)。180グラム重量盤仕様。三方見開きジャケット入り。

ARTE VERUM

アルテ・ヴェルム

名ソプラノ歌手バーバラ・ヘンドリックスのレーベル
(ラテン語で「真の芸術」の意。2006年設立)。
クラシック(リート、オーケストラ伴奏)から、
ジャズ・レパートリーまでリリースは多岐に渡ります。

Arte
verum



ARV005LP (1LP(200g)+1CD)
プレス:パラス社(ドイツ)



ARV013LP (1LP+1CD)
プレス:MPO社(フランス)

バーバラ・sings・ブルース
[A面]Lady Sings the Blues(Holiday / Nichols) Tell Me More and More
(And Then Some) (Holiday) Trouble in Mind(Jones) Don't Explain
(Holiday, Herzog) You've Been a Good Old Wagon(Henry)
[B面]Billie's Blues - I Love my Man(Holiday) Mood Indigo(Ellington,
Mills, Bigard) Downhearted Blues(Austin / Hunter) My Man(Albert
Willemetz, Jacques Charles/ Maurice Yvain) Strange Fruit (Allan)
※CDはLPと同内容

バーバラ・ヘンドリックス(メゾ・ソプラノ)
マグヌス・リンドグレン・クワルテット

Made in Germany by Pallas AUDIOpHILE RECORDING-33 1/2 RPM-VINYL
DISC-STEREO
●ヘンドリックスが芳醇なワインを思わせる豊かで深い大人の女性の声で、苦しみや
悲しみ、様々な感情を胸に秘めつつ、抑えの効いたブルースを歌い上げます。

バーバラ・ヘンドリックス&ブルース・バンド BLUES EVERYWHERE I GO
[A面]Blues Everywhere I Go, It's Hard, Oh Lord, Oh My Babe, Cross Road
Blues(Robert Johnson)
[B面]Oh Freedom, Dinks Blues(Dink Johnson), Down in Mississippi(J.B.
Lenoir), I Wish I Knew How It Would Feel To Be Free(Bill Taylor, Richard
Carroll Lamb)
[CD]1.Algots' Blues - instrumental(Mathias Algotsson)
2.Blues Everywhere I Go 3.It's Hard, Oh Lord 4.Oh My Babe
5.Dinks Blues(Dink Johnson) 6.Oh Papa(Davide Elman)
7.Cross Road Blues(Robert Johnson)
8.Mo' Better Blues - instrumental(William Lee)
9.Another Man Done Gone
10.Intermezzo - instrumental(Mathias Algotsson)
11.Strange Fruit (Allan Lewis) 12.Down in Mississippi(J.B.Lenoir)
13.I Wish I Knew How It Would Feel To Be Free(Taylor, Lamb)
14.Oh Freedom 15.Freedom Highway(Roebuck Staples)

バーバラ・ヘンドリックス(ソプラノ)
マックス・シュルツ(ギター)
マティアス・アルゴットソン(ピアノ、ハモンド・オルガン)
クラ・ラスポ(コントラバス、エレクトリック・バス・ギター)
クリス・モンゴメリ(ドラム)

2015年1月26、27日 スtockホルム、スカラ劇場(ライヴ)
録音:Goran Stegborn—マスタリング:Claes Persson (CPR Recording)／カッテ
イング・エンジニア:Daniel Krieger (SST Germany)／Made in France by MPO
●バーバラ・ヘンドリックスが長年取り組んできたジャズ・レパートリーの新譜が登場。
差別で苦しんだ黒人たちは心の叫びや自由を求める声をすべて黒人霊歌に託して
いました。その黒人霊歌をもとにしたブルースからは、様々な情景が浮かんでくるよう
です。

CAVI MUSIC

CAVIミュージック

長年EMIのプロデューサーを務めた
アンドレアス・フォン・イムホフ氏が立ちあげたレーベル。
アルカント・カルテットの第1ヴァイオリンを務める
アンティエ・ヴァイトハースの録音も多く、
良質な演奏を高品位な録音で楽しむことができます。



4260085533435 (LP)
プレス:B.R.プロダクションズ(ドイツ)



4260085533428 (LP)
プレス:B.R.プロダクションズ(ドイツ)



4260085533923 (LP)
プレス:B.R.プロダクションズ(ドイツ)

ブラームス:

- ①ヴァイオリン協奏曲ニ長調Op.77
- ②「F.A.E.ソナタ」よりスケルツォWoO.2

アンティエ・ヴァイトハース(ヴァイオリン)

- ①カメラータ・ベルン
- ②ジルケ・アヴェンハウス(ピアノ)

録音:①2014年12月 カジノ、ベルン ②2006年12月 ケルン

●ヴァイトハース率いるカメラータ・ベルンによるブラームスの協奏曲の登場。アルカント・カルテットの第1ヴァイオリンを務めるヴァイトハース。現在、1962年に設立された伝統ある弦楽アンサンブルグループ、カメラータ・ベルンの芸術監督も務めています。

20世紀のピアノ作品集

ベルク:ピアノソナタ Op.1
シェーンベルク:3つのピアノ曲 Op.11
ツィンマーマン:ささやかな小品I&II
シェーンベルク:ピアノ小品集 Op.33a/33b

キャシー・クリエ(ピアノ)

録音:2015年5月 ルクセンブルク・フィルハーモニー、室内楽ホール

●ヨーロッパ・コンサート・ホール協会(ECHO)2015/2016シーズンのライジング・スターに選出されヨーロッパ各地の主要ホールで公演を行うルクセンブルク出身のピアニスト、キャシー・クリエが奏でる20世紀のピアノ作品集。

ドビュッシー:

映像 第1集【水に映る影/ラモー賛歌/動き】
映像 第2集【葉ずえを渡る鐘/荒れた寺にかかる月/金色の魚】
シマノフスキ:マスク(仮面劇)Op.34
【セラザード/道化のタントリス/ドン・ファンのセレナード】

キャシー・クリエ(ピアノ)

録音:2016年11月 フィルハーモニー・ルクセンブルク、室内楽ホール

●ヨーロッパ・コンサート・ホール協会(ECHO)2015/2016シーズンのライジング・スターに選出されヨーロッパ各地の主要ホールで公演を行うルクセンブルク出身のピアニスト、キャシー・クリエ。作曲家、作品、そして自身の表と裏を卓越した表現力と音楽性で見事に描いたアルバムです。20世紀のピアノ作品集(4260085533428)に続くキャシー2枚となるLPでの発売です。

EURO ARTS

ユーロアーツ



1979年にベルント・ヘルターラ氏によって設立された
独立系クラシック映像レーベル。ベルリン・フィルのコンサート映像や、
著名な映像監督ブリュノ・モンサンジョンのドキュメンタリー作品などを
リリースしています。また3Dや4Kといった新しい技術やLPと映像商品の
セット商品など、目を引く商品をいち早く取り入れています。



2064371 (1DVD+1LP)
国内解説付 KKC9293/94
オブティマル社(ドイツ)

[DVD]ドキュメンタリー

「ズザナ・ルージチコヴァー／音楽こそ人生Music is Life」～愛の物語、独裁と勝利
監督:ピーター・ゲッツェルス&ハリエット・ゴードン・ゲッツェルス
ボーナス:インタビューと演奏

[LP]J.S.バッハ／ズザナ・ルージチコヴァー(チェンバロ)

[A面]①カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」変ロ長調BWV992、

②幻想曲 ハ短調BWV906

[B面]トッカータ 短調BWV915、トッカータ 嬰ハ短調BWV910

[DVD]マハン・エスファハニ、ローベルト・ノイフェルト、
ヴァーツラフ・ルックス、ヴィクトル・カラビス、ダエダルス弦楽四重奏団
[LP]ズザナ・ルージチコヴァー(チェンバロ)

[DVD]制作:2017年 [LP] [A面]①録音:1973年5月8日 ブラハ(使用楽器:アンマー・チェンバロ)、②録音:1965年10月18-20日 バリ(使用楽器:ノイベルト・チェンバロ) [B面]録音:1973年5月8日 ブラハ(使用楽器:アンマー・チェンバロ)

●2017年9月27日に90歳で亡くなったチェコのチェンバロ奏者ズザナ・ルージチコヴァーの生涯を綴ったドキュメンタリー映像と、彼女がエラートに残したバッハの録音からのLPがセットになった追悼盤。本盤には、2016年に彼女の90歳記念として発売されたリマスターBOXからの音源を使用した4曲をLPとして収録しています。

FARAO CLASSICS

ファラオ・クラシックス



バイエルン国立歌劇場管弦楽団のヴァイオリニストも務めるエンジニアがミュンヘンにスタジオを構えるレーベル。世界的指揮者ケント・ナガノとの親交も厚く、臨場感あふれる音場の録音が特徴です。



V107301 (LP)
プレス: パラス社 (ドイツ)

カフェ・バンリユー／タンゴ・トリオ
[A面] E, Hawai, Cafe Banlieue, L'apres-Midi, Smalls, Reims rouge, A.G. Mius
[B面] Le Petit, Just a dream, Milonga, Barbara Bossa, La Belge, Lisboa

カフェ・バンリユー
【アルベン・シュバイウ (ヴァイオリン)
ペーター・ヴェブケ (チェロ)
ペーター・ルートヴィッヒ (ピアノ)】

録音: 2006年2月 ファラオ・スタジオ
●甘くそして切なく気品あふれる演奏で評判となったカフェ・バンリユー演奏のタンゴ・トリオ。今回180グラム、ダイレクト・マテリアル・マスタリングのハイクオリティ・アナログとして登場です!



V107302 (LP)
プレス: パラス社 (ドイツ)

R.シュトラウス: アルプス交響曲 Op.64

ケント・ナガノ (指揮)
エーテボリ交響楽団

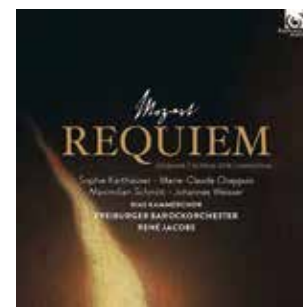
録音: 2014年11月 エーテボリ・コンサート・ホール
●2014年からエーテボリ交響楽団の首席指揮者を務めているとケント・ナガノによるリヒルト・シュトラウスの「アルプス交響曲」のLP盤!

HARMONIA MUNDI FRANCE

ハルモニアムディ・フランス



フランス、アルルを拠点とする、2018年に創立60周年を迎えるレーベル。古楽から現代音楽まで扱う音楽は幅広く、また、イザベル・ファウスト、ジャン＝ギアン・ケラス、アレクサンドル・メルニコフといった世界的ソリストから、ルネ・ヤーコプス、パブロ＝エラス・カサド、近年ではダニエル・ハーディングといった指揮者も録音に参加しています。



HMM332292 (LP) 生産終了品

モーツァルト: レクイエム
[ジュスマイヤー版にもとづく、ビエール＝アンリ・デュロンによる補完版 (2016年)]

ゾフィー・カルトホイザー (ソプラノ)
マリー＝クロード・シャビュイ (アルト)
マキシミリアン・シュミット (テノール)
ヨハネス・ヴァイサー (バリトン)
フラブルク・バロック・オーケストラ
RIAS室内合唱団
ルネ・ヤーコプス (指揮)
レコーディング・エンジニア: ルネ・メーラー
プロデューサー: マルティン・ザウアー

録音: 2017年7月 テルデックス・スタジオ・ベルリン (録音ピッチ: A=430Hz)
●ヤーコプスがついにモーツァルトのレクイエムを録音。演奏会とは異なり、オーケストラと声楽 (合唱・ソリスト) は向かい合うかたちで録音に臨んでおり、適切なポジションにマイクを設置することにより、最良の自然なバランスが得られています。

MARIINSKY

マリンスキー

2009年5月設立の、マリンスキー劇場管弦楽団の自主レーベル。
いわずとした音楽監督のワレリー・ゲルギエフとオーケストラの演奏、
さらにはゲルギエフが認めたソリスト、歌手たちによる
多様なレパートリーをリリースしています。近年では映像やLPもリリース、
いずれもその完成度と質の高さに定評があります。



MARIINSKY



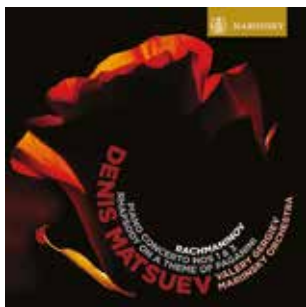
KKC1103/4 (2LP)

生産終了品

[LP1] チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番変ロ短調 Op.23*
(A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2 A面] チャイコフスキー:少しショパン風に Op.72-15、
ショパン:舟歌 Op.60、シューベルト/リスト編:魔王、春の思
[LP2 B面] シューベルト/リスト編:ます、水の上で歌う、町
シューマン/リスト編:献呈 [ボーナス] ムソルグスキー:ゴバック

ダニール・トリフォノフ(ピアノ)
ワレリー・ゲルギエフ(指揮) マリンスキー劇場管弦楽団*

録音:2011年10月25日&12月30日*、2011年10月26日、2012年1月24日、4月12日
サンクト・ペテルブルク、マリンスキー・コンサート・ホール
●トリフォノフとゲルギエフのチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番のLP化。第14回チャ
イコフスキー国際コンクール優勝という輝かしい経歴を誇る天才。かのアルゲリッチが
「彼の手から生み出されるテクニックは信じ難いものです。当LPでは、トリフォノフのタッチ
が細部まで表現され、さらにLPだけの特別トラックとしてムソルグスキーのゴバックも収録!



KKC1105/6 (2LP)

生産終了品

ラフマニノフ:
[LP1] ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op.30 (A面:第1楽章 B面:第2,3楽章)
[LP2 A面] ピアノ協奏曲第1番 嬰ヘ短調 Op.1 (改訂版)*
[LP2 B面] バガニニの主題による狂詩曲 Op.43

デニス・マツォエフ(ピアノ)
ワレリー・ゲルギエフ(指揮) マリンスキー劇場管弦楽団

録音:2009年2月15-20日&2014年11月16日* サンクト・ペテルブルク、マリンスキ
ー・コンサート・ホール
●1998年に行われた第11回チャイコフスキー国際コンクール、ピアノ部門で優勝し
たデニス・マツォエフはゲルギエフの超お気に入り、その強い希望もあって録音され
たラフマニノフの協奏曲集がついにリリース。一切の曖昧さなく駆け巡り爽快。若き
ラフマニノフの希望と心意気がにじみ出ます。ゲルギエフとマツォエフの気鋭の演
奏がLPに余すところなく収録されています。

チャイコフスキー:
バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71 (全曲)
[LP1:第1幕、LP2:第2幕]

ワレリー・ゲルギエフ(指揮)
マリンスキー劇場管弦楽団

録音:2015年6月16日、12月30日 サンクト・ペテルブルク、マリンスキー・コンサート・
ホール
●ゲルギエフ&マリンスキー劇場管弦楽団によるチャイコフスキーの「くるみ割り人
形」。チャイコフスキーのバレエ音楽は純音楽としても名作なため、多くの大指揮者
が録音していますが、いずれも踊りであることを無視した速いテンポや感情移入に彩
られることが常でした。しかし同曲の数限りない上演経験のあるゲルギエフとマリ
ンスキー劇場管弦楽団は、まさに同劇場伝統のテンポで堂々と作品を物語ります。2枚
組LPでの登場、くるみ割り人形にふさわしく、盤はそれぞれ赤と緑色になっています。



MAR0593LP (2LP)

生産終了品

PENTATONE

ペンタトーン

ハイエンド、マルチチャンネル・サラウンド・レコーディングに
特化したクラシック専門レーベル。
フィリップス・サウンドの継承してきたボリヒムニア・インターナショナルが
録音を担当しており数多くの優秀録音をリリースしています。

PENTATONE



KKC1080 (3LP)
プレス:バラス社(ドイツ)

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ(全6曲)
[LP1 A面]
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番ト短調 BWV1001
(I:アダージョ II:フーガ、アレグロ III:シチリアーナ IV:プレスト)
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番 ロ短調 BWV1002 (I:アルマンド)
[LP1 B面]
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番 ロ短調 BWV1002
(II:ドゥーブル III:クーラント IV:ドゥーブル V:サラバンド VI:ドゥーブル
VII:テンポ・ディ・ボレア VIII:ドゥーブル)
[LP2 A面]
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV1003
(I:グラヴェー II:フーガ III:アンダンテ IV:アレグロ)
[LP2 B面]
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番 ハ長調 BWV1005
(I:アダージョ II:フーガ III:ラルゴ IV:アレグロ・アッサイ)
[LP3 A面]
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 ホ長調 BWV1006
(I:プレリュード II:ルール III:ロンドーによるガヴオット IV:メヌエットI-II
V:ブーレ VI:ジグ)
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004 (I:アルマンド)
[LP3 B面]
無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 二短調 BWV1004
(II:クーラント III:サラバンド IV:ジグ V:シャコンヌ)

ユリア・フィッシャー
(ヴァイオリン:1750年製グァダニニ)

セッション録音:2004年12月 ドーブスヘンデ教会(アムステルダム)
プロデューサー:ヨブ・マールセ、バランス・エンジニア:ジャン＝マリー・ヘイセン、エディ
ティング:エルド・グルート、セバスチャン・ステイン
●ハイエンド、マルチチャンネル・サラウンド・レコーディングに特化したクラシック専門
レーベルPENTATONEより遂にLPが登場!第1弾はユリア・フィッシャーの名盤、バッ
ハの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全6曲3枚組LPです。
類稀な才能の持ち主の天才ヴァイオリニスト、ユリア・フィッシャーはミュンヘン生まれ。
3歳でヴァイオリンを、その後ピアノも習いはじめ、すぐにその才能を開花させたフィッ
シャーは、ヴァイオリン、ピアノそれぞれで国際的なコンクールに複数回優勝していま
す。10代の頃から商業録音のオファーがあったものの断り続けていたフィッシャーは、
ヤコフ・クライツベルクとの出会いにより21歳のときにハチャトゥリアン、プロコフィエ
フ、ガラスノフのヴァイオリン協奏曲でPENTATONEレーベルからセンセーショナルな
デビューを果たしました。
バッハの無伴奏はデビュー・ディスクと同年、2004年12月にオランダのドーブスヘン
デ教会にて行われました。当録音のバランス・エンジニアをつとめたジャン＝マ
リー・ヘイセン氏が最も記憶に残る録音にもあげている、まさに伝説的な当録音はフィ
ッシャーの驚異的な集中力で全集を完成させました。全ての音色が瑞々しく説得力
に満ちた当時21歳の演奏は、既に自己のスタイルが確立されていることを証明して
おります。当時使用していた名器グァダニニの音色が教会に響き渡ります。ハイ
エンドに特化したPENATATONEレーベルの代表盤の初LP、大注目です。

RCO LIVE

RCOライブ

名門ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の自主レーベル。
2016年に第7代首席指揮者として就任したダニエレ・ガッティのもと
新たなスタートを切りました。フィリップス・クラシックス・
レコーディングセンターが源流のレコーディングカンパニー、
ポリヒムニアが担当する高品位録音を聴くことができます。



KKC1060 (2LP)
プレス:レコード・インダストリー (オランダ)



KKC1102 (LP)
プレス:レコード・インダストリー (オランダ)

ベルリオーズ:幻想交響曲 Op.14 (1830)

ダニエレ・ガッティ (指揮)
ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

ライヴ録音:2016年3月31日、4月1&3日 コン서트ヘボウ (アムステルダム)
●2016年9月9日の就任記念演奏会《RCOオープニング・ナイト》をもって、128年の歴史をもつロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の第7代首席指揮者として正式に着任するダニエレ・ガッティ。これを記念して、客演指揮者としてのガッティと楽団との白熱ライヴをおさめたLP盤!

ストラヴィンスキー:春の祭典
[A面] 第1部「大地の礼讃」
[B面] 第2部「生贄の儀式」

ダニエレ・ガッティ (指揮)
ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団

ライヴ録音:2017年1月11-12、19日 コン서트ヘボウ、アムステルダム
●2016/17シーズンからロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の第7代目首席指揮者として本格始動したダニエレ・ガッティによる「春の祭典」。ガッティの記念すべき演奏がRCOの歴史に刻まれることになりました。それぞれにとって得意のレパートリーということもあって、両コンビの輝かしい未来を予感させるアグレッシヴかつ密度の濃い演奏が繰り広げられています。

REFERENCE RECORDINGS

リファレンス・レコーディングス



高音質録音で有名な米リファレンス・レコーディングス。
「ザ・リファレンス・マスターカット・シリーズ」として通常の半分のスピードで
マスタリングとカットテングをしたハーフ・スピード・マスター方式を採用。
速度を落とすことによって音質の劣化を防ぎ、
高い周波数やより良いステレオバランスを得ることができます。



RM1502 (LP)
クオリティレコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)

ストラヴィンスキー:
[A面] バレエ「火の鳥」組曲
[B面] 交響詩「ナイチンゲールの歌」

大植英次 (指揮)
ミネソタ管弦楽団

●リファレンス・レコーディングスがアナログ市場に復活した記念すべき第1弾! 「ザ・リファレンス・マスターカット・シリーズ」開始となったのがこの大植英次の「火の鳥」です。

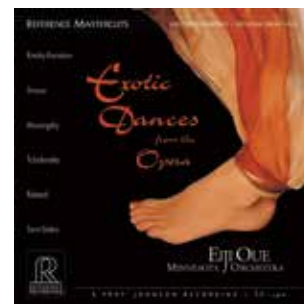


RM1504 (LP)
クオリティレコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)

ラフマニノフ:
[A面] 交響的舞曲
[B面] ヴォカリーズ、絵画的練習曲集

大植英次 (指揮)
ミネソタ管弦楽団

●当レーベルの名盤として知られる大植英次指揮、ミネソタ管弦楽団のラフマニノフの交響的舞曲、ヴォカリーズ、絵画的練習曲集!

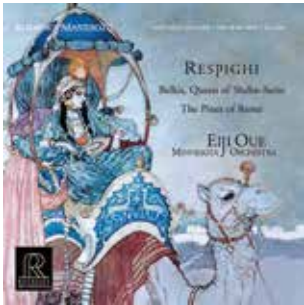


RM1505 (LP)
クオリティレコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)

エキゾチック・バレエ・フロム・オペラ
[A面]
リムスキー=コルサコフ:「雪娘」～道化師の踊り
R.シュトラウス:「サロメ」～7つのヴェールの踊り
ムソルグスキー:「ホヴァンシチナ」～ペルシャの踊り
チャイコフスキー:「マゼッパ」～コサックの踊り
[B面]
アンリ・ラボー:「マルーフ」舞曲
サン=サーンス:「サムソンとデリラ」～パッカナール

大植英次 (指揮)
ミネソタ管弦楽団

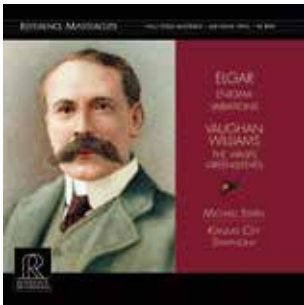
●大植英次の名盤『エキゾチック・バレエ・フロム・オペラ』をLPで聴く喜び。



RM1509 (LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM2506 (2LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM2508 (2LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM2510 (2LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)

レスピーギ:
[A面]『シバの女王ベルキス』組曲、地の精の踊り(バラード)
[LP2]交響詩『ローマの松』

大植英次(指揮)
ミネソタ管弦楽団
チャッド・シェルトン(テノール:『シバの女王ベルキス』組曲～『狂気の踊り』)

録音:2001年5月28、29日 オーケストラ・ホール、ミネアポリス
●リファレンス・レコーディングスの好評シリーズ「ザ・リファレンス・マスターカット・シリーズ」。今回も通常の半分のスピードでマスタリングとカットティングをした「ハーフ・スピード・マスター方式」を採用。

モーツァルト:
[LP1]ピアノ協奏曲第21番 ハ長調
[LP2]ピアノ協奏曲第24番 ハ短調

ユージン・イストミン(ピアノ)
ジェラード・シュワルツ(指揮)
シアトル交響楽団

●独特の歌い回しが魅力。イストミンの煌めくようなモーツァルト。

[LP1]ヴォーン・ウィリアムズ:
すずめばち組曲(A面)「グリーンズリーヴズ」による幻想曲(B面)
[LP2]エルガー:エニグマ変奏曲 Op.36

マイケル・スターン(指揮)
カンザスシティ交響楽団

録音:2012年 ミズーリ州インディペンデンス
●あのアイザック・スターンの愛息、マイケル・スターン指揮によるヴォーン・ウィリアムズとエルガーのオーケストラ作品集が200グラム重量盤LPとなって登場!

メフィスト〜悪魔たちのクラシック
[LP1 A面]リスト:メフィスト・ワルツ第1番「村の居酒屋での踊り」、
サン＝サーンス:交響詩「死の舞踏」
[LP1 B面]リャードフ:交響詩「パパ・ヤガー」、ムソルグスキー:交響詩「はげ山の一夜」
[LP2 A面]アーノルド:序曲「ジャンターのタム」、デュカス:交響詩「魔法使いの弟子」
[LP2 B面]フランク:交響詩「呪われた狩人」、J.シュトラウスII:ポルカ「暁の明星」

大植英次(指揮)
ミネソタ管弦楽団
ジョルジャ・フリーザニス(ヴァイオリン)

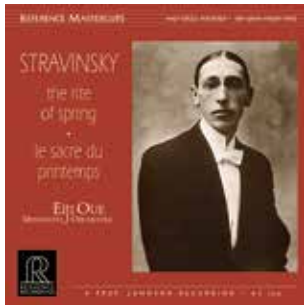
録音:1997年10月 ミネアポリス、オーケストラ・ホール
●ヨーロッパの妖怪変化をテーマとした作品を集めたアルバム。どの作品も大植英次&ミネソタ管が作り出す千変万化の色彩感が炸裂した演奏です。



RM1511 (LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM1514 (LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM1515 (LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)



RM2516 (2LP)
クオリティ・レコード・プレッシング【Q.R.P】(アメリカ)

コーブランド:
庶民のためのファンファーレ[A面]
交響曲第3番[A面:第1,2楽章 B面:第3,4楽章]

大植英次(指揮)
ミネソタ管弦楽団

録音:2000年3月
●コーブランドの「庶民のためのファンファーレ」の爽快な打楽器の響きに感動。とびきりの高音質録音をLPで再び楽しむことができます。

サン＝サーンス:交響曲第3番ハ短調 Op.78『オルガン付』

マイケル・スターン(指揮)
カンザスシティ交響楽団
ヤン・クライビル(オルガン)

録音:2013年6月 カンザスシティ、カウフマン・センター・フォー・ザ・パフォーミング・アーツ、ヘルツバルク・ホール
●名盤ひしめくサン＝サーンスの交響曲第3番は、オーディオ効果抜群の作品であるため、名録音、高音質という点でも注目される楽曲です。

ストラヴィンスキー:『春の祭典』

大植英次(指揮)
ミネソタ管弦楽団

録音:1996年1月 オーケストラ・ホール、ミネアポリス
●ミネソタ時代の大植英次の録音には傑作が多いですが、この「春の祭典」は演奏、録音ともに特筆すべきものがあります。弦の艶やかさ、金管の輝かしさ、そしてオケ全体の熱い意気込みが伝わってくる演奏!

ノジマ・ブレイズ・リスト
[LP1 A面]メフィスト・ワルツ第1番、ラ・カンパネッラ
[LP1 B面]超絶技巧練習曲5番「鬼火」、タペの調べ
[LP2 A面]ピアノ・ソナタ ロ短調
[LP2 B面]ラヴェル:組曲「鏡」より「道化師の朝の歌」

野島稔(ピアノ)

録音:1986年
●野島稔が1986年にREFERENCE RECORDINGSで録音したリスト作品集。発売後、アメリカのオーディオ雑誌「ステレオ・レビュー」で月間最優秀録音賞を受賞した名録音です。



RM1518 (LP)
クオリティレコード・プレッシング【Q.R.P.】(アメリカ)

アーノルド(1921-2006):序曲集～自作自演
[A面]「サセックス」序曲Op.31、喜劇序曲「ベッカス・ザ・ダンディブラット」Op.5
[B面]序曲「ザ・スモーク(煙)」Op.21、序曲「ザ・フェア・フィールド」Op.110

マルコム・アーノルド(指揮)
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

録音:1991年、ロンドン
●イギリスの作曲家、サー・マルコム・アーノルドによる自作自演盤。アーノルドは、映画「戦場にかける橋」で米アカデミー賞の作曲部門で賞をとるなど、映画音楽で広く知られていますが、9曲の交響曲、その他にも管弦楽曲や協奏曲などを書き、高い人気を誇ります。この演奏は、古巣ロンドン・フィルを振った自作自演盤として名高く、さらにリファレンス・レコーディングスのキース・ジョンソン博士もお気に入りの録音としてあげているほどの自信作です。



SRM012LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

J.S.バッハ:
ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 BWV1041
ヴァイオリン協奏曲第2番 ホ長調 BWV1042
ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲 二短調 BWV1060

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
セニア・トウルバシニコ(オーボエ)
ウジェーヌ・イザイ弦楽アンサンブル

●ボベスコの瑞々しいヴァイオリンの響きを堪能することができるバッハの協奏曲アルバム!



SRM015LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

ベートーヴェン:
ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61
[A面:第1楽章、B面:第2,3楽章]

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
エドガルト・ドヌー(指揮)
RTBF新交響楽団

●改めて大家であったことを証明するボベスコの堂々たるベートーヴェン。エドガルト・ドヌー率いるRTBF新交響楽団の好サポートにも注目!

SILKROAD MUSIC

シルクロード・ミュージック

新録音とライセンスの復刻で定評のある香港のレーベル。
最近ではベルギーのTalentレーベルからのライセンス、
ボベスコのLPシリーズや、オーディオマニアの間で
誉れ高き優秀録音として有名なアメリカDorian Recordingsの
ライセンス盤など話題のリリースが続いています。

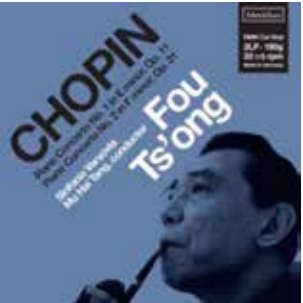


KKC1029 (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

[A面]
①J.S.バッハ:ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調 BWV1041(ピアノ伴奏版)
②ルクレール:ヴァイオリン・ソナタ 二長調
[B面]
③ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番イ短調 Op.26(ピアノ伴奏版)
④チャイコフスキー:ワルツ・スケルツォ Op.34-2

ダヴィド・オイストラフ(ヴァイオリン)
ヴラディーミール・ヤンボリスキー(ピアノ)

録音:①③1957年10月15日 上海グランドシネマ ②④1957年10月 中国
●1957年10月に中国で行ったダヴィド・オイストラフの貴重なライブ音源。この盤にはJ.S.バッハのイ短調の協奏曲、ルクレールのヴァイオリン・ソナタ、ブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番、そしてチャイコフスキーのワルツ・スケルツォを収録!



SRM025LP (2LP)
プレス:パラス社(ドイツ) 生産終了品

ショパン:
[LP1]ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11
[LP2]ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調 Op.21

フー・ツォン(ピアノ)
ムー・ハイ・タン(指揮)
シンフォニア・ヴァルソヴィア

●中国を代表するフー・ツォンによる透明度の高いショパンの協奏曲アルバム。



HDL015 (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

ダヴィド・オイストラフ 1957年中国ライブ
[A面]①ヴラディゲロフ:ブルガリア民族舞曲による幻想曲 ②チャイコフスキー:瞑想曲 Op.42-1 ③プロコフィエフ:ロメオとジュリエットより「仮面」「百合の花を持った娘たちの踊り」「モンタギュー家とキャピュレット家」
[B面]④プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ第2番二長調 Op.94a ⑤スーク:愛の歌 Op.7-1

ダヴィド・オイストラフ(ヴァイオリン)
ヴラディーミール・ヤンボリスキー(ピアノ)

録音:1957年①③④10月6日 北京人民劇場 ②10月15日 上海グランドシネマ ⑤10月、中国
●巨匠、ダヴィド・オイストラフが1957年10月に中国で行ったライブ公演のLP化第2弾。プロコフィエフのヴァイオリン・ソナタ第2番を主軸にチャイコフスキー、スーク、ヴラディゲロフの小品を収録。



SRM026LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

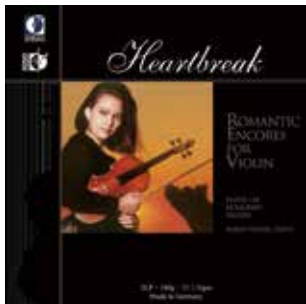
モーツァルト:
[A面]ヴァイオリン協奏曲第4番 二長調「軍隊」K.211
[B面]ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調「トルコ風」K.219

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
エドガルト・ドヌー(指揮)
ウジェーヌ・イザイ弦楽アンサンブル

録音:1976年
●今や語り草ともなっている1980年の初来日リサイタルを4年後に控えた、ボベスコ1976年の録音。気品と活気にあふれるモーツァルトの協奏曲は、まさにボベスコの真骨頂ともいえる優美かつウィットに富んだ可憐な演奏!



SRM030LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



SRM037LP (2LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



SRM038LP (2LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

ヴィオッティ:
[A面]ヴァイオリン協奏曲第22番イ短調【カデンツァ:イザイ(第1,2楽章)】
[B面]ヴァイオリン協奏曲第23番ト長調【カデンツァ:ボベスコ(第3楽章)】

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
ライン・バラティナ国立管弦楽団
クルト・レーデル(指揮)

●故宇野功芳氏が「ボベスコの舞台を一度でも見た者なら、あの美貌、あの魅力的な金髪、そして少女のように楚楚とした物腰を一生忘れることは出来ないだろう」と激賞した、ヴィオッティの名盤がLPで復活!

「悲嘆」～ヴァイオリンのためのロマンティック・アンコール集
[LP1 A面]
ショパン(ミルシテイン編曲):夜想曲第20番 嬰ハ短調 遺作、エルガー:愛の挨拶
ラフマニノフ(M. プレス編曲):ヴォカリーズ ホ短調、クライスラー:愛の悲しみ
[LP1 B面]
クライスラー:昔の歌、リスト(ミルシテイン編曲):コンソレーション第3番 変ニ長調
エンゲル(ジンバリスト編曲):貝殻、マスネ:タイスの瞑想曲
チャイコフスキー:感傷的なワルツ Op.51-6
[LP2 A面]
ショパン(ヴィルヘルミ編曲):夜想曲第8番 変ニ長調 Op.27-2
ラヴェル(コハンスキ編曲):亡き王女のためのパヴァーヌ
ドビュッシー(ハイフェッツ編曲):美しい夕暮れ
ワーグナー(ヴィルヘルミ編曲):アルバムの綴り
[LP2 B面]
ブッチェニ(コルホネン編曲):私のお父さん～歌劇「ジャンニ・スキッキ」より
洪蘭坡(ホウ・ナンパ):哀愁、サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン
ブラームス(ハイフェッツ編曲):コンテンプレーション Op.105-1

エリッサ・リー・コルホネン
(ヴァイオリン;ロレンツォ・ストリオニ1787年製作)
ロバート・ケーニッグ(ピアノ)

セッション録音:1998年9月 トロイ貯蓄銀行ホール(ニューヨーク)
●コルホネンが往年の巨匠の演奏を想わせる"泣きの音色"が魅力で、洗練の極致とも言える柔かく甘美に演奏!

サラサーテへのオマージュ
サラサーテ:
[LP1 A面]
アンダルシアのセレナード Op.28
ミラマール=ソルツィーコ Op.42、序奏とタランテラ Op.43
[LP1 B面]
スペイン舞曲集より【マラゲーニャ Op.21-1／ハバネラ Op.21-2／アンダルシアのロマンス Op.22-1／ホタ・ナバーラ Op.22-2】
[LP2 A面]
スペイン舞曲集より【祈り Op.23-1／サバテアード Op.23-2／スペイン舞曲第7番イ短調 Op.26-1／スペイン舞曲第8番 ハ長調 Op.26-2】
[LP2 B面]
ムニエラ Op.32、カルメン幻想曲 Op.25

レイチェル・バートン(ヴァイオリン)
サミュエル・サンダース(ピアノ)

セッション録音:1992年2月 トロイ貯蓄銀行ホール(ニューヨーク)
●アメリカ生まれの実力派ヴァイオリニスト、レイチェル・バートンが18歳のときに収録した伝説的な名盤「サラサーテへのオマージュ」!



SRM039LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)



SRM035LP (LP)
プレス:パラス社(ドイツ)

[A面]ムソルグスキー(ジャン・ギュー編曲):「展覧会の絵」【第1プロムナード／I.小人／第2プロムナード／II.古城／第3プロムナード／III.テュイルリーの庭／IV.牛車／第4プロムナード／V.卵の殻をつけた雛の踊り／VI.サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ／第5プロムナード／VII.リモージュの市場／VIII.カタコンベローマ時代の墓】
[B面]ムソルグスキー:「展覧会の絵」【IX.鶏の足の上に建つ小屋／X.キエフの大門】
ストラヴィンスキー(ジャン・ギュー編曲):「ペトルーシュカ」組曲【I.ロシアの踊り／II.ペトルーシュカの部屋／III. 謝肉祭】

ジャン・ギュー(オルガン;クロイカー=シュタインマイヤー・オルガン)

セッション録音:1988年1月 チュリッヒ・トーンハレ
●オーディオマニアの間で誉れ高き優秀録音として有名なジャン・ギューの「展覧会の絵」と「ペトルーシュカ」の録音のLP盤。米Dorian Recordingsの代表盤のひとつであったこの録音は、32フィート管から出される16Hzの重低音をノンカットで収録していることでも注目です!

ブラームス:
①ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.77 第1楽章 [A面:第1楽章 B面:第2,3楽章]
②F.A.E.ソナタより第3楽章「スケルツォ」 [B面]

ローラ・ボベスコ(ヴァイオリン)
①ホセ・セレブリエール(指揮)
ベルギー国立放送新交響楽団
②ジャック・ジャンティ(ピアノ)

録音:①1988年3月4日 ブリュッセル、ベルギー RTBFスタジオ ②1980年12月 ベルギー
●気品と活気にあふれるボベスコの音色はブラームスとの相性も良く、ボベスコの圧巻の演奏には驚かれます!

Speakers Corner Records

スピーカーズ・コーナー・レコーズ

復刻したレコードのタイトル数は世界最大規模といえる
ドイツのレコード専門の復刻会社。高品質と充実のタイトル数を誇っています。
これまでにDecca、PHILIPS、Mercuryをはじめ近年はColumbiaの
復刻に積極的。今後も注目のリリースが続きます。

※2018年夏季より、順次取り扱いを開始いたします。

SIMAX

シマックス

SIMAX
classics

ノルウェーの老舗レーベル。

ノルウェーを代表する作曲家グリーグなど北欧の作曲家、
演奏家を中心とした録音をリリース。

設立当初から録音の良さには定評があり、
録音空間の自然な響きを感じられます。



PSLP1332 (LP)

プレス:オプティマル社(ドイツ)



PSLP1346 (2LP)

プレス:オプティマル社(ドイツ)

『ホルベア変奏』

グリーグ:組曲『ホルベアの時代から』Op.40(弦楽オーケストラのための)

グリーグ:組曲『ホルベアの時代から』Op.40(ピアノのための)

スクームスヴォル／グリーグ:スクームスヴォルのホルベア変奏(ピアノと弦楽オーケ
ストラのための)

1B1(室内管弦楽団)

ヤン・ビョーランゲル(リーダー)

クリスチャン・イーレ・ハドラン(ピアノ)

エルレン・スクームスヴォル(ピアノ)

録音:2014年1月2-5日、2月24-26日 ノルウェー、スタヴァンゲル・コンサートホール

●グリーグの傑作『ホルベア』を3バージョン収録したユニークなアルバム!

グリーグ:男声合唱による「耳にしたことのないグリーグ」

インガ・リタモール／君を愛す／まぼろし／流れにそって／神の子は安らぎを与え給え
り／たどり着くところ／詩集の一節／寝過ごしてしまった／この世のならわし／春*／
ルンダーネ／ばらの季節に／アリエッタ[トルーデ・ラーシェンに]

レザ・エ・イラガッツィ

ニーナ・グラヴローグ(ソプラノ)*

ブリマドンネ*

レザ・アガミル(指揮、ピアノ)

録音:2014年 オスロ、ノルウェー・オペラ&トロールハウゲン、グリーグ博物館

●グリーグの新しい世界、合唱団ではない、むしろオペラ・バンドです!

The World of Delius

【特集】

イギリス音楽の伝道者

評論家 三浦淳史と

ディーリアスの世界

単行本未収録 楽曲解説集

ディーリアス 小伝

楽曲ノート

海流 対訳

三浦淳史 略歴



フレデリック・ディーリアス 小伝

三浦淳史



フレデリック・ディーリアス(ムンク画)

フレデリック・ディーリアスは、1862年1月29日、イギリスのブラッドフォードに生まれた。ブラッドフォードは、ロンドンから約320キロ、イングランド北東部の広い州ヨークシャーにある産業都市で、現在の人口はほぼ30万だが、かつては世界の羊毛・織物業の中心地の一つだった。オーストラリアから羊毛を買いつけて、これを売る商売である。父はドイツからの移住者で、母もドイツ人だったから、作曲家ディーリアスには、イギリス人の血は一滴も流れていなかった*。両親には14人の子供がいた。フレデリックは第4子で次男だった。当時は大家族主義の時代だったから、10人以上の子持ちもさして珍しくなかったという。

*父ユリウスと母のエリーゼは共にビーレフェルトの生まれである。ビーレフェルトは現在ドイツ連邦共和国(西独)に属しており、ヴェストファーリア州の産業都市である。ディーリアスの作品を初期に最も多く演奏した町エルベルフェルト(エルバーフェルト)はライン州にあるが、ヴェストファーリア州との境界に位置しているため、両市は比較的近い。なお、エルベルフェルトは1929年にヴェッペルタル(ヴェッパータール)に吸収された。

ディーリアス家ではドイツ語と英語の2ヵ国語が併用され、音楽のソワレなどもたれたというが、父は、男の子にはすべて家業をつがす方針で、当時のイギリス社会の常識としても、男子が音楽を生涯の職業に選ぶなど、もっての外だった。常識とか良識なぞも時代と共に変わるものなのである。この点でも、父と子は永久に理解し得なかった。12人の兄弟姉妹(2人は嬰兒期に死亡したので)のうち、ディーリアスをそれなりに理解していたのは第7子の妹クレアひとりだった。兄弟は他人のはじまりというが、ディーリアスの場合とて例外ではなかった。ディーリアスは6歳からヴァイオリンとピアノのレッスンを受けたが、両親は単なるたしなみ以上には考え

ていなかった。ディーリアスはふつうのコースを進み、12歳のとき地元のグラマー・スクール(中等学校)に入り、16歳で中退し、父の商売の見習いに入る前に国際的な実務教育をするカレッジに送られた。所在地がロンドンに近かったので、ディーリアスはオペラやコンサートによくよかった。18歳のとき、ディーリアスは、家業を手伝うことになると同時に、音楽家になる決心をするという矛盾した心理状態に立つ。こうしてディーリアスの長い青春放浪時代が始まるのである。父の命でノルウェーに送られたディーリアスは美しい北欧の風景に魅せられるが、いっこうに家業にはげもうとしない息子に業をにやした父は、家業に専念するか、さもなくば海を渡ってフロリダでオレンジを栽培しろと二者択一を迫る。後者を選んだディーリアスは、22歳の春、フロリダへ旅立つ。しかし、フロリダでは地元の音楽家と親しくなり、オレンジ栽培などそっちのけで音楽にのめりこんでいった。24歳の6月、ディーリアスは、ライブツィヒ音楽院に立ち寄ってから、故郷の町ブラッドフォードへ帰ってきた。ライブツィヒでは、グリーグ(1843-1907)、シンディング(1856-1941)、ヨハン・ハルヴェオルセン(1864-1935)などノルウェーの作曲家と交友をもった。そのころ、ディーリアスは〈フロリダ〉組曲を書いているが、ライブツィヒでは、ほんの少々音楽院のクラスに出たといどであるというから、ディーリアスはほとんど独学で作曲を修めたといっよい。1888年、訪英中のグリーグは、ディーリアスの父に会って、ディーリアスの才能を説き彼を再びアメリカに送らないよう進言した。グリーグはすでに著名な音楽家としてイギリスでも広く知られていたもので、父もグリーグに快く面会したが、グリーグの力

説する息子の音楽的才能を信じようとはしなかった。その年、ディーリアス26歳の後半から、ディーリアスのかなり長いパリ生活が始まるのである。世紀末の華やかなパリは芸術家の巣窟でもあった。ディーリアスは多くの芸術家と交友をもち、かなり奔放な生活を送ったらしい:アール・ヌーヴォー運動の創始者の一人であるアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)、晩年の画家ゴーガン(1848-1903)、パリ在留中のスウェーデンの劇作家ストリンドベリ(1849-1912)、詩人ヴェルレエヌ(1844-96)、ノルウェーの特異な画家エドヴァルド・ムンク(1863-1944)……反面、旺盛な創作力にかり立てられたものか、数々の名作が書かれたのもパリ時代だった:オペラ《イルメリン》、幻想序曲**丘を越えて遙かに**、フロリダ時代に靈感を発しているオペラ《コアンガ》と合唱付き管弦楽曲**アパラチア**、管弦のための**夜想曲〈パリ〉——大都会の歌**、バリトン独唱・合唱と管弦楽のための**海流**, etc. 27歳から41歳まで、足かけ15年に及ぶディーリアスのパリ生活のあいだに、ディーリアスは、1896年の1月、34回目の誕生日を迎えるころ、イェルカ・ローゼンという女流画家と知り合う。イェルカはムンクと交友があったので、彼女をディーリアスにひき寄せたのはムンクだったという。二人の会話のさいしょの話題は、グリーグの音楽に対する共通の尊敬と讃美だったが、イェルカが「ツァラトゥストラ」を読んでいるということを知ったとき、二人の話題はニーチェに集中した。ディーリアスのニーチェに対する深い傾倒は、イェルカに、ある種の感動をよびさましていった。5月、イェルカの画はパリのサロンに入選した。「さいごの和音」と題する、その画は、リラを手に

した女性の裸体画で、背景は沈む夕陽に染められている田園風景だった。イェルカは、この画を、パリ近郊フォンテーヌブローの近くにあるグレ=シュール=ロワン(略してグレという)という村のドウ・カルゾー侯邸の庭園で描いた。1897年、この邸宅が売りに出されたとき、イェルカは、母の援助で、この家を買った。イェルカの招きで訪ねてきたディーリアスは、美しい草花に色どられ、老樹の梢に小鳥の庭園が、ゆるやかに流れるともなく流れるロワン河まで続いている邸宅の風物が気に入る、ときには長逗留して、作曲に没頭することもあった。イェルカには、そういうディーリアスが好ましくうつった。1898年(36歳)には、《人生のミサ》の胚芽ともいってよい《ツァラトゥストラの夜の歌》が書かれている。そうこうしているうちに、ディーリアスの身辺にも異変が起こった。何かと援助してくれた叔父セオドアの急死、父の死などは、ディーリアスの寂寥感を深め、彼を暖かく見守り、住み家を提供し、仕事のしやすい環境をととのえ、食事の面倒までみてくれる人は、イェルカ以外にないことにめざめるのだった。ディーリアスのバラ色のパリ彷徨生活は終わった(バラにはトゲがあることを、ディーリアスは晩年に思い知らされるのである)。ディーリアスがパリの官能の世界にかなり深入りしていたことは、その艶美な交響詩**夜想曲〈パリ〉——大都会の歌**に充分しのばれよう。1903年9月28日、ディーリアスとイェルカは、グレで宗教抜きの簡素な結婚式を挙げた。ディーリアス41歳、新婦は31歳だった。こうしてディーリアスのグレ時代は始まった。グレは、パリからわずか64キロの郊外にあり、森と水に恵まれた静かな村である。世間的に人間との交渉もほとんど絶ったディーリア

スガ、隠遁生活を送るには、これ以上のかくれがはなかったろう。一室をアトリエに改造し、画家としてのキャリアを続けようとしていたイェルカは、やがてディーリアスのために絵筆を捨て、その半生をディーリアスにささげきった生活を送るのである。夫の作曲の仕事が好調に進んでいる日が彼女にとって最も幸せな日となっていた。《人生のミサ》はグレの生活が始まった3年目に完結する。ディーリアスは43歳だった。1907年(45歳)はディーリアスにとって幸運の年であった。ディーリアス最大のオペラ《村のロミオとジュリエット》がベルリンで初演され、トマス・ビーチャムがアパラチアを初めてロンドンに紹介した。いらい、このイギリスの大指揮者は終生ディーリアスの擁護者となり、コンサートとレコーディングによって、ディーリアス芸術の神秘とユニークさを世界の音楽ファンに開眼させたのである。生活においては隠遁者であったとしても、作曲家としてのディーリアスは、決して不遇とはいえないものではない。生前、自作のみの、大規模な〈ディーリアス・フェスティヴァル〉が、ビーチャムによって行なわれたほどである〔1929年10-12月。7コンサート〕。そのさいこの曲目であった《人生のミサ》全曲を、ディーリアスの使徒であったピーター・ウォーロックとフィリップ・ヘスルタイン(1894-1930)は「ワーグナーいらい、疑いなく最大の音楽的業績」とたたえ、「この巨大な作品はセバスチャン・バッハの偉大なミサ曲とならび立つにあたいする」といった。

グレの隠遁生活はディーリアスに豊かな収穫をもたらした：オペラ《フェニモアとゲルダ》、付随音楽《ハッサン》、合唱と管弦楽のための《高い丘の歌》、Br、合唱と管弦楽のための《アラベスク》、

大戦に散った若者たちの鎮魂曲として書かれ「異教徒レクイエム」の異名をもつS、Br、合唱と管弦楽のための《レクイエム》、Ms、Br、合唱と管弦楽のための《日没の歌》。管弦楽作品に、ブリッグの定期市——イギリス狂詩曲、エヴェンチュール(むかしむかし)、《北国のスケッチ》、Vn協奏曲、Vc協奏曲、VnとVcの二重協奏曲、etc.

自然を愛し、自然をととして汎神論的な神をみつめたといってもよいディーリアスは、四季の移り変わりに鋭敏な感性をときすまし、自然のかなでる、うつろいやすい美と哀しみを、パステル・カラーのように美しい交響詩に、とらえ、不滅にした。春初めてのカッコウを聞いては夏への前奏曲となり、とりわけ夏を愛したディーリアスは、《夏の庭にて》、河の上の夏の夜、《夜明け前の歌》、《夏の夜 水の上にて歌える》(無伴奏母音歌唱)などの美しい名画のような作品を音の世界に不朽にした。

しかし、静かなグレの生活も、ディーリアスの晩年を襲った不幸のために破られるのである。ディーリアスは、熱い血のたぎる青春時代に送った不羈奔放な生活のむくいをうけ、65歳のとき、全盲の上、四肢の麻痺する身の上となったにもかかわらず、ヴォランティアーとしてグレのディーリアス邸に住み込んだ郷土ヨークシャーの音楽青年エリック・フェンビー(1906-97)の助けを得て、口述によって作曲がすすめられた。剛毅なヨークシャー人の気質をうけ継いだディーリアスは、泣きごと一ついわず、運命に耐えた。フェンビー青年が、ディーリアスの眼となり手となって、完成された作品には、合唱曲《告別の歌》、S、Brと管弦楽のための《田園詩曲》、《イルメリン》——前奏曲があり、交響詩《夏の歌》がデ

ィーリアス最期の管弦楽曲となった。

しずかな栄光が死を目にしたディーリアスに降りそそいだ。英王室はCH(名誉勲爵士)の称号を贈り、生地ブラッドフォードの市議会は名誉市民に推薦してきたが、ディーリアスにとって、それらの栄光はもはや何の意味ももたなかった。

1934年6月10日、ディーリアスはグレの自邸で息をひきとった。享年72歳。10年に及ぶ晩年の苦しみから解放されたディーリアスは、遺志によって、宗教抜きでグレの墓に仮埋葬された。翌年、イェルカ夫人は、生前夫がイギリスの田舎で永遠の眠りにつきたいともらした言葉を実行にうつすべく、イングランド南部のリンプスフィールドの教会墓地に本埋葬する手はずをととのえた。遺体は、イェルカ夫人にかしづかれて、イギリス海峡を渡った。ビーチャムが葬儀をつかさどり、ディーリアスの棺前で、手兵のLPOをふって、河の上の夏の夜と《ハッサン》のセレナードと春初めてのカッコウを聞いてを演奏した。それから葬列は教会から月桂樹でかこまれた墓へすすんだ。ビーチャムは墓前で式辞を述べた。ビーチャムはいった。ディーリアスはさすらい人で、ほとんど亡命者だった。ディーリアスはカーライル、マシュウ・アーノルドとラスキンの時代に生まれ、イングランド北部の刻苦精励・無味乾燥なビジネスの世界から逃れようとした。そして、ディーリアスは逃れた……ビーチャムは次のような言葉で弔辞をむすんだ：「われわれはむなしい哀惜の情にかられてここにいるのではなく、むしろディーリアスの作品がわれわれと共にあり、われわれと共に永久に残ることを喜んでいるものであります」。

1935年5月26日、日曜日のことであつた。かねてか

ら病気だったイェルカ夫人は病状悪化してロンドンの病院に入院し、葬儀に出られなかったばかりでなく、1日おいて、5月28日に、夫のあとを追うように世を去り、いまでもディーリアスの傍らで永遠の眠りについている。



ロワン河から見たディーリアス邸(写真後方)

©仙波知司



グレのディーリアス邸(庭から母屋を見る)

©仙波知司

夜想曲《パリ》—— 大都会の歌 Paris — The Song Of A Great City
河の上の夏の夜 Summer Night On The River
海流 (W.ホイトマン詩) Sea Drift
オペラ《イルメリン》—— 前奏曲 “Irmelin” — Prelude
オペラ《フェニモアとゲルダ》のインテルメッツォ (間奏曲) Intermezzo from “Fennimore And Gerda”
アパラチア —— 古い黒人奴隷の歌による変奏曲 Appalachia — Variations On An Old Slave Song
〈フロリダ〉組曲のラ・カリンダ La Calinda from “Florida” Suite
オペラ《コアンガ》のラ・カリンダ La Calinda from “Koanga”
オペラ《コアンガ》の終幕の場 Final Scene from “Koanga”
エヴェンテュール (むかしむかし) Eventyr (Once Upon A Time)
丘を越えて遙かに —— 幻想序曲 Over The Hills And Far Away
夏の庭にて In A Summer Garden
《ハッサン》—— ジェイムズ・エルロイ・フレッカーの戯曲への付随音楽から
“Hassan” — Incidental Music To James Elroy Flecker's Drama
インテルメッツォとセレナード Intermezzo And Serenade
無伴奏無歌詞合唱 Unaccompanied Wordless Chorus
終幕の場 Closing Scene
ブリッグの定期市 —— イギリス狂詩曲 Brigg Fair — An English Rhapsody
春初めてのカッコウを聞いて On Hearing The First Cuckoo In Spring
楽園への道 —— オペラ《村のロミオとジュリエット》から
The Walk To The Paradise Garden from “A Village Romeo And Juliet”
そり乗り (冬の夜) Sleigh Ride
夜明け前の歌 A Song Before Sunrise
夏の夕べ (ビーチャム編) Summer Evening (arr. Beecham)
エアとダンス Air And Dance
告別の歌 (W.ホイトマン詩) Song Of Farewell
去りゆくつばめ (フェンビー編) Late Swallows (arr. Fenby)
夏の夜 水の上にて歌える (2つの無歌詞・無伴奏パートソング) To Be Sung Of A Summer Night On The Water
シナーラ (ダウンソン詩) Cynara
オペラ《赤毛のマルゴ》の前奏曲 Prelude from Margot Of Rouge
さすらい人の歌 (A.シモンズ詩) The Wanderer's Songs
2つの水彩画 (フェンビー編) Two Aquarelles (arr. Fenby)
●エリック・フェンビーによるノート1 北国を愛したディーリアス
～《北国のスケッチ》と《生命の踊り》～ North Country Sketches & Life's Dance
ダンス・ラプソディー第1番 Dance Rhapsody No.1
ダンス・ラプソディー第2番 Dance Rhapsody No.2
マルシュ・カプリス Marche-Caprice
高い丘の歌 The Song Of The High Hills
弦楽四重奏曲 String Quartet
ヴァイオリン・ソナタ Violin Sonatas
●エリック・フェンビーによるノート2
ヴァイオリン・ソナタ第1番 Violin Sonata No.1
ヴァイオリン・ソナタ第2番 Violin Sonata No.2
ヴァイオリン・ソナタ第3番 Violin Sonata No.3
フェンビーとディーリアス

Music Commentary

楽曲ノート

三浦淳史

夜想曲《パリ》—— 大都会の歌 Paris — The Song Of A Great City

グレ (グレ=シュール=ロワン) の美しい村に到着く前、ディーリアスは1888年から1897年までパリで暮らした。モンマルトルの近くに部屋を借りたディーリアスは主として画家や作家のサークルとまじわった。世紀末のパリを背景として、パリ時代はディーリアスの‘シュトゥルム・ウント・ドラング’に当たり、その第二の青春彷徨時代の形見が《パリ》として残されたのである。草稿は1897年に書き始められたが、完成したのはディーリアスがグレの生活に入りだした1899年であった。草稿には「パリの情景」、「アブサント酒のひとつとき」、「幸せな出会い」という3つの副題が付いていたというが、きわめて暗示的である。疑いなくリヒャルト・シュトラウスの交響詩の影響が認められるが、楽器編成にしてもシュトラウスばりの大編成が用いられている：フルート (ピッコロ持ち替え) 3、オーボエ3、コーラングレー、クラリネット3、バス・クラリネット、バスーン3、コントラバスーン、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器 (奏者4)、ハープ2と大きく、弦楽五部も16、16、12、12、12の指定がある。初演は1907年エルベルフェルトで地元の音楽監督ハンス・ハイム (1860-1921) の指揮によって行なわれた。英初演は1908年1月ロンドンでビーチャムの指揮であった。
曲は夜開く大都会パリへの導入部から始まり、独奏オーボエのしずかな旋律が導入される。このまといつくような忘れたい動機は全曲をとおして開発され、ラプソディックなエピソードたちを経て、巨大なク

ライマックスへ到達する。世紀末の華やかなパリの夜の雰囲気。官能的な夜の世界が暗示的にくりひろげられ、さいごに夜のじまへ消えてゆく。
出版：Universal Edition

河の上の夏の夜 Summer Night On The River

1911年の作で、《春初めてのカッコウを聞いて》の姉妹篇。小管弦楽 (フルート、オーボエ、クラリネット、バスーン、ホルン各2と弦楽五部) のための音詩で、グレの美しい自然から触発された名作の一つ。夏の夜、ディーリアスは庭園のゆきづまりに流れるロワン河で舟遊びをした。おぼろな和声は河の上にたちこめる夕もやを暗示し、リズムはボートのしずかな揺れを感得させるよう。独奏チェロが主な旋律的楽想を歌う —— 夏の夜の河をとりまく平和と神秘感にみちた雰囲気を作る美しい歌。
初演は1913年10月2日ライブツィヒの記録があるが (指揮者不詳)、英初演は1914年1月ロンドン、指揮ヴィレーム・メンゲルベルク (1871-1951)。
出版：O.U.P.

海流 (W.ホイトマン詩) Sea Drift

バリトン独唱、合唱とオーケストラのために書かれ、歌詞はヴォルト・ホイトマン (1819-92) の「いつまでも揺れやまぬ揺籃のなかから」から採られている [詩集『草の葉』収録]。1901年に手がけられ1903年に完成した。
初演は1906年エッセンのトンキュンシュラーフェスト (音楽祭) においてゲオルク・ヴィッテ (1843-1929) の指揮で行なわれた [Br. ヨーゼフ・ローリッツ]。英初演は1908年、シェフィールド音楽祭においてヘンリー・J・ウッド (1869-1944) の指揮で。
楽器編成：フルート (ピッコロ) 3、オーボエ3、コーラングレー、クラリネット3、バス・クラリネット、バスーン3、コントラバスーン、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器、ハープ2、

バリトン独唱、四部合唱と弦楽五部 (16, 16, 12, 12, 12の作曲者指定あり)。曲は当時ベルリン国立歌劇場総監督をしていたドイツ楽界の有力者マックス・フォン・シリングス (1868-1933) に捧げられており、ディーリアスとドイツの関係を物語っている。**海流**のストーリーは、合唱とバリトン独唱 (一人の少年と二羽の海鳥の役を引きうける) によって交互にすすめられてゆく。だが、この物語の主演はカモメで、まもなくカモメはあたかも人間であるかのように聴き手の注意を奪う。少年がカモメの巣を見つける。二羽の親鳥が交替で卵を暖めている。すると、ある日、雌鳥が飛び去ったまま帰ってこない。ひとり残された雄鳥は卵を暖めながら雌鳥を呼ぶ。われわれがこの曲に聴くものは、人間が愛のゆえに感じることのできる、あらゆる悲しみと不安の真髄である。愛と死のまぎれもないドラマであり、離別という神秘的イメージである。オーケストラはソロイストの音楽の線に対してふさわしいフィーリングをもって扱われており、しばしば室内楽的な繊細な美しさをそなえている (たとえば、アラベスク模様を織る独奏ヴァイオリン)。また、ソロと交替する木管は表情豊かな美しさをたたえている (とりわけ、オーボエとコーラングレーの用法の妙)。**海流**ほど、苦悩、悲しみ、ノスタルジアと別離のいりまじった情感を感動的に訴えてやまない音楽は他にない。

感動的な個所は数々あるが、最も美しく感銘深い個所は、合唱が「おお、空にのぼりゆく星たちよ」を始めると、バリトン独唱が「声ふるわせて歌うのだ!」で突き抜けるように入ってくる個所である。(※96頁「対訳」参照)

出版: Boosey & Hawkes

オペラ《イルメリン》—— 前奏曲
“Irmelin” — Prelude

1892年に、ディーリアスはさいしょのオペラを完成した。それが、作曲者自ら台本を執筆した《イルメリン》だった —— 女王イルメリンとブタ飼いに身をやつた王子ニルスをめぐるラヴ・ストーリー [このオペラの遅れにおくれた世界初演は1953年5月4日英オックスフォードにおいてサー・トマス・ビーチャムの

指揮によって行なわれた]。オペラが書かれてからほぼ40年後の1931年に、盲目となり四肢の麻痺したディーリアスは助手のエリック・フェンビー (1906-97) に口述して、そのさいしょのオペラへ新しい前奏曲を書き加わえた。

前奏曲の初演は1935年ロンドンでビーチャムによって行なわれた —— ビーチャムはディーリアスの3番目のオペラ《コアンガ》のリヴァイヴァルに際して、その幕間楽として用いたのである。それは北欧伝説に基づくお伽話のムードを伝える小品である (レント)。その主要主題はさいしょフルートとクラリネットによって模倣され、次いでオーボエとクラリネット、そのあとでバス・クラリネットとバスーンにひきつがれる。この楽想が拡大されたのち、冒頭の主題の模倣形が独奏ヴァイオリンとヴィオラによって繰返される。バス・クラリネットがしずかに主題を回想し、そのさいごの消えてゆく音符が**前奏曲**にやわらかな終結をもたらすのである。

オペラ《フェニモアとゲルダ》の
インテルメッツォ (間奏曲)
Intermezzo from “Fennimore And Gerda”

北欧を愛したディーリアスのさいごのオペラ《**フェニモアとゲルダ**》はデンマークの文豪イエンス・ペーテル・ヤコブセン (1847-85) の小説『ニルス・リイネ』に基づき、作曲者自身のリブレットによる11場から成るオペラである。作曲年代は1908-10年。ビーチャムに捧げられている。1919年10月21日、フランクフルトで初演された記録がある。

フェニモアとゲルダは主人公リイネの生涯を色どる二人の女性で、オペラでは、フェニモアに9つ、ゲルダに幕をとじる2つの場が割り当てられている。リイネはゲルダの純愛によって救われるのだ。この**インテルメッツォ**は、オペラのなかの2つのゲルダの前に出てくる間奏曲 (インタールード) たちとゲルダのさいごの4小節から構想された管弦楽曲である。春の訪れを暗示する精妙な小品で、フルートとオーボエの書法が巧緻をきわめる。北欧の春はリイネの生涯に逢遇した悲劇をやわらげるかのように。

出版: Boosey & Hawkes

アパラチア ——
古い黒人奴隷の歌による変奏曲
Appalachia —
Variations On An Old Slave Song

若き日のアメリカ放浪はディーリアスの人生に深い痕跡を残した。**アパラチア**もブランテーションで黒人がうたう歌声が若いディーリアスの胸に刻まれた心象から触発された作品の一つである。ディーリアスは1896年に**アパラチア**の原形ともいべき作品を書き、「アメリカン・ラブソディー」の副題を添えたが、何回も書き直しヴォーカル・パートを加わせ、副題も「古い黒人奴隷の歌による変奏曲」として、1902年に**アパラチア**が完成された。曲はエルベルフェルトの指揮者ユリウス・ブーツ (1851-1920) に捧げられた。初演は1904年5月ハンス・ハイムの指揮でエルベルフェルトにおいて行なわれた。英初演は1907年11月22日ロンドンのクイーンズ・ホールにおいてドイツの指揮者フリッツ・カッシャー (1871-1926) によって。

楽器編成: フルート (ピッコロ)、オーボエ3、コーラングレー、変ホ・クラリネット、クラリネット2、バス・クラリネット、バスーン3、コントラバスーン、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器 (3奏者)、ハープ2、バリトン独唱、四部合唱と弦楽五部 (16, 16, 12, 12, 10の作曲者指定あり)。

主題の「古い黒人奴隷の歌」は、ディーリアスが、ヴァージニア州ダンヴィルのタバコ工場で黒人の労働者がうたっているのを聞いたときのふしだといわれる。歌のリーダー (音頭取り) が歌をうたい始めると、他の労働者たちも、タバコの葉を刻みながら、ひきつぎ、自由に和声づけて唱和したものだという。この主題のふしは、奇妙なことに、ヴェルディのオペラ《リゴレット》第3幕の名高い四重唱「美しい恋の娘よ」*Bella figlia dell'amore*の旋律とよく似ている。ホルンの旋律にみちびかれる長い導入部は大いなる河ミシシッピと悠久の南部の自然を彷彿せしめる。陽気な黒人の踊りをしのばせる12/8拍子の部分となり (ボコ・ピウ・ヴィーヴォ・マ・モデラート)、トランペットが主題を暗示して導入部をとじると、コーラングレーが主題「古い黒人奴隷の歌」(アンダンテ) をうたう。そのあとに15の変奏が続くのだが、もし単な

る音型変奏として聴くとしたら失望以外の何物でもないだろう。それは黒人の南部を背景として愛と別離の主題に基づく長い黄昏と夜の想いであり、「変奏たち」という長い夜のあとに、エピローグとして合唱部分がいってくるのである。合唱部分の前の変奏では、合唱にはまだ歌詞が与えられていない。ミステリオーソ (ピウ・モッソ) の終りでLa la la...の母音歌唱でうたわれる合唱は、独奏ヴァイオリンによって先導されるアンダンテ・コン・グラツィアとレント・ソステヌート・エ・トランクワイエでも、それぞれさいごの箇所ではLa la la...ではいつてきて雰囲気をもしだし、次のアレグロ・アラ・マルチアでフィナーレにはいる。やがて合唱がア・カベッラ (無伴奏) で*After night has gone...* (暗い夜がすぎると……) とうたいだす。とつぜんべつの農園主に売られた奴隷は家族と離別して、べつの土地へ働きにゆかねばならぬ奴隷の悲しい苦境をうたった歌。

Chorus:
After night has gone comes the day,
The dark shadows will fade away,
T'ords the morning lift a voice,
Let the scented woods rejoice,
And echoes swell across the mighty stream
合唱:
夜がすぎると新しい日が訪れ
暗い影は消えうせる
朝にむかって声をあげ
かんばしい森を喜ばせ
大きな河を越えてこだまをひびかせよう。

Baritone Solo:
O Honey, I am going down the river in the morning
バリトン独唱:
おお お前、俺は今朝河をくだる。

Chorus:
Heigh ho, heigh ho, down the mighty river,
Aye! Honey I'll be gone when next the
whippoorwill's acalling
合唱:

へい、ほー、へい、ほう、大きな河をくだり、
ああ！ お前 こんど夜タカが鳴くときにはいなくな
ってるな。

Baritone Solo:
And don't you be so lonesome love,
And don't you fret and cry
バリトン独唱:
いとしいお前 さびしかないか
じれて泣いたりしないか

Chorus:
For the dawn will soon be breaking,
The radiant morn is nigh,
And you'll find me ever waiting
My own sweet Nelly Gray!
T'ords the morning lift a voice
合唱:
もうじき夜が明ける
まばゆい朝はもうすぐだ
わたしはいつも待っている
わたしのやさしいネリー・グレイ!
朝にむかって声をあげ

さいごに、オーケストラがすぎし日を回想するような
後奏曲を奏すると合唱は無歌詞のAh! Ah! の詠嘆
を添えながら全曲のヴィジョンはしずかに消えて
ゆく……。
題名の「アパラチア」はアパラチア山脈などのロー
カルな地名をさすものではなく、北アメリカ全体をさ
すものである。アメリカの作曲家エアロン・コーブラ
ンド (1900-90) の《アパラチアの春》(1944) はア
パラチア山脈に限定されている。
出版:Boosey & Hawkes

〈フロリダ〉組曲のラ・カリンダ La Calinda from “Florida” Suite

ディーリアスの初の管弦楽曲で、フロリダの思い出
を描いたものであることはいうまでもない。1887年、
ライプツィヒ音楽院で聴講していたころ (25歳) 書か

れた。1888年の早春、ハンス・ジット (1850-1922)
の指揮によってレストラン・ローゼンタル内の大ピア・
ホールで初演されたと伝えられる。正式の初演は
1937年4月ビーチャムによってロンドンで行なわれ、
出版も遺作として作曲者の没後久くして世に出た。
〈フロリダ〉組曲 には「管弦楽のための熱帯的な
情景」の副題が与えられ、「フロリダの住民に」捧げ
られている。4つの楽章は、暁から夜のとぼりが降り
るまでのフロリダの一日を描いている。明らかにグリー
グの手法による絵のような曲であるが、管弦楽の
色彩感ディーリアスの特徴をよく示しており、若き
日のナイーヴな美しさにあふれている。その第1楽
章は「夜明け」でカリンダが踊られる。オーボエの
ソロに現われる旋律は夜明けを暗示する。日が昇
るにつれ、情景は徐々に生活の息吹きにめざめ、カ
リンダの背景をつくってゆく。「ラ・カリンダ」は「カレ
ンダ」(Calenda、西)ともいい、西インド諸島のサン
ト・ドミンゴに流行し、南米からアメリカ南部にまでひ
ろがった通俗的な舞踏曲で、起源はアフリカのギニア
海岸であるといわれている。フロリダではクレオー
ルのダンスとして広く親しまれていたという。
出版:Boosey & Hawkes

オペラ《コアンガ》のラ・カリンダ La Calinda from “Koanga”

ディーリアスがオペラ第3作《コアンガ》に用い
たラ・カリンダをエリック・フェンビーが管弦楽用に
編曲したもので、単独にしばしば演奏されてきた。
オペラでは、第2幕でコアンガと奴隷の娘パルミー
ラの婚礼の祝宴におけるコーラル・ダンス (合唱舞
曲)として用いられている。
出版:Boosey & Hawkes

オペラ《コアンガ》の終幕の場 Final Scene from “Koanga”

《コアンガ》は1895-97年に作曲された。アメリカ
南部の作家ジョージ・ワシントン・ケーブル (1844-
1925) の小説 The Grandissimes (1884) に基づ

いて、チャールズ・F・キアリーが台本を執筆した。
キアリーはグレ付近のブーロンの村で暮らしていた
イギリス人で、ディーリアスと交友があった。ディー
リアスはプロローグおよびエピローグ付きの3幕オペ
ラに仕上げたのである。初演は1904年3月30日エ
ルベルフェルトの市立劇場においてフリッツ・カッシ
ラーの指揮で行なわれ、たいへんな成功を博した。
コアンガの役はアメリカのバリトン歌手クラレンス・
ホワイトヒル (1871-1940) が歌い、パルミーラはロ
ーズ・カイザーだった。ディーリアスはイェルカ夫人
同伴で初演に立会い、熱烈な歓迎を受けたという。
英初演はビーチャムの指揮で1935年9月23日コヴ
ェント・ガーデン王立歌劇場でもたれ、ジョン・ブラウ
ンリーとオーダ・スロボドスカヤ (ロシアのソプラノ)
が主役を歌った。
オペラは砂糖キビ農場で働く老いたる下僕アンク
ル・ジョーの物語として始まる。あるミシシッピのプラ
ンテーションで、美しいムラトゥ (白黒混血) の娘パ
ルミーラは、奴隷頭サイモン・ベレスの求愛をはね
つけ、黒人たちのプリンスとうたわれるコアンガと恋
におちる。農園主は二人を結婚させようとするが、
ベレスがパルミーラを誘拐する。コアンガはベレス
を殺すが、彼もまた刺されて命を失なう。そこへかけ
つけてきたパルミーラはコアンガの槍で自らを刺して
死ぬという悲しい物語である。さいごの合唱の部分
へ導くすばらしいオーケストラの間奏曲があり、それ
から愛しあう二人の死が展開される。老僕アンク
ル・ジョーが、砂糖キビ農場主の若い娘たちに、物
語を語り終えたとき、夜が明けてくる。少女たちは暁
の訪れを迎えて歌をうたう:

See how the sun-kissed world awakes,
With Spring herself adorning;
Let's hope true lovers will find happiness
This soft May morning.
太陽にくちづけされた世界がどのように目ざめる
のかごらんない、
春の女神が着飾って。
ほんとうの恋人たちが幸せをみつけるのを祈り
ましよう
このやさしい五月の朝に。

オーケストラがこのオペラを明るく心を高揚させるよ
うな終結へはこんでゆく。
出版:Boosey & Hawkes

エヴェンテュール (むかしむかし) Eventyr (Once Upon A Time)

スカンディナヴィアとして呼ばれる国々 —— スウェ
ーデン、デンマーク、ノルウェー —— は、ディーリア
スを魅了したが、とりわけノルウェーは、その絵のよう
なフィヨルド (峽江) とすばらしい山峰によって、彼の
魂の奥底まで深い感銘を与えた。20歳のとき、父
の命でスカンディナヴィアに派遣されていた、その
自然美はディーリアスの心から離れようとしなかった。
さらに、ライプツィヒ時代に知り合ったグリーグ、シン
ディングらとの友情もまたディーリアスを北欧に誘う
要因の一つだった。グレに落着いてからも、ディーリ
アスは毎年のようにノルウェーを旅しており、グリーグ
と徒歩旅行に出たこともあった。グリーグの没後は、
ビーチャムと徒歩の旅をたのしんだ年もあった。視
力を失ってからですら、特別な車椅子にのせられて、
北欧の壮麗な日没を感じられるよう、いつも行っ
ていた丘に車をとめてもらったという。
管弦楽曲 **エヴェンテュール** は明らかにノルウェーに
インスパイアされた作品で、1917年に完成された。
題名もノルウェー語で、お伽話や民話の発端に用
いられる「むかしむかし」の意味である。「アースビョ
ルンセンの民話によるバラード」の副題があるよう
に、ノルウェーの著述家ペーテル・クリステン・ア
ースビョルンセン (1812-85) の民話に基づいている。
アースビョルンセンは博物学者、詩人、ノルウェー民
話の採集研究家であった。曲はサー・ヘンリー・J・
ウッドに捧げられ、1919年ロンドンのクイーンズ・ホ
ール・オーケストラの公演でウッドの指揮によって初
演された。
イェルカ夫人の思い出によると、ディーリアス夫妻
は戦時中の寒い冬にアースビョルンセンのノルウェ
ー民話集を読みふけたという。のちにディーリアス
は、**エヴェンテュール** をインスパイアした民話 (お伽
話) について、こんなふうにもらしたという: 「下地に
棲む怪物さ。夜になると森の中をかけめぐる不気味

な恐ろしい巨大な生き物だ。けれども、親切で気のいい小人たちもいて、彼らは善良な住民たちを助け、彼らに幸運をもたらすのだ」。

楽器編成：フルート（ピッコロ）3、オーボエ2、コーラングレー、クラリネット3、バス・クラリネット、バスーン3、サリュンフォーン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（3奏者）、チェレスタ、ハープ2、弦楽五部と「20名の男声による『ワイルド・シャウト』（荒々しい叫び声）2回」。

このさいごにある作曲者の指定を実行するに当たって、ビーチャムは楽員に声を出させている。サリュンフォーンは19世紀の半ばにフランスの軍楽隊長サリュスの考案によって生まれた金属製の複簧式木管系バスーン族の楽器で、今日ではコントラバスーンによって代用するのだが、ビーチャムは指定通りの楽器で演奏している。

出版：Augener

丘を越えて遙かに —— 幻想序曲
Over The Hills And Far Away

1894-95年にスケッチされ、1897年の9月に完成した。2ヵ月後の11月13日、エルベルフェルトでハンス・ハイムの指揮によって初演された。英初演は1899年5月30日ロンドンのセント・ジェームズ・ホールで催されたディーリアス・コンサートにおいてドイツの指揮者アルフレート・ヘルツ（1872-1942）の指揮によって行なわれた。ディーリアス自身によってプロモートされた作品発表会で、初めて英楽界の注目をひいたが、反響は賛否両論に分かれた。エルベルフェルトでは、ディーリアスの擁護者だったドクター・ハイムが協会の曲目にこのような‘革命的’な性格を帯びた新作を加わえたことに抗議の聲があがり、今後この種の曲をとりあげるならば、ハイム博士の地位も危いという脅迫もあったと伝えられる。まことに信じがたいような話であるが、きわめて保守的な地方都市で新しい作品を紹介するのがどれほど困難であったかを物語っているエピソードとして興味深いものがある。

ディーリアスの精妙なタッチと管弦楽の半透明な音色によって描かれた自然への讃歌ともいべき丘を

越えて遙かには、ノルウェーの自然にインスパイアされたという説のほかに、ディーリアスの郷土であるヨークシャーのムア（荒地）と丘陵地帯に立ったとき胸にわき起こってくる想いをよびましたという見方もある。

曲は「幻想序曲」（Fantasy Overture）の標題をもつ交響詩であるが、けっして印象派的ではなく、異例なほど明快な形式をもっている。ABCD CABのよう配置される7つのセクションから成り、はっきりした対称的な形式感に支えられている。A（冒頭のセクション）アンダンテ・モルト・トランクイーロは、弦楽の上昇する主題、応答するホルンのモティーフとこれにつづく半音階的なパッセージによって、高原のムードを設定する。Bはホルンのモティーフに囲まれた活発なアレグロ・マ・ノン・トロツポである。Cは揺れるようなリズムにのる短かく、エピソード的なア・テンポ・モデラートである。これは曲の中央のレント・モルト・トランクイーロのDへ移ってゆく。そのメロディーは木管から弦楽へ受け渡され、ふたたび帰ってから、ヴィーヴォ・コン・ヴィゴーレで展開してクライマックスに到達し、CABという、ちがった順列による以前のセクションの再現のなかへ沈んでゆく。それはD（レント）のメロディーをもち、リズム上では3拍子から2拍子へ変わり、ファイナルのアレグロ・マ・ノン・トロツポであるBで終結させるのである。

出版：Schirmer

夏の庭にて
In A Summer Garden

「管弦楽のための幻想曲」と呼ばれる夏の庭にては、1908年に書き上げられ、同年12月11日ロンドンのフィルハーモニック・コンサートにおいて作曲者自身の指揮で初演された。その後、ディーリアスは何回も細部に手を入れ、決定版は1913年エディンバラにおいてポーランドの指揮者エミール・ムリナルスキ（1870-1935）によって紹介された。

楽器編成：フルート（ピッコロ）3、オーボエ2、コーラングレー、クラリネット2、バス・クラリネット、バスーン3、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（2奏者）、ハープ、弦楽五部

（16, 16, 12, 12, 12の作曲者による指定あり）。その題名の示すように、この曲が、ディーリアス夫妻のグレの邸宅の美しい庭と庭のゆきづまりを流れているロワン河の美しい情景からインスパイアされたことはいうまでもない。そのころすでに体調に違和感を覚えていたディーリアスにとって、自邸の庭園はもっとも心をなごませる自然の姿だった。かなり広い庭の手入れはもっぱらイェルカ夫人の日課になっていたという。ディーリアスも、次のようなダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ（1828-82）の詩句（ソネットNo.59）を引きながら、曲をイェルカ夫人に捧げている。D.G.ロセッティはラファエル前派を唱道した画家であり英詩人としても知られる。

すべてわが花盛り。春と夏が歌っているあいだに
愛の甘い花盛りのすべてをそなたに与えよう。

もう一つ、ディーリアスによって引用された筆者不詳のドイツ語によるプログラム・ノートがある：「バラとユリと無数の香りのよい草花。明るい羽根をした蝶々が花弁から花弁へと飛び移る。金褐色の蜜蜂が暖かくふるえる夏の気分のなかでぶんぶんいっている。老木の蔭には、スイレンを浮べた河が流れている。ほとんど木立ちにかくれて見えない小舟の中に二人の人がのっている。遠くでツグミが歌っている」。木管で現われ弦楽で繰返される冒頭の主題は「美の前に立つ人間の悲しみとそれが花のように消え去るにちがいないという反省」（アーサー・ハッチングス）がこめられているかのよう。コーラングレーが短い音型を出すと、それは夢みるような楽想に展開されてゆく。曲は次第に活気をとり戻す。主要主題は木管の音型と低弦の和音によって伴奏されるヴィオラたちのひろびろしたメロディーである。これは劇的に展開されると、雰囲気はほんのしばし静まり、新しい熱っぽい楽想がヴァイオリンたちに現われてから木管にひきつがれる。しかし、またしずけさが戻ってくる。すでに出た楽想が回想され、音楽がひっそりと消えてゆくと、交響詩も神秘のうちにとじられる。

出版：Universal

《ハッサン》
—— ジェイムズ・エルロイ・フレッカーの
戯曲への付随音楽から
“Hassan” — Incidental Music
To James Elroy Flecker's Drama

ジェイムズ・エルロイ・フレッカー（1884-1915）の短かい生涯は病いとたたかひだった。オックスフォードに学んだのち、ケンブリッジで東洋語を修めた彼は1910年コンスタンティノープル（イスタンブール）の英領事館に勤務することになった。トルコで、ハッサンというだまされやすい老人を主人公とする古いトルコの笑劇に親しみをもったフレッカーはこれをドラマに仕立ててみたいと考えた。1913年、スイスで療養生活を始めたフレッカーは戯曲に着手し、1915年書き上げてまもなくダヴォスの結核療養所で31年の短かい生涯をとじた。《ハッサン》は5幕物で、「バグダッドのハッサンといかにして彼がサマルカンドへの黄金の旅をするようになったかの物語」という副題が付いている。

《ハッサン》を初めて上演する企画を立てたのはイギリスの演劇プロデューサー（のちに映画監督もつとめた）バジル・ディーン（1888-1978）だった。彼は豪華な上演を計画し、当時の有力な作曲家に付随音楽の作曲を依頼することにきめ、まずモーリス・ラヴェル（1875-1937）に当たってみたが断られたので、お鉢がディーリアスにまわってきたのである。ディーリアスは久しぶりで舞台のための仕事ができることを喜んで受諾したが、翌年の1921年に手の不自由なのに気付き、年末には両手とも完全に麻痺してしまったので、その委嘱はディーリアスにとって思わぬ難事となってしまった。しかし、剛毅な彼は作曲をやりぬき、ディーンをして「グリーグの《ペール・ギュント》への付随音楽にも匹敵する、すばらしくドラマに密着した名作」と感嘆させたのである。

《ハッサンあるいはサマルカンドへの黄金の道》は前評判も高く、イギリスにおける上演が延期されたため、ダルムシュタットでドイツ語訳によって初演された。ロンドンにおける初舞台は1923年9月20日ヒズ・マジスティス劇場において幕を開けた。当時一流の舞台俳優を起用した上、バレエ振付けにミシエル・フォーキン（1880-1942）、指揮ユージン・グー

センス (1893-1962), バジル・ディーンが総監督をつとめたため, 大成功を博し, 281回のロング・ランをうち上げた。

《ハッサン》から
インテルメッツォとセレナード
Intermezzo And Serenade

ディーリアスは約25名編成の当時の劇場付きオーケストラのために書いたの、のちにビーチャムがコンサート用に編曲した。それゆえ、現行版のスコアには「サー・トマス・ビーチャム編」と記されている。

インテルメッツォは主題的な意図をもつというよりはむしろ雰囲気をかもし出す目的で書かれた繊細なオーケストレーションをもつ小品。さいしょ独奏チェロで出る音型が主な楽想となっている。楽器編成は、バスーンとホルンが各2、フルート、オーボエ、コーラングレー、クラリネット、トランペット各1、ティンパニ、ハープと弦楽五部である。

セレナードは、第1幕第2場の冒頭のト書き「月明り。二羽のハトの噴水のそばにある幸福街のとある家の前で」奏されるセレナード。ハッサンがリュートをとり上げて恋人のヤスミンにセレナードを送る。セレナードの民謡風の主題は、原曲ではテノールのヴォカリーズで歌われる〔ブージー&ホークスの現行版ではヴァイオリン・ソロになっている〕。楽器編成は弦楽五部とハープ。

《ハッサン》から
無伴奏無歌詞合唱
Unaccompanied Wordless Chorus

第1幕の第2場と第3場のあいだに舞台裏からきこえてくる短かい雰囲気的な無伴奏母音歌唱の合唱。

《ハッサン》から
終幕の場
Closing Scene

バグダッドの「月の門」では、月明りのもとで、商人たちやラクダ曳きたちが大旅行を控えて準備をすすめている。キャラバンのなかには、頹廃したバグダッドを去り、平和を求めて「サマルカンドへの黄

金の道」へ巡礼に出ようとするハッサンのほか、以前はカリフ (回教国の王) の吟遊詩人をつとめていたがいまはハッサンの盟友となったイシャクの同志がいる。合唱は「We take the Golden Road to Samarkand」のリフレインを繰返し、やがてキャラバンはリフレインとともに遠くに去ってゆく……。

出版: Boosey & Hawkes

ブリッグの定期市 —— イギリス狂詩曲
Brigg Fair — An English Rhapsody

ブリッグの定期市 という題名は、オーストラリア出身の名ピアニスト=作曲家パーシー・グレンジャー (1882-1961) が、1905年にイングランド東部のリンカンシャー州で採譜した民謡の題名である。同州北部のブリッグという町に定期的に立つフェア (定期市、縁日) のざわめきの中で逢う瀬をたのしむ田舎の若者と娘の愛の物語を歌った民謡で、グレンジャーはブリッグ付近のサクスピー=オール=セインツという僻村で年老いた農夫が歌っているのをきいて、すぐその場で採譜し、その後まもなく自作のパスサカリア *Green Bushes* に用い、合唱曲にもアレンジした。ディーリアスがこのオーストラリア出身ながらドイツで学んだ俊英ピアニストと知り合ったのは1906年のことで、重病の床にっていたグリーグの紹介だった。ディーリアスは、グレンジャーの才能を愛したばかりでなく、生気撥刺として闊達、ユーモアのセンスに富むこの青年が気に入り、すぐグレに招いたほどで、その友情は終生つづいた。グレンジャーはグレのディーリアス邸を訪ねた折、自分の採譜した〈ブリッグの定期市〉を弾いてディーリアスに聴かせたところ、ディーリアスはその旋律に魅され、グレンジャーにそれを作曲に使う許可を求めた。こうしてディーリアスは1907年にブリッグの定期市を書き上げ、〈イギリス狂詩曲〉の副題を添えた。グレンジャーへの献呈がしるされているスコアに、ディーリアスはこの民謡のさいしょの2節を印刷させた。

それは八月の五日のことだった。天気はすばらしく晴れていた。ぼくはいとしい恋人に逢うために

ブリッグの定期市に出かけていった。
ぼくはよるこびに胸をふくらませて 朝早くヒバリとともに起き立った。長いあいだ逢いたいと思っていたあの娘に逢えるのだと思いながら。

初演は1908年1月、バーゼルの音楽祭 (トンキュンシュトラーフェスト) でスイスの指揮者=作曲家ヘルマン・ズーター (1870-1926) の指揮によって行なわれた。英初演は1908年1月18日イギリスの作曲家=指揮者グランヴィル・バントック (1868-1946) の指揮でリヴァプール・フィルハーモニック管弦楽団の定期でもたれた。初演の際から好評を博し、ディーリアスの作品の中でも最も親しまれているものの一つである。

楽器編成: フルート3、オーボエ2、コーラングレー、クラリネット3、バス・クラリネット、バスーン3、コントラバスーン、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ、ティンパニ、打楽器 (3奏者)、ハープ (1あるいは2)、弦楽五部 (16、16、12、12、12の作曲者の指定あり)。

構成は一種のパスサカリア形式で、休止はないが、大きく分けると6つの部分から成っている。

(1) 序奏部 (レント・パストラル)
ハープのアルペッジョを背景として、フルートが牧歌的な旋律を導入する。スコットランド出身の音楽評論家セシル・グレイ (1895-1951) が「また如何に魔術的にブリッグの定期市のさいしょの数頁が地平線を掩っている薄い霧と大気の中にある曙のかぐわしい匂いを暗示しながらイギリスの田舎の初夏の朝の気分を喚起することか! 如何なる芸術がこれ以上適切に“単純で、官能的で、情熱的”と形容され得よう?」と感嘆した美しい音楽が始まる場所である。〔Cecil Gray: *A Survey of Contemporary Music* 1924. 邦訳: 大田黒元雄訳『近代音楽の巨匠』音楽之友社〕

(2) 主題と6つの変奏
オーボエのソロが主題〈ブリッグの定期市〉を歌う (アレグレット・レジェーロ)。この主題は、フルート・ソロ、弦楽合奏、フルートとクラリネットという順序で計4回現われる。それから自由な変奏へ移り、6つの変奏がつづく。

(3) 中間部 (「ゆっくりときわめてしずかに」レント・エ・モル

ト・トランクイロー)
序奏部のフルートが牧歌的な雰囲気をつたえ、弱音器を付けたヴァイオリンが美しい旋律を歌う。この曲のなかでも最も美しい個所の一つである。

(4) → (6) コーダ
新しい主題がトランペットとトロンボーンによって導かれ、荘重なベルの音と分割された弦楽のオフ・ビートの和音によって効果はさらにたかめられる。旋律は、ヴァイオリン、ホルン、コーラングレー、クラリネットによって繰返される。この新しい主題と民謡主題との展開がクライマックスを形づくってゆく。民謡主題は少しずつ形を変えて、11回変奏される—— (4) 第7変奏から第12変奏まで、次に経過部があって、(5) 第13変奏から第16変奏まで、経過部をへて第17変奏となり、(6) コーダでしめくられる。コーダで盛り上がり、オーボエが〈ブリッグの定期市〉の民謡主題を再現し、曲は序奏部の牧歌的な雰囲気を回想しながら静かに消えてゆく……。出版: Universal

春初めてのカッコウを聞いて
On Hearing The First Cuckoo In Spring

この曲を書く動機もパーシー・グレンジャーにある。彼のディーリアスに関する覚え書きによれば、1910年頃ディーリアスは自作がイギリスでネグレクトされていることを嘆いた手紙を寄せてきた。そこで、グレンジャーは「イギリスには優れたアマチュアのオーケストラが多いから、これまでのような大編成をやめて、小管弦楽団のための小品を書いたら、きっと彼らは食いついてくるでしょう」といってやった。グレンジャーのアドヴァイスに従ったディーリアスは《河の上の夏の夜》と春初めてのカッコウを聞いての姉妹篇を書いた。とりわけ、後者はディーリアスの作品中もっとも親しまれる曲になったのである。1912年に完成した春初めてのカッコウを聞いては《河の上の夏の夜》と共に、1914年1月10日、メンゲルベルクの指揮によってロンドンのフィルハーモニック・コンサートで初めてイギリスに紹介された。1管編成の小管弦楽用に書かれ、曲はディーリアスを援助したイギリスの作曲家で親しい友人のバルフォア・ガー

ディナー (1877-1950) に捧げられている。
この音詩は、題名の示すように、「春に (その年) 初めてのカッコウを聞いて」春の訪れをしみじみと感じた作曲者のエモーションを音楽へうつしたばかりでなく、ノルウェーに対するディーリアスのノスタルジックな憧憬を託したものだといわれている。冒頭の光りを放つような和音は春の訪れに伴う情感を魔術的にとらえている。序奏ののち第1主題が現われる。これはイギリス的な性格を帯び、ディーリアス自身のものである。次に現われる第2主題にはノルウェー民謡〈オーラの谷で〉が用いられている。そのあとでカッコウの鳴き声が聞こえる。2つの主題が織りなされるあいまに、カッコウが鳴き交わすのを暗示するかのようにエコーするフレーズが反復される。いけがきは朝露に濡れ、暖かい陽の光にきらめいている。眼覚めつつある大地の心地よい匂いにつつまれていると、遙かからカッコウの初音^{はつね}がきこえてくる——古来英詩に限りなく歌われてきたカッコウに寄せる春の訪れはディーリアスによって美しい音のミニアチュア——小幅の名画となった。第2主題にとり上げられたノルウェー民謡〈オーラの谷で〉(*I Ola-Dalom*) は、すでにグリーグが《19のノルウェー民謡集》作品66 (ピアノ独奏曲) の中で和声づけをした曲である。グレンジャーは初めてグレにディーリアスを訪ねた際、この曲を弾いて聴かせたという。
出版：O.U.P.

楽園への道 ——
オペラ《村のロミオとジュリエット》から
The Walk To The Paradise Garden from
“A Village Romeo And Juliet”

ディーリアスのオペラ第4作《村のロミオとジュリエット》は、スイスの小説家ゴットフリート・ケラー (1819-90) の小説《村のロメオとユリア》(*Romeo und Julia auf dem Dorfe*.1856) に基づいて、作曲者自らリブレットを執筆し、1900-01年に作曲されたプロローグ付き3幕6場のオペラである。村の少年サリーと少女ヴレーンヘンはたがいに愛しあう仲になるが、両家は激しく反目しているため、この世で添えられぬ二人は小舟に乗って死の道を選ぶという、スイスの

田園を背景としたロミオとジュリエットの哀話である。オペラの初演は、1907年2月21日、ベルリンのコーミッシェ・オーバーでフリッツ・カッシーラーの指揮によってドイツ語で行なわれた。英初演は1910年2月22日ビーチャムの指揮によってコヴェント・ガーデン王立歌劇場において (同じく1920年再演)。ビーチャムは1947年にHMVに全曲録音した。
楽園への道 は、オペラが上演されたのち、ビーチャムのすすめで書かれた間奏曲 (インターラード) で、オペラの終幕の場つまり第6場の前に奏される間奏曲に基づいて書き改められたもの。オーケストラ・ピースとして、しばしば交響楽団の公演で単独に演奏される。オペラは3管とホルン6の大編成で書かれているが、ビーチャムは、コンサート用に、楽園への道の楽器編成をへらし、2管と4ホルンに編曲した。少年少女は手に手をとって「楽園」への道を歩む。「楽園」とは、かつては立派な館^{やかた}をとりまいていた庭園のことで、いまは荒れ果てている。その裏手に河が流れている。曲はホルン、バスーンとコーラングレーのワルツを想わせるような音型で始まる。これは主部への導入部である。主部は2つの情感こまやかな旋律で構想されている：さいしょの旋律はホルンとバスーン、もう一つの旋律は低音楽器による対比主題に対してオーボエで歌われる。2つの情感あふれるクライマックスをへて曲は余韻を残して消えてゆく。
出版：Boosey & Hawkes

そり乗り (冬の夜)
Sleigh Ride

ライブツィヒで書かれたので、さいしょの原題はドイツ語により、Schlittenfahrt (Winternacht) だった。——英訳はSleigh Ride (Winter Night)。1887年の夏、ディーリアスはノルウェーの南部へ孤独な徒歩旅行に出かけた。その秋、ノルウェー語を修得したディーリアスはライブツィヒで何人かのノルウェーの作曲家と交友をもった。中でもクリスティアン・シンディング (1856-1941) と親交を結び、年の暮れ近くにグリーグ (1843-1907) が来て3人はほとんど毎日のように会った。クリスマス・イヴに最年長のグリーグはパーティをもち、ハルヴォルセン (1864-

1935) も仲間に加わった。初めの計画では、めいめいが新作を持ち合わせ、夕食後ピアノで演奏し、たがいに批評し合うということだったので、ディーリアスは「そり乗り」の手書きスコアをたずさえていった。ところが、会合の楽しさが計画の実現をはばんだのだった。スカンディナヴィアをこよなく愛したディーリアスが描いた雪国の情景で、冬の夜のそり乗りのスリルと愉しさが、じかに伝わってくる佳曲である。

夜明け前の歌
A Song Before Sunrise

1918年にフィリップ・ヘスルタインのために書かれた小編成の交響詩である。英詩人スウィンバーンの詩に感興を得て作曲したといわれるが、日の出前のイギリスの田園美を描いたものである。甘美な序奏部は大自然が徐々に眼覚めてくる微かなざわめきを暗示し、短かい間奏曲をはさんだ3部形式で書かれている。この曲 (A Song Before Sunrise) の邦訳に「暁の歌」というものもあるが、原題はA Song Of Dawnではないのだから、やはり原題に即して「日の出前の歌」あるいは「夜明け前の歌」とすべきであろう。

夏の夕べ (ビーチャム編)
Summer Evening (arr. Beecham)

1890年 (28歳)、パリで書かれた「3つの小さな音詩」の第1曲に当たっている。グリーグの影響の強かった頃の作品だが、ムードを喚起するディーリアスのマジックはすでに顕著に現われている。

エアとダンス
Air And Dance

1914年独軍のフランス侵入のため、ディーリアス夫妻はロンドンに避難し、翌1915年キューナード夫人邸における私的演奏会のために書かれたのが弦楽合奏用の《エアとダンス》だった。公開の席で演奏されたのは1929年のことである。

告別の歌 (W.ホイトマン詩)
Song Of Farewell

ディーリアスがからだの不調を感じたのは1918年ごろだったが、再三の転地療法にもかかわらず病勢は次第に悪化し1925年 (63歳) には作曲するにも不自由な状態に追いこまれた。からだが麻痺し失明するに至り、ディーリアスの回復は絶望的となった。パリ近在の静かな美しい村グレ=シュール=ロワンに隠棲するまで、パリで送った奔放な青春時代の歓楽の報いだった。老作曲家の気の毒な様子をラジオで知った同郷 (ヨークシャー) の音楽青年エリック・フェンビーがヴォランティアーとしてディーリアスの助手になることを志願し、フェンビーがグレのディーリアス邸に住み込むことになったのは、1928年の10月のことだった。フェンビー青年はディーリアスの眼となり、手となって、口述による作曲がすすめられた。《告別の歌》もフェンビーの助力によって生まれた作品の一つで、1930年に完成をみた。その苦心談はフェンビーの名著*Delius as I knew him* (1936) に詳しい。

初演 1932年5月、ロンドンのクイーンズ・ホールにおいてマルコム・サージェント指揮LSO & フィルハーモニック合唱団によって行なわれた。〔一説によると3月。合唱団はロイヤル・コーラル・ソサエティ〕。
楽器編成 フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、バスーン3、ダブル・バスーン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、ハーブ、弦楽五部と混声合唱 (SATB)。
解題 《告別の歌》のテキストはウォルト・ホイトマンの『草の葉』から採られており、次の5つの部分から成っている。
I. 黙って過去をたどってゆくことの愉しさよ!
(How sweet the silent backward tracings!)
視力を完全に失なった作曲者の心眼にうつる追憶のように曲はためらいがちにはじまる。はるか遠くからホルンのファンファーレがきこえてくる。徐々に囁きは消えてゆき、追憶は明らかな形象をとってくる〔りんご園……〕。やがて曲は初夏と太陽のあふれんばかりなクライマックスへのぼってゆく。ノスタルジアは消え、男性的なぎびしさと女性的な官能美とが

まじりあう。
II. 何か大きな鷲のくちばしの上にいるかのようにたたずんで
(I stand as on some mighty eagle's beak)
ディーリアスのとくいとする海の風景である。ホルンによって告げられる主題は海のモチーフのさいしょのもので、この主題は進んだり退いたりしながら全楽章に姿を現わし、「際限なく打ち寄せてくる波」(ホルン)ですさまじい効果をあげたのち、管弦楽の後奏曲のさいごの2小節で再び戻ってくる。「雪のように白い巻き毛のような波がしら」でフルートのちらっと注入し、「泡」(the foam)で1本のトランペットの音符を加え、「荒々しい激動」におけるホルンの刺すような音など、ディーリアスの心眼から豊かな色彩感の失なわれていないことを示している。
III. 君たちのごとこへ渡ってゆこう!
(Passage to you!)
この楽章はディーリアスの自然讃歌である。暁の冷たい光(分割された弱音器付きの弦楽)から、真昼の耀き(シンバル)を経て、水の上でうたわれるタベの歌に至るまでの自然の力のすばらしさ。合唱の入りを支えるオスティナート風のチェロの音型は楽章の終りで海のモチーフとして現われる。
IV. 喜べ、同舟の仲間よ、喜べ!
(Joy, shipmate, joy!)
ディーリアスの心眼には再び海のイメージが現われる。はつきりした海のイメージだ。恐れを知らず豪胆に深海の探検にでも出向くかのように、音楽は行進してゆく。朗々と鳴り響くラッパの音(トランペットとトロンボーン)。
V. さあ岸辺にフィナーレを
(Now finale to the shore)
おそらく遠くない最後の告別——死を意識したであろうディーリアスが、ホイットマンの詩に託した“告別の歌”である。ト長調の和音が、このさいごの歌のクライマックスである「出発せよ」(Depart)で高らかに鳴り渡る。すべてのものは海と空の融けあう無限の彼方に吸いこまれ、きこえてくるのは波のうねりを示すチェロ群のひびきだけだ。さいごの“Depart!”はピアノニッシーモ・ボッシビーリで(できるだけピアノニッシーモで)、あたかも遙か彼方の水平線からきこえてきて、遠ざかってゆく陸地に別れを告げているかの

ようである。
出版:Boosey & Hawkes

SONG OF FAREWELL
I
How sweet the silent backward tracings!
The wanderings as in dreams-
the meditation of old times resumed-
their loves, joys, persons, voyages.
Apple orchards, the trees all cover'd
with blossoms;
Wheat fields carpeted far
and near in vital emerald green;
The eternal, exhaustless freshness of each
early morning.
The yellow, golden, transparent haze of the
warm afternoon sun;
The aspiring lilac bushes with profuse
purple or white flowers.

II
I stand as on some mighty eagle's beak
Eastward the sea absorbing, viewing,
(nothing but sea and sky),
The tossing waves, the foam, the ships in
the distance,
The wild unrest, the snowy, curling caps-
that inbound urge and urge of waves,
Seeking the shores forever.

III
Passage to you!
O secret of the earth and sky!
Of you O waters of the sea!
O winding creeks and rivers!
Of you O woods and fields!
Of you strong mountains of my land!
Of you O prairies! Of you gray rocks!
O morning red! O clouds! O rain and snows!
O day and night, passage to you!

O sun and moon and all you stars!

Sirius and Jupiter!
Passage to you!
Passage, immediate passage!
The blood burns in my veins!
Away O soul! hoist instantly the anchor!

IV
Joy, shipmate, joy!
(Pleas'd to my soul at death I cry.)
Our life is closed, our life begins,
The long, long anchorage we leave,
The ship is clear at last, she leaps!
She swiftly courses from the shore,
Joy, shipmate, Joy.

V
Now finale to the shore,
Now land and life finale and farewell,
Now Voyager depart;
(much, much for thee is yet in store.)
Often enough hast thou adventur'd o'er
the seas,
Cautiously cruising — studying the charts.
Duly again to port and hawser's tie
returning;
But now obey thy cherish'd secret wish.
Embrace thy friends, leave all in order,
To port and hawser's tie no more returning,
Depart upon thy endless cruise old Sailor.

Walt Whitman (Leaves of Grass)

告別の歌 (三浦淳史・訳)
I
黙って過去をたどってゆくことの愉しさよ!
夢の中でさまようように心はさまよう——
昔のことを思い起こして物思いに沈む——
その頃の愛、喜び、知人たち、航海など。
りんご園、りんごの樹は花でおおわれている。
遠くも近くも生き生きとしたエメラルド・グリーンの
絨毯で敷きつめられている小麦畑。

毎日の早朝の永遠に尽きることのない新鮮さ。
暖かい午後の日ざしの黄色く黄金色の透明な霞。
紫か白の花をたっぷりつけて そびえるライラックの繁み。

II
何か大きな鷲のくちばしの上にいるかのようにたたずんで、
東の方にある海に心を奪われながら、
じっくり見る(あるのは海と空のみ)
激しく揺れ動く波、泡、遠くに見える船
荒々しい激動、雪のように白い巻き毛のような波がしら——
際限なく打ち寄せてくる波、
永遠に岸辺を求めて寄せてくる波。

III
君たちのごとこへ渡ってゆこう!
おお大地と大空の秘密よ!
君たちの、おお、海の水よ!
おお曲がりくねった小川と大河よ!
君たちの、おお、森と野よ!
君たちの、わが祖国の雄々しい山々よ!
君たちの、おお、大草原よ! 君たちの灰色の岩よ!
おお暁の紅色よ! おお雲よ! おお雨と雪よ!
おお昼と夜よ、君たちのごとこへ渡ってゆこう!

おお太陽と月と君たちすべての星よ!
シリウス(天狼星)とジュピター(木星)よ!
君たちのごとこへ渡ってゆこう!
ゆこう、いますぐ渡ってゆこう!
血がばくの血管の中で燃えている!
ゆこう、おお魂よ! いますぐ錨を上げて!

IV
喜べ、同舟の仲間よ、喜べ!
(死に臨んで、しん底から満たされて私は叫ぶ)
われらの生は終わった、われらの生がはじまるのだ
長い長い停泊から、われらは旅立つ
とうとう船は出港し、跳ぶように走る!
たちまち岸から離れてゆく、
喜べ、同舟の仲間よ、喜べ。

さあ岸辺にフィナーレを

さあ陸地と生にフィナーレと告別を

さあ航海者よ出発しろ

(まだまだお前にはやるべきことが残っているが)

これまでもよくお前は海を渡って冒険し

用心深く巡航し —— 海図を調べ

とどこおりなく港へ戻り、もやい綱をしっかりと結んだ。

だがこんどは、お前の心に大切にしていた秘密の

望みに従って

お前の友人たちを抱きしめ、すべてのものに別れ

を告げて、

港ともやい綱にはもはや帰ることなく、

老いたる船乗りよ、お前のはてしない巡航の旅に

出発せよ。

ウォルト・ホイットマン (『草の葉』)

去りゆくつばめ (フェンビー編)

Late Swallows (arr. Fenby)

ディーリアス夫妻が第1次世界大戦勃発のためフランスからイギリスへ避難しなくてはならなかったとき、

ディーリアスは2番目の弦楽四重奏曲にかかっていた (1893年作の第1番は破棄されたので、1曲だけになってしまったが)。

《去りゆくつばめ》は、その弦楽四重奏曲 (1916-17) の緩徐楽章、つまり第3楽章をエリック・フェンビーによって弦楽合奏に編曲されたもの。題名はディーリアスのオリジナルな命名である。

フェンビーによれば、ディーリアス夫人は当時の思い出をこう語ったそうである —— 「グレの家を立ち去らなければならなかったとき、フレッド (ディーリアス) はつばめと別れるのがとてもつらいと言っていました」 —— 曲は美しい初秋のひとりごとのようで、そのふしは、つばめのように、ほのかにきらめく和音のなかを高くなったり低くなったりして飛び交うのである。その秋の訪れを想わせる雰囲気は、いわば音楽によるポアンテリスム (点描主義) といってもよいであろう。

出版: Boosey & Hawkes

夏の夜 水の上にて歌える

(2つの無歌詞・無伴奏パートソング)

To Be Sung Of A Summer Night On
The Water

フレデリック・ディーリアスは青春彷徨時代を経て27歳のときパリに到着し、セルビア生まれの画家イェルカ・ローゼンと愛し合って、無宗教の結婚式をあげたのが1903年ディーリアス41歳のときだった。いらい夫妻はパリ郊外フォンテーヌブローの近くの美しい村グレ=シュール=ロワンの邸宅に隠栖して後半生を送るのである。邸宅は今も残っている。筆者が先年訪ねた折も、夏になるとディーリアスが舟遊びを愉しんだというロワン河が庭園のゆきづまりに流れるともなく流れていた。わたしはポプラとプラタナスの大樹が河面すれすれに枝を垂れ、朽ちたボートが乗り捨てられたままになっている河畔にたたずんで、夏を愛し夏をたたえる曲を数々書き残したディーリアスのことを偲んだ。

《夏の夜 水の上にて歌える》は1917年ディーリアス55歳の作であるが、その原題の *To be sung of a summer night on the water* は、イギリス人にとっても破格な用法だとみえ、この曲を初演したオリアーナ・マドリガル協会の創設者=指揮者チャールズ・ケネディ・スコット (1876-1965) へ宛てた返信でディーリアスは次のように抗弁している。[1917年8月8日グレ発] 「題を *To be sung on* Summer night on the Water とすべきだとおっしゃるのですか? 何ということをいわれるんです? なぜ 'of' がいけないんです? 第1曲は当然 'Ah' で歌うべきで、第2曲ではテノール・ソロは当然 'La' で歌ってほしい……」 [DELIUS by Peter Warlock. 1932]。訳名はこの解説者のかなり自由な意識であるが、'To be sung...' の前に Two songs をおぎなってみると、「よく夏の夜などに水の上で歌われるべき2つの歌」の意である。素朴なパートソングに夏の夜のアトモスフェアと抒情が美しくたたえられており、第1曲はロワン河上の静かな夏の夜を、第2曲は若き日に放浪したフロリダはセント・ジョン河の夏の夜を、ノスタルジーをこめてうたったのであろう。[初演: 1920年1月, ロンドン]

出版: O.U.P.

シナーラ (ダウソン詩)

Cynara

ディーリアスはさいしょ同じくダウソンの詩である『シナーラ』を《日没の歌》に入れようとしたが、余りにも完璧な形をとっているの、別に作曲した。1907年に書きはじめたが、完成されたのは1929年のことだった。1929年の春、ビーチャムから新作を要請されたディーリアスは、久しく埋もれていた《シナーラ》の下書きをとり出し、折からディーリアスの助手を志願してグレの邸に住みこんでいたエリック・フェンビーの協力によって旧作を完成したのである。時にディーリアスは完全に視力を失ない、四肢も麻痺する老残の身だったが、創作力は少しも衰えることがなかった。

初演 1929年秋ロンドンで催されたディーリアス・フェスティヴァルの一環として、10月18日クイーンズ・ホールにおいてサー・トマス・ビーチャムの指揮するBBC管 (Br独唱: ジョン・ゴス) によって初演された。ディーリアスも車椅子でフランスから出席した。

解説 『シナーラ』はダウソンの絶唱といわれる名作で、戦前に矢野峰人博士の名訳があるが、今回世紀末文学を専攻する学徒・南條竹則君の新訳を得たことは嬉しい。

ダウソンのシナーラとは誰か? ソーホーにあったポーランド人のレストランの娘で、母の庇護のもと、チャミングにほばえむハイティーンの少女だったといわれる。ダウソンは2年かよって彼女を口説いたが、彼女はウェイターといっしょになった。恋に破れたダウソンは赤い灯のともる巷を徘徊し酒と女に憂さを忘れようとした。だが、歓楽の最高潮にあっても、ふと影のようにシナーラの姿が現われ哀傷は深まるばかりだった。そうした折りに書かれた『シナーラ』は英国世紀末文学の傑作として愛誦されてきた。詩人が没して7年後に作曲された《シナーラ》には交響詩「夜想曲《パリ》—— 大都会の歌」(1899) との血縁関係が認められよう。冒頭のほの暗い楽器書法、幽玄なオーケストラ・カラー (特にバスーンと低いホルンの扱い方) など、憂愁にとざされているムードは「大都会パリの夜想曲」といってよいだろう。中間の部分に当たる第3節の詩 'I have forgot much, Cynara! Gone with the Wind' (「われは多

くをうちわすれ、シナーラよ、風とさすらいて」—— 峰人訳) で、ディーリアスはタンブランとトライアングルによって修飾されたワルツ風のリズムに詩を乗せ華やかな賑わいの中に刺すような痛みを感じさせる。シロフォンのうつろな音符は人間が死すべき運命にあることを暗示し、「うたげのはてて燈火の消えゆくとき」(峰人訳) を肌で感じさせる。ディーリアスの《田園詩曲》(*Idyll*)、《海流》と《シナーラ》はすべて愛とその喪失をうたっているが、これらの曲がすべてホ長調ではじまってホ長調で終わっているのは心にとめておいてもよさそうである。

ディーリアスとダウソン アーネスト・ダウソンは1867年2月、ケント州のリーに生まれた英詩人で、生来病弱のため、悲しい恋に破れ、ついに血を吐いて死んだ薄幸の詩人である。1900年2月23日、33歳の若さで世を去っているが、ディーリアスとは同世代人で、いずれも世紀末 *fin-de-siecle* に青春の血をたぎらせた芸術家である。恋に破れたダウソンは傷ついた獣のように紅灯の巷をさすらい、その弱い肉体と心を衰えさせていった。ディーリアスもバリ時代には夜の巷を彷徨し、芸術家仲間と奔放な生活を送った。

出版: Boosey & Hawkes

CYNARA

Baritone Soloist

Last night, ah, yesternight, betwixt her lips
and mine
There fell thy Shadow, Cynara! the breath
was shed
Upon my soul between the kisses and the
wine;
And I was desolate and sick of an old passion,
Yea, I was desolate and bowed my head:
I have been faithful to thee, Cynara!
in my fashion.

All night upon mine heart I felt her warm
heart beat,
Night long within mine arms in love and
Sleep she lay;
Surely the kisses of her bought red mouth

were sweet;
But I was desolate and sick of an old passion,
When I awoke and found the dawn was gray:
I have been faithful to thee, Cynara!
in my fashion.

I have forgot much, Cynara! Gone with the
Wind,
Flung roses riotously, riotously with the
throng,
Dancing to put thy pale, lost lilies out of mind;
But I was desolate and sick of an old passion,
Yea, all the time because the dance was long:
I have been faithful to thee, Cynara!
in my fashion.

I cried for madder music, and for stronger
wine.
But when the feast is finished and the
lamps expire,
Then falls thy shadow,
Cynara! the night is thine;
And I am desolate and sick of an old passion,
Yea, hungry for the lips of my desire:
I have been faithful to thee, Cynara! in my
in my fashion

シナーラ (南條竹則・訳)
バリトン独唱
きのうのこと ああ昨宵よ 交わす互いの唇の
あいだに
さしおりたおまえの影 シナーラよ! 接吻と酒と
の合間に
おまえの吐息はこの胸を舐めるのだった
そしてこの身は愁いに沈み 昔の情熱に苛められた
そうよ この身は愁いに沈み 頭を垂れて
おまえを思いとおしてきたのだ シナーラよ
我なりに

夜どおし胸は暖かな女の胸の鼓動を聞き
一夜 女は腕の中 愛と眠りに抱かれた
購いもとめた紅い唇は たしかに甘かった

されどこの身は愁いに沈み 昔の情熱に苛められた
目を覚まして灰色の夜明けを見た時は
おまえを思いとおしてきたのだ シナーラよ
我なりに

あれもこれも忘じ果てた シナーラよ! 風と出で
薔薇を 薔薇を 群れ騒ぐ輩と投げあい
踊り狂い 還らぬ白き百合の面を忘れんとして
されどこの身は愁いに沈み 昔の情熱に苛められた
そうよ 踊りの長さに倦んで 一瞬たりと楽しまず
おまえを思いとおしてきたのだ シナーラよ
我なりに

さらにさらに狂える楽を 強き酒をと呼ばわった
だが宴が終わりを告げ 燈火消え去れば
その時こそさしおりるはおまえの影よ
シナーラ! 夜はおまえのもの
そしてこの身は愁いに沈み 昔の情熱に苛められる
そうよ 恋しきおまえの唇を求めもとめて
おまえを思いとおしてきたのだ シナーラよ
我なりに

オペラ《赤毛のマルゴ》の前奏曲 Prelude from Margot Of Rouge

《赤毛のマルゴ》は1901-02年にパリで書かれた
1幕7場のオペラでディーリアスはリリック・ドラマと
呼んだ。台本はローズンヴァルという匿名の作家で
ある。これは上演されることなく、ディーリアスと交友
のあったモーリス・ラヴェルが1904年につくったヴォ
ーカル・スコアのみが残された。これをもとに1980
年にエリック・フェンビーによってオペラが復原され
た。ディーリアスは1932年にフェンビーの助力によ
って、その〈前奏曲〉を《田園詩曲》の前奏曲に転
用している。しかし、《田園詩曲》の前奏曲はゆるや
かなテンポで過ぎし日の恋を回想しているのにひき
かえ、《赤毛のマルゴ》の前奏曲は青春の活気に
溢れたスピード感と期待感をそなえている。

さすらい人の歌 (A.シモンズ詩) The Wanderer's Songs

この無伴奏男声合唱のためのパートソングは1908
年パリで書かれた。歌詞はフランスの象徴主義をイ
ギリスにもたらした詩人アーサー・シモンズ(1865-
1945)の詩による。
大意 ぼくは女を沢山持っていたし、恋も沢山した。
だが、陸がぼくを待っている、海がぼくを待っている、
昼と夜もたっぷり。ぼくには白く長い道と灰色で広
い海の航路がほしい。風のまま、鳥のゆくてにしたが
って、それでも心の痛みは残っている。／なぜぼくは
悲しみを求め、争いのために黄金を投げ与えるのか?
ぼくは数多く恋をして涙もたっぷり流したが、涙と恋が
人生じゃあない。草原がぼくの心に呼びかけているし、
海のしぶきがぼくの血を沸き立たせる。そして太陽が
輝き、道も輝く。盃にはブドウ酒が満たされて。／ぼく
は英知にも恵まれ、歓楽も尽くした。道をゆけば、そ
の果てに到り、やがて地の果てに到る。それからお休
みと言ってベッドにもぐりこむ。たとえ、かかと(踵)か
心が痛むとしても、それは安らかな長い眠りである。そ
して眠りが余りにも深くて眼を醒まさないかもしれない。

2つの水彩画 (フェンビー編) Two Aquarelles (arr. Fenby)

半生をパリ近郊のグレ=シュール=ロワンの村で隠
遁生活を送ったディーリアスは、庭園を流れている河
で夏の夜の舟遊びを愉しんだ。そのような夜のため
に、彼は無歌詞無伴奏の合唱曲《夏の夜 水の上
にて歌える》(1917)を書いた。これを、失明した晩
年のディーリアスの手となり眼となって作曲を助けた
エリック・フェンビーが弦楽合奏用に編曲して《2つ
の水彩画(アクアレル)》という美しい題をつけたもの。
第1曲では、第1と第2のヴァイオリン、ヴィオラ、チェ
ロはそれぞれ分割され、ダブル・ベースは終りの6小
節だけ参加する。かぼそく美しい旋律が、やわらかく
変わってゆく和声のなかに、微光を放ちながらとけこ
み、夏の夜のしずかな情景をよびさます。第2曲で
も弦楽は分割され、抒情豊かに高潮してから、曲は
河上の夏の夜のじまのなかへ消えてゆく。

◎エリック・フェンビーによるノート1

北国を愛したディーリアス ～《北国のスケッチ》と《生命の踊り》～ North Country Sketches & Life's Dance

ディーリアスは北国の風物を愛した。彼が作曲の
ペンをとるときはいつでも北国の風物にとりつかれ
たように思われる年月があった。その作品目録を調
べてみると、1908-14年の間は著しくこの熱情的な
関心が示されているようである。当時の彼はデンマ
ークの詩人J.P.ヤコブセンの自然詩に共鳴し、オペ
ラ《フェニモアとゲルダ》、合唱作品《アラベスク》、
および無歌詞の合唱の入る《高い丘の歌》を書い
た。彼が仕事をするときの習慣として、ゆきづまった
と直感するや否や、いまかかっている主な仕事をわ
きに片して、まったくべつの仕事にとりかかるのだ
った——たとえば、《アラベスク》を作曲しているあい
だに、あの精妙な《河の上の夏の夜》が書かれてい
るし、あるいは、1899年いらい満足のゆく解決の見
出されなかった作品にとり組んで《生命の踊り》を
完成するというふうであった。けれども、彼がヨーク
シャーのムア(荒地)をポニーに乗ってかけめぐった
少年時代から知っていた北国の風物を管弦楽の
印象曲にまとめさせたのは、スカンディナヴィアでは
なく、イングランドだった——1913-14年の間に、
フランスの田園にある自邸で書かれた**北国のスケ
ッチ**がそれである。

正直いって私はディーリアスが北国のスケッチの純
粋に音楽的な内容以上に何を伝えようとしたかは
知らない。私が彼の作曲の助手となり家族の一員
として暮らした6年間のあいだに、彼が音楽につ
いて語ったのは正味20分ていどのものではなかつ
たかと思っている。それもたいてい私のほうから誘
導してのことだった。私がディーリアスの音楽に
対する洞察を深めたのは彼の口述を筆記しながら
学んだことであって、私が書きとめたものをアクセ
ントとかフレージングを変えながらピアノで弾いて聴
かせたときの彼の反応とか自作のラジオ放送を聴
いた折りのコメント、あるいはたまにもらす思索の一端
などからではなかった。

北国のスケッチには何のプログラム(標題)もない。手がかりといえは、それぞれの楽章に与えられた題名をべつとして、彼の人生観にあるように思われる。「人間は空しい! 自然だけがめぐる!」というのが、しょっちゅう彼の思考に現われる要旨だった。ディーリアスとしては異例な、さいしょの2つの楽章における絵画的な暗示にもかかわらず、われわれはたしかに一年の終りが近づき木の葉のようにはかない人生を嘆く風のスピリットを聴くのである。お馴染みの「ディーリアス・サウンド」に封じこめられた素晴らしく想像力豊かな色彩感のみごとに鋭い感受性をもって実現されている。ディーリアスらしいマズルカ風の舞曲はじっさいの踊りというよりはむしろ精霊の踊りのように思われる。春が再びめぐるという考えのみが踊りとともに喜びにわき立つ冬のころでありうかのように、曲は気まぐれで、発作的で変わりやすい。さいごの印象である「春の行進曲」は「春のめざめ」(これがさいしょの題名だった)のリズムに鼓動する。物悲しげな秋の印象と冬の静的な荒涼さを形づくっていた沈んでゆく音楽の線の下降する進行は去ってしまった。春の印象は浮きうきとした気分を引き立てる上向する動きに乗り、オーボエのアラベスクにたわむれる牧場の情景は弦楽の恍惚とした喜びにたかまってゆき、やがて春の行進曲はしずかにとじられるのである。アルバート・コーツ(1882-1953)に捧げられたスコアは1915年5月ロンドンにおけるLSOの公演においてサー・トマス・ビーチャムの指揮によって初演された。

生命の踊りには3つの版がある。①デンマークの劇作家ヘルゲ・ローデの「踊りはつづく」*Dansen Gaar*に基づく交響詩「踊りはつづく」*La Ronde Se Deroule (The Dance Goes On)*で、1899年に書かれ、その年ロンドンのセント・ジェイムズ・ホールにおいてアルフレート・ヘルツの指揮によって紹介された。ディーリアスは展開部に不満をもち、冒頭の個所はそのままにして改訂にとりかかった。②《生命の踊り》と改題し、1904年デュッセルドルフにおいてユリウス・ブートによって演奏され、ドイツでは好評を博した。だが、ディーリアスはコーダが弱いと考え、また手を加わえた。③決定版**生命の踊り**は1912年ベルリンでオスカー・フリードによって初演された。その成果に満足したディーリアスは曲

をフリードに献呈した。

ディーリアスは出版社のティッシャー&ヤーゲンバーグに宛てて次のように書き送っている:「**生命の踊り**は私の最善の管弦楽曲だと思っています。そのコーダが私を満足させなかったので何年間かファイルの中に入れておいたのですが、ついに私は自分の求めていたものを見出し、曲は完成したのです」。ティッシャー&ヤーゲンバーグ社はすぐ曲を出版したけれども、この作品はいまだによく知られていないようである。1933年にイギリスで演奏されそうだという知らせがあったとき、ディーリアスは私にこうもらした:「わたしは青春の動揺、その喜びとエネルギーと大奮闘を描いたつもりだ——そのすべでも、さいごには避けがたい死によって終わってしまうのだ」。

北国のスケッチでは、ディーリアスは2管編成の木管を使い、終始弦楽を分割しているのに(しばしば12部にまで分割している)、**生命の踊り**では3管編制を用い、弦楽もほとんど分割していない。

北国のスケッチ:フルート2(ピッコロ)、オーボエ2、コーラングレー1、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、打楽器2、ハープ2、弦楽五部(第1と第2はVnのみ、それぞれ16の指定あり)。

出版:Augener

生命の踊り:フルート3(ピッコロ)、コーラングレー1、クラリネット3、バス・クラリネット1、バスーン3、ダブルバスーン1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、ハープ1、弦楽五部〔他に打楽器とグロッケンシュピールがはいる〕。

出版:O.U.P

ダンス・ラプソディー第1番 Dance Rhapsody No.1

バス・オーボエとイングリッシュ・ホルンの対話ではじまり、次いでクラリネットが会話に入る。フレンチ・ホルンが入った直後に会話はとつぜん中止となる。ダンスのふしが、コントラバスのピッツィカートの鼓動によってオーボエから出る。フルートが応答する。これまでに現われた素材は一連の変奏の形をとって変貌してゆく。曲のもつイギリス的なムードは、異国的なリズムによって、フロリダのスペイン植民時代の雰囲気をおよぼします。やがて南国的な熱気がさめると、変奏がフルートとクラリネットのオクターヴによるダンスのふしと共に戻ってくる。曲の感情的な高まりは、独奏ヴァイオリンと弱音器を付けた弦楽のハーモニクスによる緩い変奏において最高潮に達する。バス・オーボエがその魔術を発揮して、曲の動きをとめようとする。弦楽がユニゾンでダンスのふしをとり上げ、半音階の迷路をくぐり抜けて、凱歌を奏するような終結へ運んでゆく。

作曲年代 1908年(46歳)、グレ。

初演 1909年9月、ヘリフォードで催された三都合唱音楽祭において、ディーリアス自身の指揮によって初演された。

楽器編成 フルード3(ピッコロ持替え)、オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、バス・オーボエ1、クラリネット3、バス・クラリネット1、バスーン3、サリュソフォン(あるいはコントラバスーン)1、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、打楽器(2)、ハープ2と弦楽五部。

出版:Boosey & Hawkes

ダンス・ラプソディー第2番 Dance Rhapsody No.2

ディーリアスがバリ近郊のグレ=シュール=ロワンに隠栖したのは40の声をきいてからであった。《ダンス・ラプソディー第2番》も1916年(54歳)にグレで書かれた。マズルカのリズムによる8小節の主題は、さいしょフルートに出てから、展開するが、完全なフレーズとして展開されるわけではない。ディーリアスは、

それを構成する分節を別々に処理し、より速い歩度の和音による、きびきびしたリズムミクなフレーズによって、とき折りこの展開を妨げるのである。主要主題全部が原調で反復され、中間部へはいる。中間部は4小節のふしに基づき、さいしょオーボエによって歌われる。旋律はチェルスタとハーブの下降するさざめきに伴奏されて、反復進行しながら、ますます高潮してゆく。テンポがゆるむと、きびきびした和音的フレーズが押し入り、マズルカの短かい再現部がつづく。力強いクライマックスののち、不思議な静けさへ弱まってゆく。ディーリアスの作曲技巧のたしさを示す作品である。

マルシュ・カプリス Marche-Caprice

1887-88年、ライブツィヒ滞在中に作曲されたディーリアスの若書きで、《そり乗り》と共に「管弦楽のための2つの小品」を構成する。当時グリーグに目をかけられていた若き日のディーリアスの作風は素直にグリーグの影響を示している。題名通り、こじんまりとした「奇想小行進曲」となっている。

高い丘の歌 The Song Of The High Hills

題名のthe high hillsの、the hillsは「高地・高原地方」の意味で、highが付いているので、ふつうの高原地帯より幾分高いことを示している。しかし、「高原地方の歌」では余りにも散文的なので「高い丘の歌」とした。この曲の場合、自然はノルウェーである。ディーリアスはノルウェーの自然を愛し、生涯の間に17回ノルウェーを訪れている。幾年かの間、ノルウェーの高原地方に山荘を持っていたこともあった。視力を失ってからでも、特別な車椅子に乗せられて、北欧の壮麗な日没を感じられるよう、いつも行っていたノルウェーの丘に車椅子を止めてもらったという。ディーリアスは、この曲のはしがきとして、次のような言葉を書き付けた:「私は高い丘陵地帯にいるときの喜びと陶酔感とを表わそうとつとめ、高地と広々し

た空間を前にしたときの孤独のメランコリーを描こうとしたのだ。ヴォーカル・パートは自然における人間を象徴したのである」。

オーケストラと四部合唱のために書かれているが、合唱は無歌詞であり、本質的には管弦楽曲である。合唱パートは色彩的な背景の役割を帯びている。曲はABAの形式で、イマジネーションにあふれた一連のエピソードが起伏するようにつづいてゆく。人声はオーケストラに追加された音色を添え、冒頭無伴奏のしずまり返った入りから、やがて短かくも高まり燃えたのち、「人はいずこからきたりて、いずこへ去るかを知らず」のように消えてゆく。曲はうめくような黙想的な音符ではじまり、まもなく魅力に富む旋律がさいしょ木管によってうたわれたのち、弦楽にひきつがれる。主要主題はゆるやかな4/4拍子のヴァイオリンの高音によって発せられる——民謡風の旋律。この旋律は合唱のソロイストによってうたわれたのち、ア・カペッラのフル・コーラスによってとりあげられる。曲の3度目の、もっとも大きなクライマックスはほとんどデモニックな熱情に燃えきっているかのようだ……このクライマックスから終結まで、曲は引き潮のように徐々にそのダイナミクスを弱めてゆく。そして、さいごに、いず方ともなく消え去るのである。

作曲年代 1911-12年、グレで書かれた。1910年(48歳)、ディーリアスはからだの不調を感じ、1911年には治療のためヴィースバーデンを訪れている。

初演 1920年2月26日、ロンドンのフィルハーモニック・コンサートにおいて、アルバート・コーツの指揮によって初演された。

楽器編成 フルート3(ピッコロ持替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、バス・クラリネット1、バスーン3、サリュソフォーン(あるいはコントラバスーン)1、ホルン6、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ(3)、打楽器1、ハープ2、四部合唱と弦楽五部(ディーリアスは16、16、12、12、10と指定している)。

出版:Universal Edition

弦楽四重奏曲
String Quartet

ディーリアスは世紀の変わり目に弦楽四重奏曲を2曲書いたといわれるが(1888年と1893年)、1893年の第1番とナンバリングも付けられたという曲は、記録には残っているものの、手書き草稿も散逸してしまつたらしい。それゆえディーリアスの弦楽四重奏曲は、1916年に書かれた1曲のみが現存しているわけである。

初演は1919年ロンドン弦楽四重奏団によってロンドンで行なわれたという記録がある。1929年10～11月、サー・トマス・ビーチャムによってロンドンで催されたディーリアス・フェスティヴァルにおいても、ヴァーチュオーゾ弦楽四重奏団によって演奏されている。いらい、イギリスのクワルテットのレパートリーには、必ずといってよいほど入っている曲目で、隠れたファンを持つ作品である。

ディーリアスは4楽章形式を踏み、各楽章の発想標語は英語で記されている。

第1楽章：いきいきと(With animation)
静かな冒頭から曲は抒情的なカーヴを描きながら詩のように流れて第2主題を導き出すが、これもまた同じムードにひたっている。曲の持続性は、主として第1ヴァイオリンに現われる主題の旋律の断片によって維持され、時おり対比旋律がさし挟まれる。音楽的な内容は、短音階和音の緊張感を変化させることによって微妙に変わってゆく。円熟期のディーリアスとしては珍しいほど、ソナタ形式を容認した形で書かれている。

第2楽章：速く軽快に(Quick and lightly)
前楽章の唐突なコーダの持つムードは、より軽快で陽気な第2楽章において再確認される。しかし、この軽快さも束の間で、歌の世界にリラックスする。ほのかなスケルツォ楽章である。

第3楽章：おそいつばめ(ゆっくりと、あこがれをもって) (“Late Swallows”——Slow and wistfully)
ディーリアスの交響詩《河の上の夏の夜》にも比すべき美しい室内楽の音詩である。グレのディーリアス邸の音楽室の庇には無数のつばめが巣くって、出たり入ったりして飛びかっていた。第一次世界大戦中、独軍の侵入を恐れて一時この村から

疎開していたディーリアスは、グレの軒のつばめも今は飛び去ってゆく頃だろうと思いを馳せながら、この曲をスケッチしたと伝えられる*。今年の夏も終った。金色に輝く秋の陽光の中に飛びかう“おそいつばめ”——彼らも間もなく去ってゆく。淡い旋律が燦めくような和音の上と下をぐり抜けるように飛びかっている。いわば、音楽のポアンティリスム(点描主義)によって描かれた一幅の名画である。この楽章の中間部に現われる旋律は、若き日のディーリアスがフロリダのプランテーションでなじんだ黒人の旋律にかかわりのあるもので、初期の管弦楽曲(フロリダ)組曲(1887)に現われ、次いで黒人世界を扱ったオペラ《コアンガ》(1897)で黒人の首領の主題となった。それが、はしくも30年後に書かれた〈おそいつばめ〉として知られる楽章に三度姿を現わすとは！しばしば、その作品に別離多い人生をうたってきたディーリアスは、おそらく〈おそいつばめ〉の別離をうたおうとした時、無意識のうちに、若き日の忘れたい旋律を喚びましたのであろう。

第4楽章：非常に速く活気をもって
(Very quick and vigorously)
チェロの快活なペンタトニックの旋律が第1ヴァイオリンに受け継がれ、曲は田園舞曲風のタッチを強めてゆく。

*イェルカ夫人はフェンビーに「私たちがグレの家から離れていた時、フレッドが一番心にかけて淋しかったのは、つばめのことでした」と語った。『私の知っているディーリアス』(Deliuss as I knew him)の名著のあるフェンビーは、のちにこの楽章を弦楽オーケストラ用に編曲し、《去りゆくつばめ》(Late Swallows)の題名で出版した。

ヴァイオリン・ソナタ
Violin Sonatas

ディーリアスが初めてヴァイオリン・ソナタを書いたのは1892年(30歳、パリ)のことで、この年に完成された《ヴァイオリン・ソナタ 長調》はついに出版されず、日の目を見ずに埋れてしまった。1905年にさいしょの2つの楽章が書かれたまま捨て置かれ1914年に終曲を書き足して完成した《ヴァイオリン・ソナタ》を第1番とし、次いで1924年と1930年に第2番、第3番が書き上げられたので、ディーリアスの現存するヴァイオリン・ソナタはこの3曲がそのす

べてである。
出版:Boosey & Hawkes

●エリック・フェンビーによるノート2

ヴァイオリン・ソナタ第1番
Violin Sonata No.1

ディーリアスのマクシム(金言)は「決して説明してはいかん。説明すると(楽曲が)弱くなる」であったが、**ヴァイオリン・ソナタ第1番**の第1楽章は異例な構想で書かれているので、できるだけ術語を避けて、ガイド役をつとめるとしよう。ディーリアスには、一つの主題を提示すると、すぐ展開する傾向があるので、主題の提示とその展開が合体してしまう。その旋律線の流れは押韻詩というよりはむしろ散文詩に近いので、ディーリアスの陶酔感が突発的に現われるリズム感覚が耳にはいらないこともあろう。第1楽章の構成は次のように考えられよう。

主題1——散文詩のような旋律によるヴァイオリン+短かい拡大
主題2——ヴァイオリンの不意の感嘆詞のはいるピアノ+次の主題と連結する短かいパッセージ
主題3——ヴァイオリン(散文詩的な旋律のクープレ)+次へ導いてゆく拡大
主題4——ピアノに対比主題をもつヴァイオリン(これは次にくる強力な介在のためはぎとられてしまう)
主題3——ヴァイオリンの再提示+拡大(ピアノで続けられる)
主題4——対比旋律をもつピアノ、次いでヴァイオリンへひきつがれる+速い舞踏エピソードへ導く拡大(ヴァイオリンの速いパッセージはまもなく次を先きどりしてしまふ)
再現部の主題1——楽章のはじまりと同じピッチで、二長調に坐る
主題2——ヴァイオリン+主題1に基づくヴァイオリンの対比旋律とかかわりをもつパッセージの新しい拡大へ合流する拡大(主題4はとり上げられないことに注目されたい)
主題3——さいしょと異なったピッチによるヴァイ

オリンの再提示+緩徐楽章の到来を心理的に準備させる拡大

第2楽章では、ピアノの物問いたげな下向する6つの平行和音が徐々に2つの楽器の対話へ導いてゆく。さいしょはピアノが優勢だが、しずかな和音が陶酔境へたかまってゆくにしたがってヴァイオリンが優位に立つ。ヴァイオリンの歌うような夢想が全楽章に流れている。1905年に、ここまででディーリアスは作曲のペンを進ませず、1914年になってフィナーレを書き加わえた。

第3楽章は、さまざまなムードを行進曲風に扱ったドラマである。口短調という調ではじまる強弱格のリズムの気まぐれな遊びによって象徴される人生のとり返しのつかないムードである。次にくる神秘的な音楽は沈痛なムードをもち、その年ヨーロッパをひき裂いた悲劇の反映とみなす聴き手もある。この暗いが心をかき立てるようなエピソードは圧倒するような強さで情感的なクライマックスへ盛り上がってから静まってゆく。再び行進曲がよび返され、その人生のリズムは口長調という調で凱歌をあげて全曲をしめくる。

初演：1915年、マンチェスタにおいて、アーサー・カテラル (Vn) と R.J. フォーブス (p)。

ヴァイオリン・ソナタ第2番 Violin Sonata No.2

9年の歳月が流れ去った。ディーリアスは重症の病人となり、ペンをとって作曲することができなくなった。だが、非凡な女性であった妻のイェルカが夫の作曲を助け、夫の口述による7曲のピアノ小品を楽譜に仕上げることができた。不幸中の幸いにも、ディーリアスはまだ夫人の書いたものを訂正する視力に恵まれていた。「心配にふるえながら、何とか**第2ヴァイオリン・ソナタ**を書きとめることができました」と夫人は語っていた。彼女なりに楽譜は読めたけれども、ディーリアスが口述するピアノ・パートは彼女の力量を超えることが多かった。

このソナタは休みなくつづく28小節のヴァイオリンの詩ではじまる。この精妙な散文詩的な旋律は飛んでいる小鳥のようにカーヴしながら上昇し、ますます高く輪を描くようにして空高く昇ってゆく。だが、こ

の28小節のなかで、旋律的な断片とその拡大とが共に融合して一体となり、一つの流れるような音楽の線としてきこえるのである。ディーリアスはどんなにかヴァイオリンという楽器を愛したに相違ない。その緩徐楽章を聴いてごらんさい。たしかに、この音楽はヴァージニア・ウルフが言葉で求めているものを音でとらえているのである。「芸術はすべてのお説教から脱しようとしている：それ自体で充足している物：それ自体で美しい文章：あふれるような海：ツバメが飛ぶ前に咲きだす黄水仙」。

《第2ヴァイオリン・ソナタ》は1924年、ロンドンのウィグモア・ホールにおいてアルバート・サモンズ (Vn) とイヴリン・ハワード＝ジョーンズ (p) によって初演された。

ヴァイオリン・ソナタ第3番 Violin Sonata No.3

1925年の半ばになると、ディーリアスはまったく失明し、四肢もほとんど麻痺してしまった。けれども、1928年には、再び作曲する意欲がわき起こり最後の努力をかり立てたのであった。**ヴァイオリン・ソナタ第3番**もその一つで、彼は1930年の春に筆者に口述した。この作品が《第2ヴァイオリン・ソナタ》よりも前に想案されたことは残されていたわずかなスケッチから明らかであった：自筆で書かれたそれぞれ3つの楽章の冒頭の下書きがようやく判読されたのである。ふつう和声にとりつかれている作曲家とみなされているディーリアスが、伴奏部の和音による緊迫感を考えるよりも先にヴァイオリンの旋律線をつくり上げてゆくを知るのは、また一つの啓示であった。それはじつに驚嘆にあたいするほどみごとに処理されたのである。しかも、このときは、ピアノの助けをかりて作曲する以前の習慣を捨て、彼の手と眼に代わって筆記する筆者をたよりに作曲しなければならなかったのだから。

このソナタは2～3週間で完成し、その年もおそくなってから、ロンドンのウィグモア・ホールで、この曲が献呈されたメイ・ハリスン (Vn) と作曲家のサー・アーノルド・バックスのピアノによって初演された。

フェンビーとディーリアス

エリック・フェンビーは、1906年4月22日、ヨークシャーの北海に臨む海港スカルプローに生まれた。1928年、同郷出身の作曲家ディーリアスが失明した上、全身麻痺のため作曲ができなくて困っていることを知ったフェンビーは自らヴォランティアーとしてディーリアスの助手になることを志願した。こうして、22歳の音楽青年フェンビーはパリ近郊グレ＝シュール＝ロワンにあるディーリアス邸に住み込み、老作曲家の“手となり、眼となって”口述作曲という至難な仕事を助けた。フェンビーの献身的な協力のおかげで、《第3ヴァイオリン・ソナタ》のほか、《告別の歌》、《夏の歌》あるいは《田園詩曲》などの、ディーリアスさいごの名作が生まれたのである。1933年にフェンビーはいったん帰郷するが、翌年イェルカ夫人がガンのため入院することになり、フェンビーは夫人の懇請をうけて再びディーリアス邸の人となった。1934年6月10日、ディーリアスが72年の生涯をとじたとき、老作曲家の死水をとったのもフェンビーであった。

フェンビーがグレで生活を共にしたディーリアスの思い出を書いた『私の知っているディーリアス』(Delius as I knew him) は1936年に出版されたが、名著として今なお読まれている。

フェンビーはオルガニスト兼作曲家であり、1964年からロンドンの王立音楽院 (RAM) の作曲科教授をつとめてきたが、ディーリアスの使徒として、その作品を世にひろめるため献身的な熱情をささげてきた。1962年、ディーリアスの生誕地ブラッドフォードで催されたディーリアス生誕100年記念のディーリアス音楽祭では芸術監督の大任を果たした。

Sea Drift

海流

ウォルト・ホイットマン 詩
三浦 淳史 訳・監修
南條 竹則 訳

Sea Drift

Chorus:
Once Paumanok,
When the lilac scent was in the air and
fifth-month grass was growing,
Up the seashore in some briers,
Two feather'd guests from Alabama, two
together,
And their nest, and four light-green eggs spotted
with brown,

Baritone:
And every day the he-bird to and fro near at
hand,
And every day the she-bird crouch'd on her
nest, silent, with bright eyes,
And every day, I, a curious boy, never too close,
never disturbing them,
Cautiously peering, absorbing, translating,

Chorus:
Shine! shine! shine!
Pour down your warmth, great sun!
While we bask, we two together,
Two together,
Winds blow south, or winds blow north,
Day come white, or night come black.

Baritone:
Home, or rivers and mountains from home,

Chorus:
Singing all time, minding no time,

海流

合唱:
いつのこともか、ポーマノクで
ライラックの香りがあたりにただよい、
五月の緑生い茂る頃、
浜辺の野イバラの木のなかに、
羽根を生やした二人の客人が、二人一緒に、アラバマ
からやってきた、
そしてその巣には、茶色いぶちの入った四つの
浅緑の卵。

バリトン独唱:
そして毎日、雄鳥は巣の真近をあちこち
飛びまわり、
そして毎日、雌鳥はものも言わず、目をきらきらと輝かせ、
巣にうずくまっていた。
そして毎日、知りがりの少年だった私は、
けして近寄りすぎず、けして邪魔することなく、
注意深く目をこらし、感じとって、人の言葉に変えた。

合唱:
輝け! 輝け! 輝け!
ぬくもりをふりそそげ、偉大な太陽よ!
ぼくたちがふたり、ふたり、
ふたりで日を浴びるうちは!
風が南に、北に吹こうと
明るい昼が、暗い夜がこようと、

バリトン独唱:
わが家だろうと、わが家からはるか遠くにしようと、

合唱:
いつもいつも歌いつづけ、時を忘れて、

While we two keep together.

Baritone:
Till of a sudden,
Maybe kill'd, unknown to her mate,
One forenoon the she-bird crouch'd not on the
nest,
Nor return'd that afternoon, nor the next,
Nor ever appear'd again.
And thence forward all summer in the sound of
the sea,
And at night under the full of the moon in calmer
weather,
Over the hoarse surging of the sea,
Or flitting from brier to brier by day,
I saw, I heard at intervals the remaining one, the
he-bird,
The solitary guest from Alabama.

Chorus:
Blow! blow! blow!
Blow up sea-winds along Paumanok's shore;
I wait and I wait till you blow my mate to me.

Baritone:
Yes, when the stars glisten'd,
All night long on the prong of a moss-scallop'd
stake,
Down almost amid the slapping waves,
Sat the lone singer, wonderful, causing tears.
He call'd on his mate,
He pour'd forth the meanings which I of all men
know.
Yes, my brother, I know,
The rest might not, but I have treasur'd every
note,
For more than once dimly down to the beach
gliding,
Silent, avoiding the moonbeams, blending
myself with the shadows,
Recalling now the obscure shapes, the echoes,
the sounds and sights after their sorts,
The white arms out in the breakers tirelessly
tossing,
I, with bare feet, a child, the wind wafting my hair,

ぼくらふたりが一緒にいるうちは!

バリトン独唱:
ところが突然、
夫の知らぬまに、死んでしまったのか、
ある日の朝、雌鳥は巣にいなかった、

昼すぎても帰ってこず、次の日も戻らず、
ついに二度と姿を見せなかった。
それからというものは、夏じゅう潮騒の中、

あるいは空穏やかな夜の満月のもと、

ざあざあよせる波の上に、
あるいは昼、野イバラの木から木へ飛びわたる時に、
しばしば君の姿を見、声を耳にした。
残された雄鳥。アラバマからやってきた、
ひとりぼっちの客人よ。

合唱:
吹け! 吹け! 吹け!
吹きおこせ! 海の風よ。ポーマノクの浜を。
ぼくは待つ。いつまでも待つ。
君が彼女をぼくのもとに吹きよせてくれるまで。

バリトン独唱:
そう、星がきらめきだせば、
うちつける波のただ中、
藻のからんだ杭のまたに、夜どおしすわり、
ひとりぼっちの歌い手は、
すばらしく涙をさそう歌を歌った。
彼は妻に呼びかけるのだった。
数多い人のうちでも私にしかわからない言葉を、
彼は投げかけるのだった。
そうだとも、兄弟よ、私にはわかる。
他の者はいざしらず、私は君の歌声をすべて
心にしまいこんだのだから。
一度ならず、夜の浜辺へしのびおきてゆき、

声をひそめ、月光をさけ、わが身を影にまじえて、

ぼんやりした形、こだま、
音と光景とのひとつひとつを、
たえまなく沖にあがる白い波頭を思いだしながら、

子供の私は、裸足で、髪をなびかせ、

Listen'd long and long,
Listen'd to keep, to sing, now translating the
notes,
Following you my brother.

Chorus:
Soothe! soothe! soothe!
Close on its wave soothes the wave behind,
And again another behind embracing and
lapping, every one close,
But my love soothes not me, not me.
Low hangs the moon, it rose late,
It is lagging — O I think it is heavy with love,
with love.

Baritone:
O madly the sea pushes upon the land,
With love, with love,
O night! do I not see my love fluttering out
among the breakers?
What is that little black thing I see there in the
white?
Loud! loud! loud!
Loud I call to you, my love!
High and clear I shoot my voice over the waves,
Surely you must know who is here, is here,
You must know who I am, my love.

Chorus:
O rising stars!
Perhaps the one I want so much will rise, will
rise with some of you.
O throat! O trembling throat!
Sound clearer through the atmosphere!
Pierce the woods, the earth,
Somewhere listening to catch you must be the
one I want.

Baritone:
Shake out carols!
Solitary here, the night's carols!
Carols of lonesome love! death's carols!
Carols under that lagging, yellow, waning moon!
O under that moon where she droops almost
down into the sea!
O reckless despairing carols.

いつまでもいつまでも耳かたむけていた。
心に秘め、歌うために耳かたむけていた。
兄弟よ、君の歌声のあとをおって人の言葉に
訊しながら。

合唱:
なぐさめて! なぐさめて! なぐさめておくれ!
来る波を、すぐあとから次の波がなぐさめ、
そしてまたそれを次が、つつみこみ、
抱きしめる。
だがぼくのいとしいひとは、ぼくをなぐさめてはくれない。
月が低くかかっている。おそくのぼった月。
のろのろしたあの様子。
ああ、月は愛のために、愛のために重いのだ。

バリトン独唱:
ああ海は狂おしく大地をおしつける。
愛のために。愛のために。
おお闇よ! ぼくのいとしいひとが波間をはばたくのが
見えはしないか?
あそこの白いところに見える小さな黒い影はなんだ!

声高く! 声高く! 声高く!
声高くぼくは呼ぶ、いとしいひとよ!
高く、はっきりと、ぼくは波のむこうに声を投げかける。
きっとわかるにちがいない。ここにだれがいるのか。
いとしい君よ。君はわかるにちがいない。ぼくがだれなのか。

合唱:
おお、空にのぼりゆく星たちよ!
ぼくがこんなに求める人も、たぶん君たちのだれかと共
にのぼるのだろう。
おお、咽喉^{のど}よ! おお震える咽喉^{のど}よ!
もっとはっきり、大気をつらぬいて声を響かせよ!
森をつぎぬけ、大地をつきとおせ。
どこかでぼくを求める人が、聞きつけようと耳をすまして
いるにちがいないのだ。

バリトン独唱:
声ふるわせて歌うのだ!
さびしくここで、夜の歌を!
孤独な愛の歌を! 死の歌を!
あののろのろした、黄色い、かけゆく月のもとで歌を!
ああ、あの月のもと、いまにも海におちかかりそうなあの
月のもとで!
おお、やけっぱちな絶望の歌。

But soft! sink low!
Soft! let me just murmur,
And do you wait a moment you husky voic'd sea.
For somewhere I believe I heard my mate
responding to me,
So faint,
I must be still, be still to listen,
But not altogether still, for then she might not
come immediately to me,
Hither my love!
Here I am! here!
With this just sustain'd note I announce myself
to you.
This gentle call is for you my love, for you.

Chorus:
Do not be decoy'd elsewhere,
That is the whistle of the wind, it is not my voice,
That is the fluttering, the fluttering of the spray,
Those are the dark shadows of leaves.
O darkness! O in vain!

Baritone:
O I am very sick and sorrowful.
O brown halo in the sky near the moon,
drooping upon the sea
O troubled reflection in the sea!
O throat! O throbbing heart!
And I singing uselessly, uselessly all the night.
O past! O happy life! O songs of joy!
In the air, in the woods, over fields,
Loved! loved! loved! loved! loved!
But my mate no more, no more with me!
We two together no more!

だがやさしく! 低く沈んで!
やさしくだ! つぶやくように歌わせてくれ。
だからしばらく待ってはくれないか。しゃがれ声の海よ。
なぜって、彼女がどこかで答えるのが、
たしかに聞こえたのだ。
消え入りそうにかすかな声。
だから静かに、静かに聞かねばならない。
だがまるで黙ってはいられない。それでは彼女がすぐに
これられないもの。
ここへおいで。いとしいひとよ!
ぼくはここだ! ここだ!
この長くおし殺した歌声で、ぼくは君にいどころをつげる。
このやさしい呼び声は、君のため。いとしいひとよ。
君のためなのだ。

合唱:
よそへさそわれていってはいけないよ。
あれは風の音、ぼくの声ではない。
あれは波のしぶき、波しぶきがはためいているだけ。
あそこにあるのは木の葉の暗い影だ。
おお闇よ! このむなしさよ!

バリトン独唱:
ああ、ぼくは沈みこみ、悲しみにくれる。
ああ、空には月近く、茶色のかさが、
海にはそのくずれた反映^{かげ}がうつっている!
おお、咽喉^{のど}よ! 波うつ胸よ!
ぼくはかいなく歌をうたう。夜どおしかいもなく。
おお過ぎた日よ! 幸せな生活よ! 喜びの歌よ!
大空で、森の中で、野の上で、
愛し! 愛し! 愛し! 愛し! 愛した!
だが彼女はもういない! もうぼくのもとにはいない。
もうぼくらは離ればなれだ。

三浦淳史 (みうら・あつし) 略歴

仙波知司

5人兄弟の長男として1913年（「プリテンとおないどしで…」と嬉しそうに微笑んでおられた）秋田に生まれる。札幌第二中学で生涯の友となる伊福部昭と知り合い、共に北大予科に進み、'34年には伊福部たちと「新音楽連盟」を結成。サティなど同時代の音楽を紹介するいっぽう、音楽雑誌への寄稿を始める。そののち東北帝国大学に移り、'40年卒業。

大学卒業後は中国・張家口での日本語教師の職を得、新妻を伴って同地に赴任。終戦で帰国。いっとき松戸に在住したのち、新制・都立荻窪高校の英語教師としての勤務が決まり、仮寓を経て中野に転居（その後横浜に）。教師としてはクラス担任も受け持ち、授業では教科書から離れ英詩を朗読して聞かせるなどして、生徒たちから慕われていたという。

教職のかたわら、洋書を菟め、英米の新聞や雑誌に丹念に目を通し、音楽関係のエピソードをスクラップすることを楽しみにしていたが、折から音楽誌の復刊が相次ぎ、氏が欧米の事情に精通していることから英語圏の音楽についての執筆依頼が多く寄せられることとなり、初の著書は『現代アメリカ音楽』（新興音楽出版社、1948）だった。

やがて産業の復興につれレコード会社からの執筆依頼も増えていくが、こちらも多くが英米の作品や演奏家のもの、そして氏ならではの知識に頼った、知名度の低い作曲家の作品だった。その結果としてディーリアスなど、埋もれていた作曲家の音楽を日本に知らしめることとなる。インターネットのない時代、その膨大な資料に加え、海外音楽家との交流をもとに書かれる原稿は、多くの音楽ファンに新しい地平を拓いてくれた。

氏ほど、音楽「評論家」という肩書きが似合わない著者はいないのではないか。いっぞや音楽誌の「あなたが執筆のうで大切にしている姿勢は？」といった寄稿家たちへのアンケートに、「読者の《試聴欲》をそそるように書きたい」と書かれていた。じっさい文章のどれをとっても、いわば「評論」めいたことをしていない。作曲家や演奏家の人柄溢れるエピソードを紹介し、そのひととをりを描くことによって、その果実を味わいにくるよう仕向けてくれる。

氏が英米音楽のエキスパートであったことは論を俟たない。かといって最も愛していた音楽とはいえば、ディーリアス（D.自身イギリス的なものを嫌っていたし）を別格として、じつはファリャ、ラヴェルなど、スペインやフランスの近代音楽だった。「ひとには二つの祖国があるんですね、軀のと魂のと」。氏の心の祖国はスペインだった。生と死が隣り合う「闘牛見物」に心躍らせる。寒い北国、そして満州の地にその青春をすごした氏には、光と影が鮮やかな対照をなす彼の地こそ、魂が還る場所だったに違いない。

猫と煙草を愛し、音楽を愛し、弱いもの・はかなしいものを慈しんでおられた氏は、'97年、静かに日没を迎える。その生きかたそのものが、読み手までもやさしい気分させてくれる一篇の静かな詩のようだった。

執筆にあたっては、ご子息・三浦頤剛氏からご教示をいただきました。

LPの手帖

第2回:カートリッジのダンパーと、重量盤の話

第2回「LP座談会」では、「重量盤」を取り上げる。マニアの間で根強い人気を誇る重量盤だが、どういった経緯で登場し、どのような特徴を有しているのか——今回はベテラン・リスナーにお集まりいただき、貴重な話をうかがった。また、前回の補足として、カートリッジの「ダンパー」についても触れたいと思う。

●お話 ※五十音順・敬称略
音楽評論家 板倉重雄
ベーレンブラッテ 金子 学
音楽評論家 佐藤康則

●司会
キングインターナショナル 大川 健

ダンパーは交換が必要

司会 前回の座談会で「カートリッジの針は摩耗しない」という話をしたら、たくさんの反響をいただきました。そこで、若干補足しておいたほうがいいと思ったのが、カートリッジの「ダンパー」についてです。針は減らないからといって、カートリッジのメンテナンスは全く不要かというと、必ずしもそうではなく、カートリッジの「ダンパー」は交換しなければならないケースがあるということなのです。

佐藤 今、大川さんがおっしゃった通り、針先のクリーニングさえしていれば、普通にレコードを聴いていて針が摩耗することはありません。ただ、カートリッジのダンパーはゴム製なので、必ずいつかは硬化してしまいます。

レコード針は、ダイヤモンド製の針先と、その振動を伝えるカンチレバー、そしてダンパーから構成されています。ダンパーは、カンチレバーを支えていて、カンチレバーの過度な動きを制限すると同時に、その動きを柔らかく保護する役目を担っています。文字通り「ダンピング」しているのです。

では、なぜ、ダンパーの硬化が、これまであまり聞

題にならなかったかというと、昔はカートリッジの針交換を定期的に行なうのが、当たり前と思われていた。MCカートリッジの針交換は、そのほとんどが本体交換ですから、針交換すれば自動的にダンパーも新品に交換されていたのです。

ところが、最近、中古のカートリッジを買う人が増えてきた。長い間、使われていなかったカートリッジは、ダンパーが硬化してダンピング効果がなくなっている場合も多く、そのようなカートリッジでレコードをかけると、音が歪んでしまったり、針飛びしたりします。

そうなった時、一般のリスナーはダンパーの劣化ではなく、針の問題と考えてしまい、結局、針交換に出してしまうのです。もちろん、針を交換すれば、先ほど説明した通り、ダンパーも交換されますから、音は普通の状態に戻るというわけです。

金子 カートリッジのダンパーは、ある日突然、具合が悪くなるわけではなく、少しずつ劣化していくので、なかなか気づかないでしょうね。私も針を交換した際、一気に音が変わったことがあって、ダンパーもだいぶ劣化していたのかな、と思いました。

司会 ダンパーは一度硬くなると、もうダメですか？
佐藤 1年くらい使っていない程度なら、何度か聴いているうちに、柔らかくなると思います。昔は、レコードを聴く前に、カートリッジを炬燵で温めたりしていましたが、あれはダンパーを柔らかくするためだったのです。

板倉 ああ、やっていましたね(笑)。冬場は、乾燥して静電気も発生しやすくなるし、ダンパーも硬くなるので、レコード鑑賞には厳しい季節ですね。

佐藤 カートリッジは20度くらいの室温を想定して、設計されているそうです。なので、室温が10度以下

でレコードをかけると、ダンパーが硬いままで、トレース能力が下がってしまう可能性があります。

ダンパーのメンテナンス

司会 ヴィンテージ・カートリッジを使う時は、ダンパー交換が必要ということですが、ダンパー交換はメーカーや輸入代理店で対応してくれないでしょうか？
佐藤 メーカーは、そもそもMCカートリッジのダンパー交換なんて、想定していないですから、ダンパーのみの交換は、個人のエンジニアがサービスでやっているのが現状です。

もう一つ重要なことを付け加えておきますと、ダンパー交換が必要なのは、あくまでも古いカートリッジであって、新品のカートリッジで定期的にレコードをかけているぶんには、基本的にダンパーは劣化しません。これは知人から聞いた話ですが、オルトフォンの古いSPUは、定期的に針交換(本体交換)することを前提としており、ダンパーの寿命が10年に満たない。劣化自体はなだらかに進行するのですが、オルトフォンはダンパーの素材に天然ゴムを用いていて、ダンパーのダンピングも含めた音作りをしていたそうです。ただ、オルトフォンが天然ゴムを使っていたというのは、(音質的に天然ゴムが優れていたということではなく)昔は天然ゴムが一番簡単に手に入る素材だったので、それを使って音作りをしていたということだと思います。
司会 だとすると、ヴィンテージSPUのメンテナンスをメーカーに頼むと、ダンパーも針と一緒に交換されてしまって、最新のSPUと変わらなくなってしましますね。
佐藤 そうです。だから、古いSPUを使うのなら、メンテナンスしてくれる人を先に見つけておいたほうがいいですよ。ぼくのSPUもダンパーだけを交換してもらって、針は昔のままです。

重量盤とは

司会 では、今回の本題の「重量盤」の話に移りたいと思います。ひと口に「重量盤」と言いますが、

だいたい何グラムくらいのレコードと考えればいいでしょうか？

板倉 重量盤と言えば、「180グラム」という数字をよく見ますから、リスナーの多くは180グラム以上のレコードを思い浮かべるのではないのでしょうか。
佐藤 普通のレコードは、例えば60年代だと、CBSコロムビアが130グラム、エンジェルが150グラムくらいでした。70年代、80年代の国内盤は、クラシックもポップスも、ほぼ130グラムでした。
司会 LP初期のレコードは厚くて、重かったの、おおむね重量盤と言えるでしょう。それが1973年のオイルショックで一気に薄くなった。
佐藤 RCAの最終期のレコードは、100グラムまで薄くなりました。ぼくは重さを量ったことがありますが、99グラムというレコードもありましたよ！
板倉 1974、75年あたりのアメリカ盤は、持っただけで反ってしまうくらいの薄さでしたね。ハイフェッツとかルービンシュタインの再発盤です。当時、日本では「高級薄型レコード」と銘打っていましたが(笑)。
司会 技術の粋を集めて、薄くした！ということなのでしょうね。

重量盤信仰の始まり

司会 重量盤が注目されるようになったのは、いつ頃からですか？
板倉 キングさんの「スーパーアナログディスク」あたりからではないですか。
司会 海外では、重量盤という売り文句のレコードはあまりなかったですよ？
佐藤 日本だけでしょう。
板倉 でも、最近の海外盤のなかには「180g」と謳っているレコードもありますから、向こうのマニアにも重量盤信仰があるのかもしれないよ。
金子 たしかに海外の中古レコードでも「180g／Heavy」と書いてあったりしますね。
司会 そもそもLPしかなかった時代は、重量盤が良いつか、薄い方が好きといった議論はなかったですよ？
板倉 それはなかったです。
佐藤 RCAのペラペラなやつはダメだという意見

はありましたが、重量盤が持て囃されるようになったのは、最近のことだと思います。

板倉 レコードが中古で出回るとなると、売り文句があったほうがいいから、どうしても形やスペックに目が向けられる。そういう意味で、重量盤信仰は初期盤信仰に端を発しているのではないのでしょうか。
金子 中古レコード市場では、基本的に古いモノほど価値があると考えられています。レコードは古くなれば、厚く、重くなりますから、結果的にそうしたモノが良いということになる。その一例として、50年代の終わりから60年前半に作られたグループガードのないフラット盤などは特に珍重されています。

重量盤は反らない

司会 重量盤の良い点は、「反らない」ということでしょうか？
佐藤 そうですね。重量盤は反りに強い。経験上、130～140グラムだと、保存の仕方によっては、反る可能性があります、150以上だと、まず反ることはありません。ぼくが持っているエンジェルの150グラムも反っていないですから。
金子 70年代のグラモフォンのレコードで、カラヤンのマーラーや、ジュリーニのブルックナーなど、立派な箱に入っているセット物のレコードがありました。そうした箱入りのレコードは、箱のなかがスカスカで、盤と箱の間に透き間が空いているのですが、そういうレコードは反りが出ていることが結構あります。特に、箱の下の方のレコードより、上の方のレコード、つまり重さがあまりかかっていないレコードは反っている確率が高いですね。
司会 そうですか。LPの保存の仕方は、注意しないといけないですね。

音質の特徴

司会 重量盤の音質について、通常盤との比較でも構いませんが、皆さんの印象はいかがですか？
板倉 重量盤は、音に安定感がありますよね。
金子 盤を厚くすると、よりフラットになるので、特に

溝のうねりが大きくなる低音は、重量盤のほうがカートリッジのトレース能力を引き出せると思います。
佐藤 重量盤は、音の重心が下がった感じがします。全体的な音のバランスが安定しているから、ボリュームをひと目盛り上げたくなる。
司会 重量盤の音は、総じて落ち着いた傾向なのでしょうね。私はどちらかと言うと、重量盤のほうが好みで、特に1960年代の終わりからオイルショックの前までのレコードが好きです。
板倉 それは、大川さんがオーケストラをメインで聴いているというのもあると思いますよ。
佐藤 大まかな傾向として、薄いレコードは、良く言えば「高域が華やか」で、悪く言うところ「うるさい」。つまり、薄いレコードは雑味が多いのですが、それが“味付け”になっている部分もあるのです。
レコードの重さ・厚さが増すと、そういう雑味は減っていきませんが、正直なところ、ぼくは重量盤を聴いて、良い音だなと思ったことはあまりありません。ヴェールを被ったような音というか、ダイレクトに伝わってこない感じがするのです。
金子 盤が重くなると、高音がやや少なくなって、響きが重いかと感じることはあります。その原因として一つ考えられるのは、レコードをプレスしたあと、盤が厚いと冷めるまでに多少時間がかかりますよね。その時間が高域の音に何か影響しているのかもしれない。薄いレコードと厚いレコードで何か違う点といったら、それくらいではないでしょうか。
佐藤 個人的には、重量盤は素材も少し違うのではないかと考えています。確証があるわけではありませんが。
板倉 逆に、盤が薄くて軽いと、それが音に出てしまうこともありますよね？ 盤面がわずかにうねっているせいか、盤質が柔らかすぎるせいか、グループガードが関係して(盤とターンテーブルの間に)すき間ができていて、理由はいくつかありそうですが。
佐藤 薄いレコードは、共振しているのでしょうか。
司会 どこが共振するのですか？
佐藤 カートリッジです。盤が薄くて軽いと、盤自体の振動を針が拾って、溝に刻まれている楽音以外の情報も発電してしまうのです。
板倉 ソノシートが典型ですよ。不要な振動が音に出る。おそらく、これ以上なら共振が出にくいとい

う薄さ・重さ・硬さがあると思うのですが。

司会 ただ、盤が薄いから音も良くないとは、一概には言えないでしょう？

佐藤 もちろんです。共振することもLPを作るノウハウのなかに入っていたはずですよ。だから、重くなり過ぎると、共振も減って、音としてはつまらなくなる気がします。

もっとも、僕は130～40グラムの音に慣れているから、新しいレコードは響きが硬めで、重心が下がり気味に聞こえるのであって、180グラムに馴染んだ若いリスナーには、130～40グラムの音は少しうるさいな、と感じるかもしれません。要は“慣れ”の問題かな、と。

司会 再生装置もメインのソースに合わせますからね。100グラム以下や200グラム以上といった極端なレコードを除けば、音質と厚さ・重さの間には、一義的な関係はないような気がします。

板倉 重さや厚さといった物理的な条件以外にも、カッティングの技術や盤の材質・組成など、総合的な要素が音質を左右するのでしょうか。

静電防止剤の是非

司会 盤の材質ということ言うと、東洋化成のレコードはヴァージン材を使っていて、混ぜ物はまったくナシだそうです。

板倉 そことも関連するのですが、ちょっと気になっていることがあります。最近のレコードは「静電防止剤を使っていない」ことを謳っていたりしますが、その影響もあって、静電気が結構すごくないですか？

佐藤 たしかに、すごいですね。

板倉 CDの時代になってから、レコードのノイズに対してシビアになった部分もあるでしょうけど……。

司会 ノイズと言っても、盤に傷がある場合と、静電気による場合の両方が考えられますね。

佐藤 ノイズの大半は、静電気が引き起こすホコリの吸着が原因です。本当に静電防止剤が音質に影響を与えるのか、個人的にはよくわかりません。しかし現状では、静電気によるデメリットのほうが、はるかに大きいと思います。

板倉 LP最盛期には、メーカーが静電防止剤を使

ったり、盤質も柔らかめにしたリして、ノイズ対策を施していました。一方、新しいレコードは、盤質も少し硬い気がしますし、静電防止剤も使っていないので、結果的にノイズが多くなっている。

司会 レコードは、ある程度「パチパチ」しますよね。

佐藤 だから、もう少し大らかに聴いてほしいですね。

板倉 ラッセル効果で、何回かかけているうちに、「パチパチ」は減ってきますよ。ただ、新しいレコードを聴くなら、静電気対策は必要だと思います。

司会 静電防止剤については、検討してみてもいいかもしれないですね。

往年の姿への回帰

司会 ここまで皆さんに、重量盤の話を中心にかかってきましたが、レコードの厚みや重さが少しずつ変化してきたのは、音質云々の問題というよりは、おもに(レコードという)工業製品を生産・供給するうえでの諸要因のほうが大きかった、と言えそうですね。

レコードをプレスする技術は、60年半ばに入った頃から格段に安定してきた。そこで、音質を含む全体のバランスを見ながら、盤を少しずつ薄くしていったのではないのでしょうか。クオリティを確保できる範囲で盤を薄くすれば、原価を下げるができますし、運搬時の労力も減らせます。それがオイルショックの余波で、薄くせざるを得なくなったのですが、もしオイルショックがなければ、レコードは150～60グラムくらいで作られ続けていたように思います。

金子 そもそも重量盤と称されるレコードは、オイルショックで盤が一気に薄くなった時に、その“反動”としてマーケットに現れたものですからね。

司会 おっしゃる通りです。現代のレコードは、マスプロダクトというよりは、工芸品に近いものだし、リスナーにとってもレコードを聴く醍醐味は、音質だけの問題ではないはずです。そういう背景もあって、“往年のレコードの姿”を取り戻そうという流れのなかで、重量盤も注目・人気を集めるようになったのではないのでしょうか。

今日は、皆さん、ありがとうございました。

LPの手帖

2018 カタログ LP Records

2018年8月1日発行

販売元・お問い合わせ先

株式会社キングインターナショナル

〒112-0005 東京都文京区水道2-9-2 音羽YFビル3F

Tel.03-3945-2333

題字・表紙デザイン: 美登英利(mitografico)

デザイン: 堀内 文(mitografico)

特集構成: 藤田 洋

編集校閲委員: 松浦一生(株式会社キングインターナショナル)

印刷: 東洋化成株式会社

Special thanks to 三浦譲剛

KING INTERNATIONAL INC.



ベルリン・フィルが作ったアバドの「メモリアル・アルバム」 アバド最後の客演コンサートがLP盤でリリース!

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 クラウディオ・アバド (指揮) ザ・ラスト・コンサート

フェリックス・メンデルスゾーン (1809-1847)
劇付随音楽《夏の夜の夢》(抜粋) 40' 11

LP1 A面 序曲
第1番 スケルツォ

LP1 B面 第3番 合唱付きの歌「舌先さけたまだら蛇」
第5番 間奏曲
第7番 夜想曲

LP2 A面 第9番 結婚行進曲
第13番 終曲「わすかな光」

デボラ・ヨーク(ソプラノ)
ステラ・ドゥフェクシス(メゾソプラノ)
コンスタニア・グルツイ(合唱指揮)
バイエルン放送合唱団女声団員

ダウンロード・コード このディスクには、上記全曲のハイレゾ音源(24bit/48Hz)をダウンロードするためのURLとそのパスワードが封入されています。
デジタル・コンサートホール ベルリン・フィルの映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」を7日間無料視聴できるチケット・コードが封入されています。

3LP ●KKC 1112 / 18,000円+税
2SACD Hybrid ●KKC 5861 / 4,500円+税 2CD+Blu-ray ●KKC 9149 / 7,500円+税

エクトル・ベルリオーズ (1803-1869)
幻想交響曲 作品 14 55' 46

LP2 B面 第1楽章: 夢と情熱

LP3 A面 第2楽章: 舞踏会
第3楽章: 野鳥の風景

LP3 B面 第4楽章: 断頭台への行進
第5楽章: ワルプルギスの夜の夢

収録: 2013年5月18、19、21日、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
録音: 24bit/48kHz

2018年
7月中旬
発売予定



★2014年1月20日に亡くなった指揮者クラウディオ・アバド。カラヤン亡き後、1990年から2002年までの12年間、ベルリン・フィルの首席指揮者・音楽監督を務めました。退任後も楽団との良好な関係を築き、定期的に指揮台に上がっていました。この録音は、「クラウディオ・アバド〜ザ・ラスト・コンサート」と題し、2013年5月にアバドがベルリン・フィルに最後に客演した際の演奏を取ったもの。メンデルスゾーン《真夏の夜の夢》(序曲および6曲)およびベルリオーズ《幻想交響曲》が収録されています。
当ディスクのコンセプトは、ベルリン・フィル団員のアバドへの思い出が詰まった「アルバム」。このLP盤の装丁も、格調高い赤の布張りハードカバーで、ブックレットにはプライベートを含む様々な写真が散りばめられています。その多くが、これまでに非公開だったもの。当時の楽団員や、共演のポリュニ、ハレンボイム、ブレンデルなどのリハーサル風景。またサッカーや卓球を楽しむ姿などファンならずとも嬉しい写真が満載です。
★「アバドは妖精の世界を見ることができると評された演奏はもちろんのこと、総じてベルリン・フィルのアバドの思い出が、凝縮されており、「アルバム」の名に相応しい内容となっています。アバド・ファン、アバド時代のベルリン・フィルに関心を持つリスナーには、絶対に見逃せないタイトルと言えるでしょう。

ベルリン・フィル・レコーディングス 好評発売中!



ジョン・アダムズ・エディション
(ハルモニューレ・エディション)
(5枚組CD+Blu-ray Disc)
管弦楽のための「ディクティオン」/管弦楽のための「ロラバウ」/
ヴァイオリンと管弦楽のための「静かなる夜」/管弦楽のための「サマー」/
(バレット)と管弦楽のための「セント・トーマス」
管弦楽のための「スプリング」/管弦楽のための「スプリング」
ジョン・アダムズ (指揮) アラン・ギルバート (指揮)
キール・ペレレンコ (指揮) サイモン・ラトル (指揮)
録音: 2014年17日、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
4CD+2Blu-ray Disc ●KKC 9271/13,000円+税



ベートーヴェン: 交響曲全集 (第1〜9番)
アンネテ・ダッシュ(ソプラノ) エファ・フォーゲル(アルト)
クリスティアン・エムス(テノール)
デニス・ワグネル(バス)
ベルリン放送合唱団、サイモン・ラトル (合唱指揮)
サイモン・ラトル (指揮)
録音: 2013年10月、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
5CD+3Blu-ray Disc ●KKC 9151/13,000円+税
10LP ●KKC 1070/46,200円+税

ベルリン・フィル アジア・ツアー 2017 〜ライヴ・フロム・サントリーホール

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
サー・サイモン・ラトル (指揮)

ユジャ・ワン(ピアノ) チョ・ソンジョン(ピアノ)



ダウンロード・コード
このディスクには、上記のハイレゾ音源(24bit/96kHz)をダウンロードするためのURLとそのパスワードが封入されています。
デジタル・コンサートホール
ベルリン・フィルの映像配信サービス「デジタル・コンサートホール」を7日間無料視聴できるチケット・コードが封入されています。

5SACD Hybrid+1Blu-ray ●KKC 9327/11,000円+税
[Blu-ray] 画面: Full HD 1080/60i 16:9 音声: 2.0PCM Stereo, 5.0DTS-HD Master Audio リージョン: All



シパロフ:
交響曲全集 (第1〜7番)
サー・サイモン・ラトル (指揮)
録音: 2014年12月〜2015年2月、
ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
4CD+2Blu-ray Disc ●KKC 9137/13,000円+税
5SACD Hybrid ●KKC 5823/7,000円+税



シューベルト・エディション
交響曲第1〜8番/ミサ曲第5&6番
歌曲《アルプスノとエストレラ》全曲
ニコラウス・アーネンクール (指揮)
録音: 2003〜04年、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
8CD+1Blu-ray Disc ●KKC 9445/16,000円+税
5SACD Hybrid (交響曲のみ) ●KKC 5791/7,000円+税
8LP (交響曲のみ) ●KKC 1054/32,400円+税



シュマン:
交響曲全集 (第1〜4番)
サー・サイモン・ラトル (指揮)
録音: 2013年2月、11月、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
2CD+1Blu-ray Disc ●KKC 9083/9,000円+税
2SACD Hybrid ●KKC 5461/5,200円+税



J.S.バッハ:「ヨハネ受難曲」
マーチ・バロウ(福音書朗読) ロバート・ウィリアムズ(イース)
カミラ・チャリング(ソプラノ)
マリア・グロウ(メゾソプラノ)
トビ・レター(テノール) トーマス・グスタフ・ホフ(バス)
ベルリン放送合唱団(合唱指揮: サイモン・ラトル)
サー・サイモン・ラトル (指揮) 演出: ビーター・セラー
録音: 2010年2月27日〜3月1日、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
1Blu-ray Disc+2DVD ●KKC 9088/6,900円+税



J.S.バッハ:「マタイ受難曲」
マーチ・バロウ(福音書朗読) クリスティアン・グラーヘル(イース)
カミラ・チャリング(ソプラノ)
マリア・グロウ(メゾソプラノ)
トビ・レター(テノール) トーマス・グスタフ・ホフ(バス)
ベルリン放送合唱団(合唱指揮: サイモン・ラトル)
サー・サイモン・ラトル (指揮) 演出: ビーター・セラー
録音: 2010年4月11日、ベルリン・フィルハーモニー(ライヴ)
1Blu-ray Disc+2DVD ●KKC 9101/6,900円+税